

島原市統計ハンドブック

「長崎県及び島原半島における本市の姿」



平成29年2月

島原市



島原市公式キャラクター
『島原守護神しまばらん』

は じ め に

本ハンドブックは、島原市の自然、人口、経済、観光、福祉、教育など各分野にわたる基本的な統計資料を収録し、本市の現状と推移を明らかにするとともに、島原半島3市の比較や、本市が長崎県及び島原半島の中でどのような位置付けにあるのかを把握し、現代的課題を客観的に見つめ直し、今後の市政の推進に役立てようとするものです。

また、島原市の特色あるデータを収集し、島原の魅力を再確認するとともに、島原を訪れるあらゆる人たちへの情報提供など、幅広く利用できることを目的としております。

使 用 上 の 注 意

計数については、単位未満を四捨五入で表示しているため、総数と内訳の合計が一致しない場合があります。このため、表間においても、数値が一致しない場合がありますのでご注意ください。

人口対比については、統計データの抜粋及び特に指示をしている場合を除き、平成28年3月31日の住民基本台帳人口により算出しています。

目 次

1. 土地、自然

(1) 島原市の位置	1
(2) 島原市の主な山	1
(3) 島原市の主な河川	1
(4) 島原市の面積	2
(5) 島原市の海岸線	2
(6) 道路延長	2

2. 人口、世帯

(1) 島原市の人口、世帯の現状	3
(2) 島原半島及び長崎県の人口及び世帯の現状	5
(3) 産業別就業人口の現状	8
(4) その他の人口に関する資料	12

3. 産業・経済

(1) 経済活動別総生産	13
(2) 商業統計調査「小売業、卸売業」	15
(3) 工業「製造業」	22
(4) 事業所・企業統計、経済センサス	26
(5) 農業関係	29
(6) 林業関係	32
(7) 水産業関係	33
(8) 本市の主な農水産物の状況	35

4. 観光

(1) 観光客数	36
(2) 公共交通機関利用状況	37
(3) 各観光施設の入場者等の状況	38
(4) 文化財の観光客の状況	40
(5) イベント参加者の状況	41
(6) 温泉施設の利用状況	44
(7) 島原の郷土料理、特産品、名品ブランド	46

5. 社会福祉、保健、環境

(1) 生活保護の状況	49
-------------	----

(2) 保育園・幼稚園の状況	49
(3) 医療の状況	50
(4) ゴミの状況	51
6. 教育、文化	
(1) 小学校の状況	52
(2) 中学校の状況	52
(3) 高等学校の状況	53
(4) 特別支援学校の状況	53
(5) 図書館の状況	53
(6) 文化財の状況	54
7. 市民生活	
(1) 居住、安全	55
(2) 水道	55
(3) 町内会・自治会	56
8. 財政	
(1) 歳入、歳出	57
(2) 地方債、積立金	58
(3) 各種指数	60
(4) 平成27年度決算内訳の比較	61
9. 市政の状況	
(1) 国、県の指定状況	63
(2) 今後予定されている大型事業	63
10. 我がまち自慢	
(1) 島原市の日本一、日本初など全国ランクで上位に該当するもの	64
(2) 島原市の長崎県一、長崎県初など県ランクで上位に該当するもの	65
(3) その他	65

1. 土地、自然

(1) 島原市の位置

① 島原市の東西南北端点

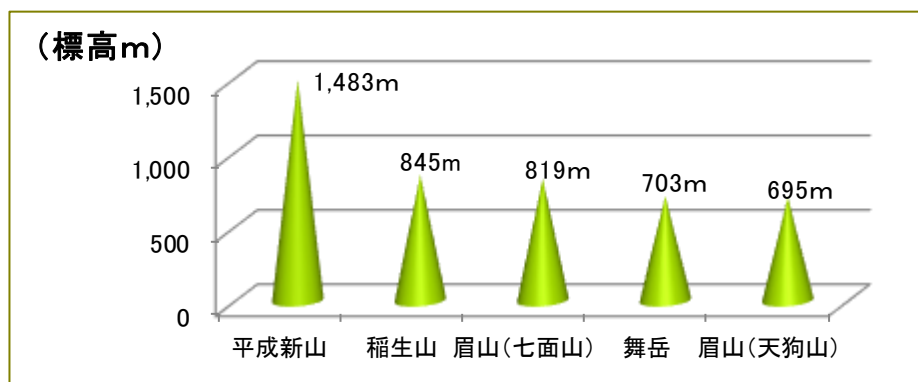
東端	北緯32度46分18秒	東経130度23分13秒
西端	北緯32度46分21秒	東経130度16分23秒
南端	北緯32度44分14秒	東経130度22分25秒
北端	北緯32度52分01秒	東経130度19分13秒

② 市役所の位置

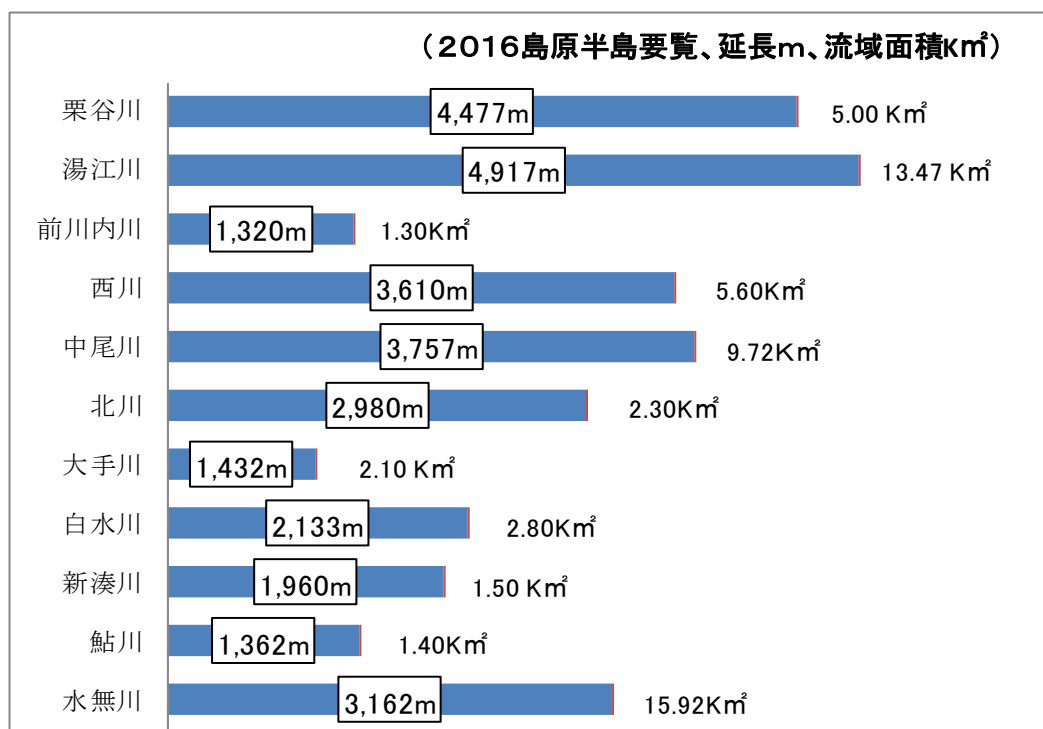
北緯 32度47分17秒

東経 130度22分14秒

(2) 島原市の主な山



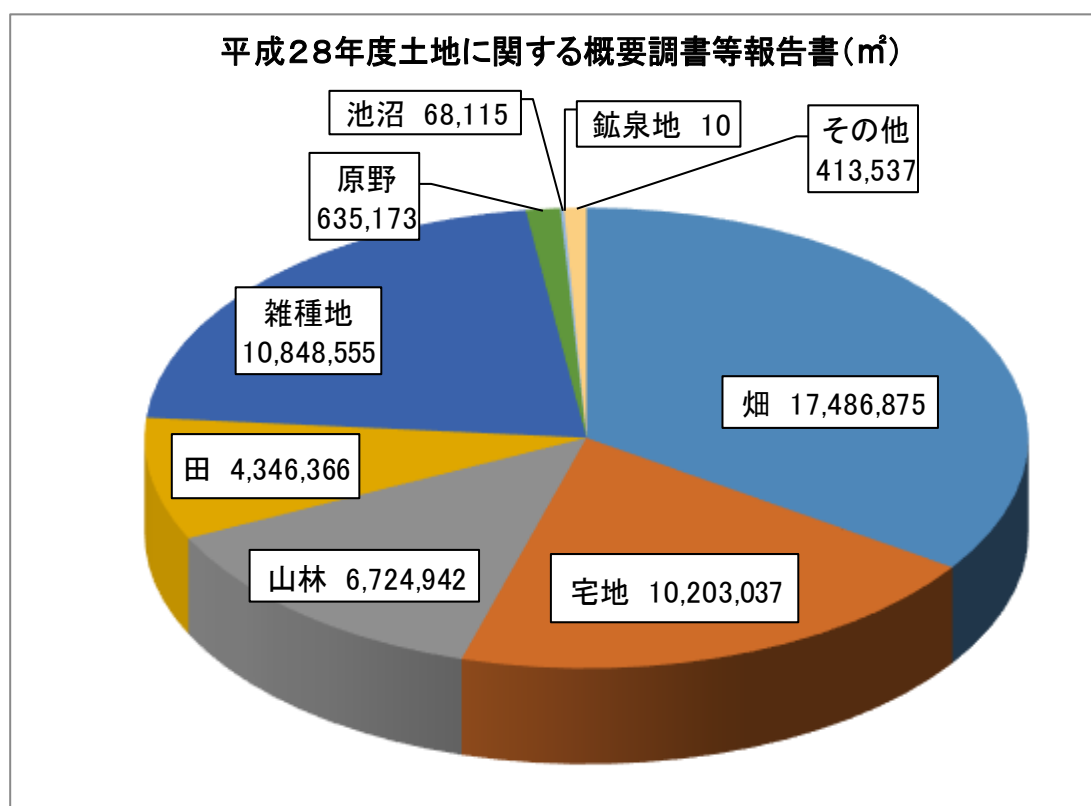
(3) 島原市の主な河川（北側から順に記載）



(4) 島原市の面積「全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院公表 H27.10.1現在）」

	面積 (km ²)	島原半島における割合 (%)	長崎県における割合 (%)
島原市	82.97	17.8	2.0
雲仙市	214.31	45.9	5.2
南島原市	170.11	36.4	4.1
島原半島	467.39	100.0	11.3
長崎県	4,132.09		

「※参考 島原市の地目別土地面積」



地目別土地面積には、国有林、里道、水路の地積は含まれていない。

(5) 島原市の海岸線（平成28年4月1日現在）

のべ延長 32,044m

(6) 道路延長（平成28年4月1日現在）

島原市内の市道総延長 542,223m

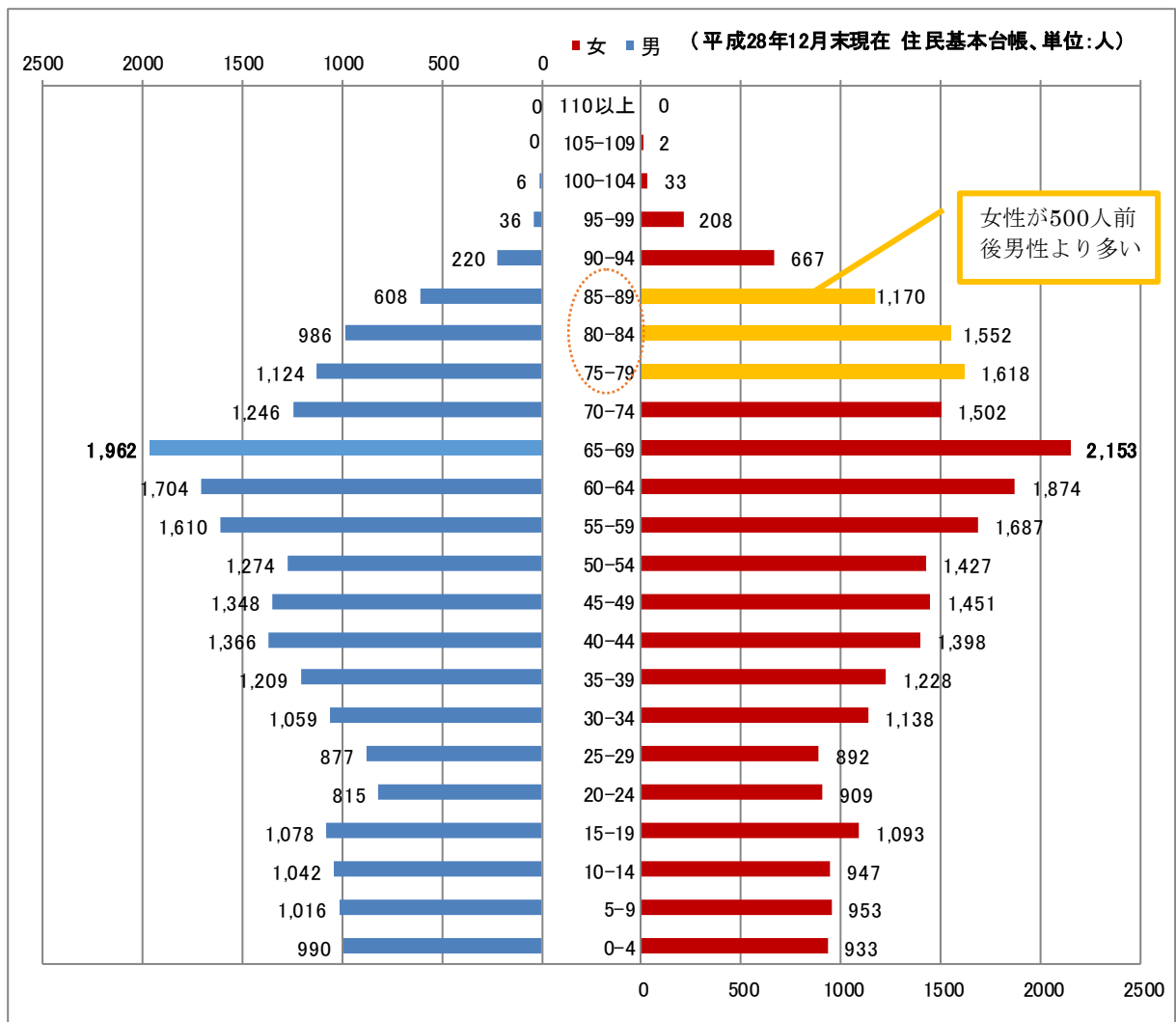
島原市内の県道総延長 43,092.5m

島原市内の国道総延長 22,720.4m

2. 人口、世帯

(1) 島原市の人口、世帯の現状

① 年齢区分ごと男女別人口



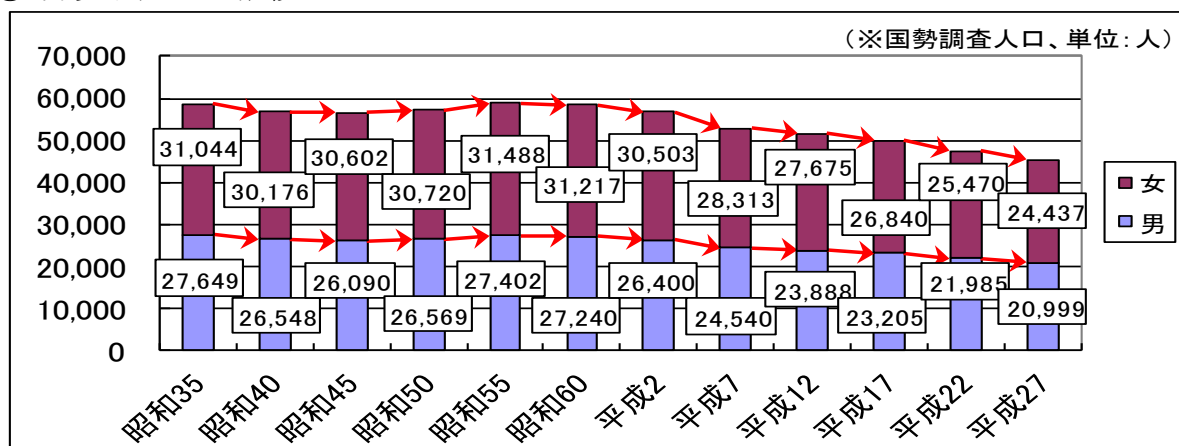
年齢区分	人口(単位:人)
0～19歳	8,052
20～39歳	8,127
40～59歳	11,561
60～79歳	13,183
80～99歳	5,447
100歳以上	41
合 計	46,411

本市の年齢区分ごとの人口は、20年代ごとに区分した場合、60～79歳の人口が一番多く、若くなるに従って少なくなっている。

20～24歳の人口が15～19歳の人口と比較して急に少なくなっているが、高校卒業後の若者の流出が考えられる。

男女で比較した場合、14歳までの年齢区分までは男が多いが、それ以上の年齢区分では、女が多くなっている。特に75～79歳、80～84歳、85～89歳では女性が490人から560人近く多くなっている。

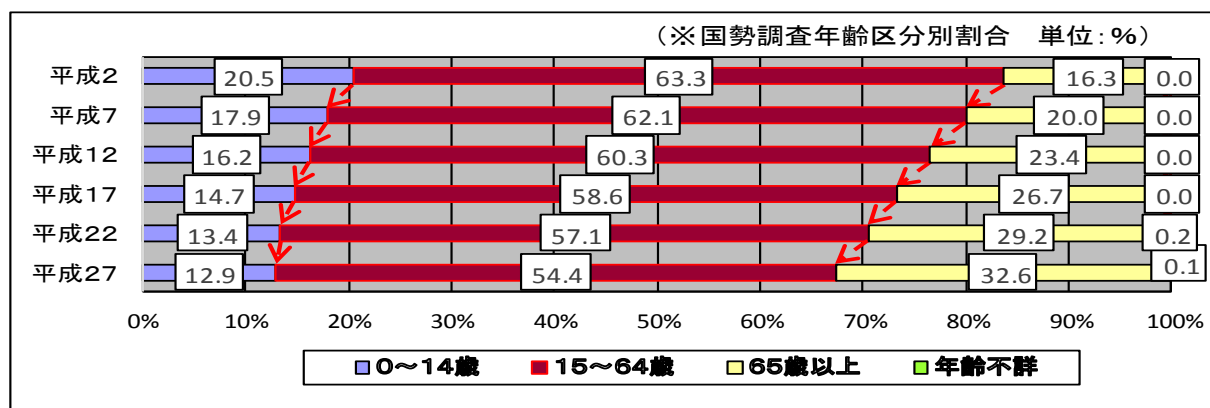
② 男女別人口の推移



(※国勢調査・・・10月1日現在における「人口及び世帯」に関する各種の調査)

本市の国調人口は、昭和55年（1980年）をピークとして、減少の傾向にあり平成2年以降は急激に減少していることがうかがえる。

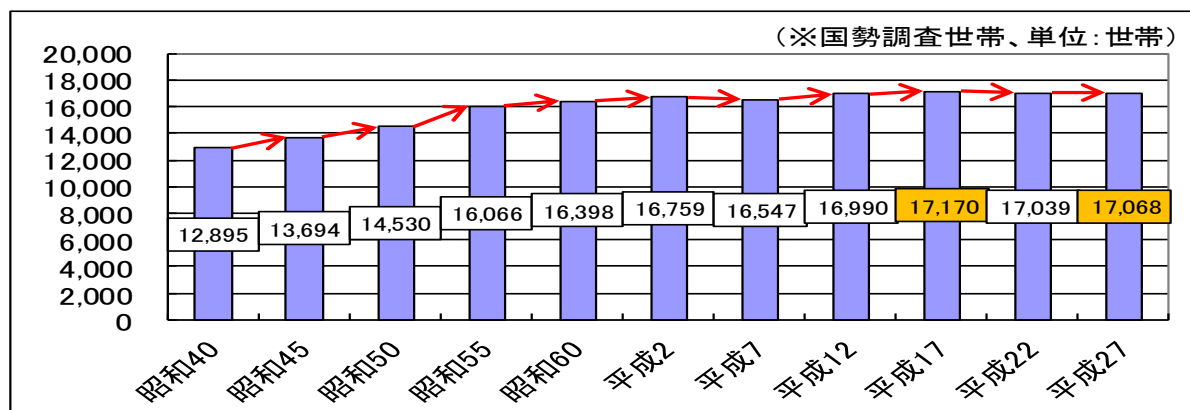
③ 年齢区分別人口割合の推移



年齢区分別人口の割合は、0～14歳の人口は急激に減少し、65歳以上の人口は急激に増加している。

なお、平成27年国勢調査においては、年齢不詳が0.1%ある。

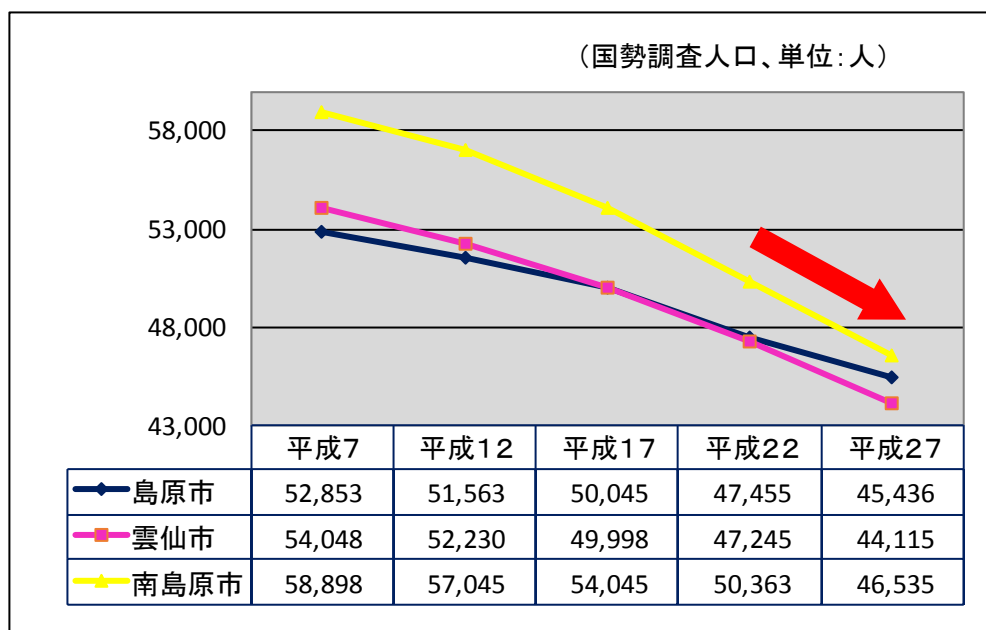
④ 世帯数の推移



世帯数については、人口の減少傾向にも関わらず増加の傾向にあり、核家族化が進んでいることがうかがえる。平成27年国勢調査では、前回と比較して若干増加している。

(2) 島原半島及び長崎県の人口及び世帯の現状

① 総人口の推移（島原半島 3 市）



島原半島の人口は、3市とも減少の傾向にあるが、特に南島原市の減少率は顕著である。

※参考

H27. 12. 31 現在の
本市の住民基本台帳
人口は 46, 876 人

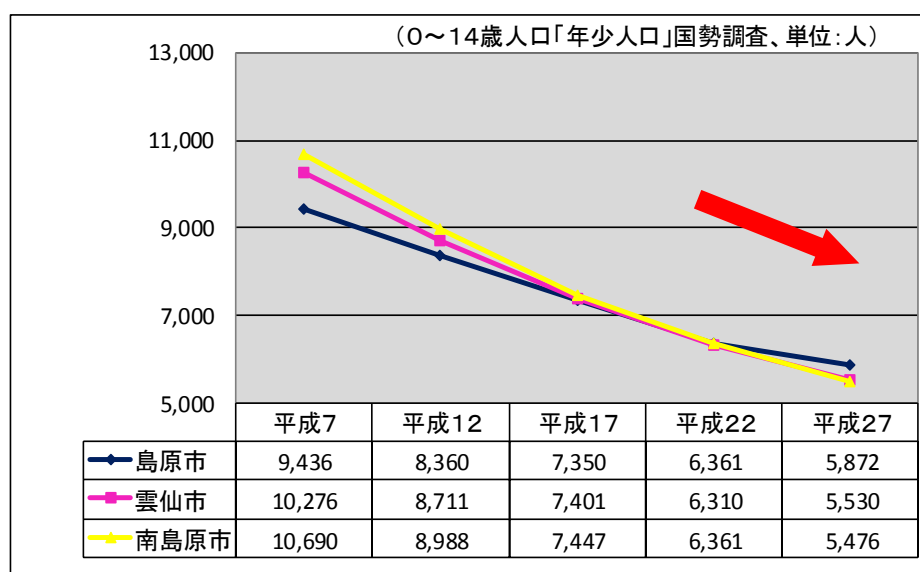
【長崎県及び島原半島における本市総人口の割合】

	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
長崎県	1,544,934	1,516,523	1,478,632	1,426,779	1,377,187
本市の割合	3.4%	3.4%	3.4%	3.3%	3.3%
島原半島	165,799	160,838	154,088	145,063	136,086
本市の割合	31.9%	32.1%	32.5%	32.7%	33.4%

本市の人口の長崎県における割合はほぼ横ばいであるが、島原半島における割合は、わずかながら増加の傾向にある。

② 年齢区分別人口の推移（島原半島 3 市）

【0～14歳人口「年少人口」の推移】



0～14歳以下の人口は、3市とも急激に減少しており、平成7年と平成27年の順位を比較すると逆転現象が生じている。

※参考

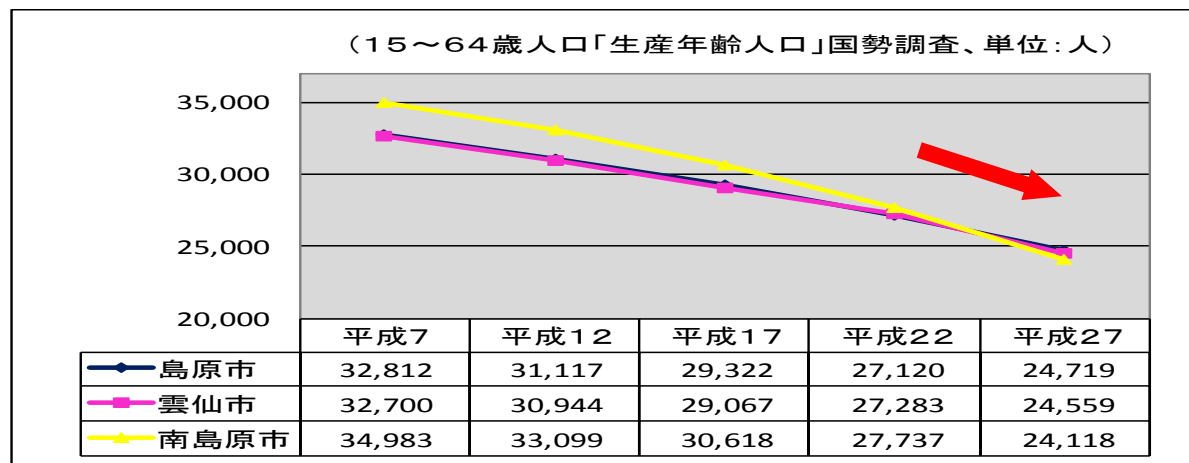
H27. 12. 31 現在の
本市の0～14歳の
住民基本台帳人口は
5, 981 人

【長崎県及び島原半島における本市0～14歳人口の割合】

	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
長崎県	277,263	243,046	215,987	193,428	177,562
本市の割合	3.4%	3.4%	3.4%	3.3%	3.3%
島原半島	30,402	26,059	22,198	19,032	16,878
本市の割合	31.0%	32.1%	33.1%	33.4%	34.8%

本市の0～14歳の人口の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合では増加の傾向にある。

【15～64歳人口「生産年齢人口」の推移】



15歳から64歳の人口は、3市とも減少傾向にある。

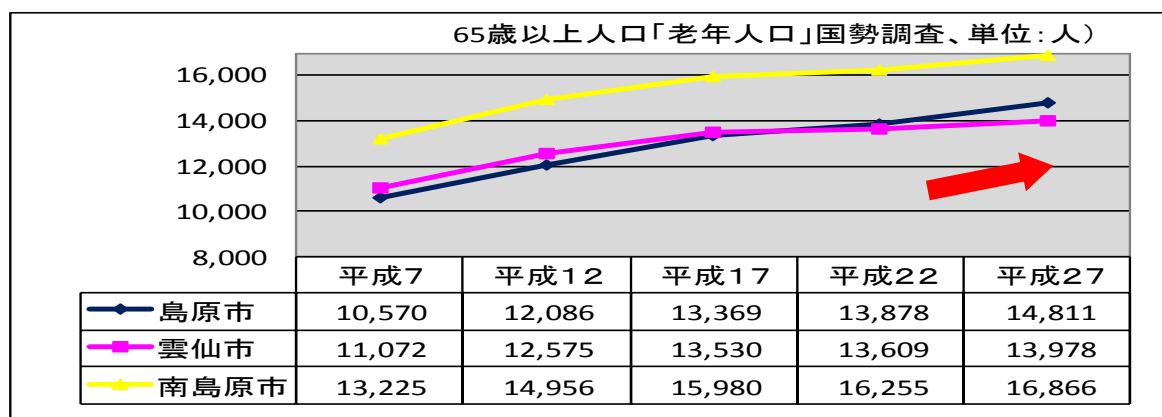
※参考 H27. 12. 31現在の15～64歳の本市住民基本台帳人口は、25,984人

【長崎県及び島原半島における本市15～64歳人口の割合】

	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
長崎県	993,783	956,692	913,224	857,416	784,862
本市の割合	3.3%	3.3%	3.2%	3.2%	3.1%
島原半島	100,495	95,160	89,007	82,140	73,396
本市の割合	32.7%	32.7%	32.9%	33.0%	33.7%

本市の15～64歳の人口の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合は、わずかながら増加の傾向にある。

【65歳以上人口「老年人口」の推移】



65歳以上の人口は、3市とも急激に増加している。

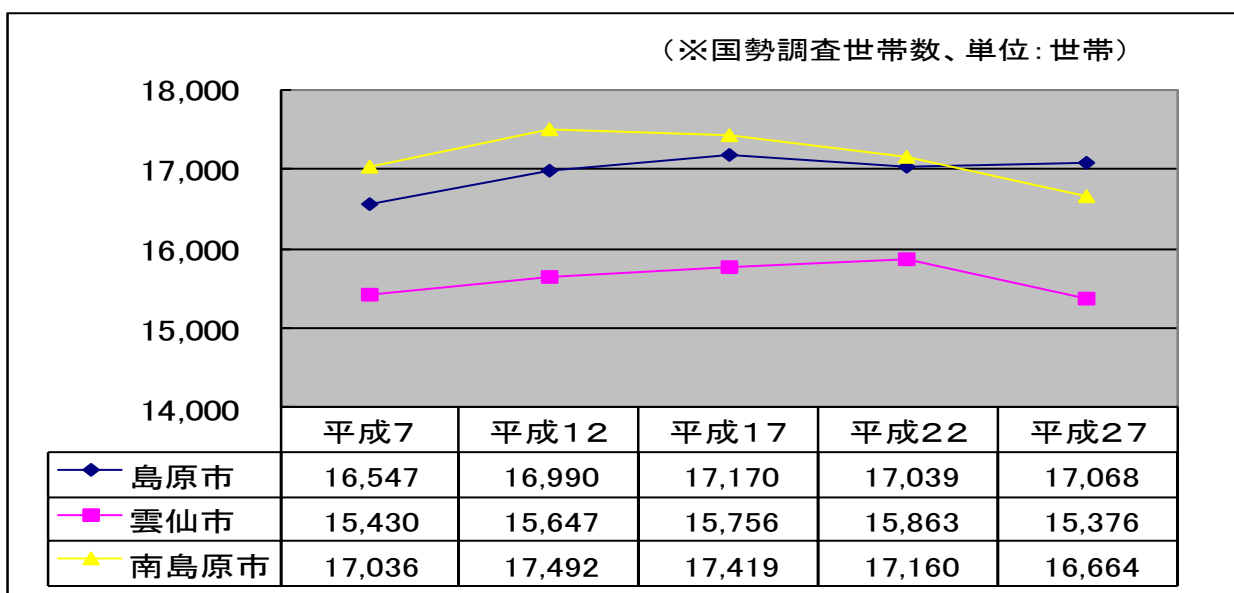
※参考 H27. 12. 31現在の65歳以上の本市住民基本台帳人口は、14,911人

【長崎県及び島原半島における本市65歳以上人口の割合】

	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
長崎県	273,335	315,871	348,820	369,290	404,686
本市の割合	3.9%	3.8%	3.8%	3.8%	3.7%
島原半島	34,867	39,617	42,879	43,742	45,655
本市の割合	30.3%	30.5%	31.2%	31.7%	32.4%

本市の65歳以上の人口の長崎県における割合は減少の傾向にあるが、島原半島における割合は、増加の傾向にある。

③ 世帯数の推移（島原半島3市）



世帯数については、3市ともわずかに増減があるが、総人口は減少傾向にあるため、核家族化が進んでいることがうかがえる。

【長崎県及び島原半島における本市世帯数の割合】

	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
長崎県	529,872	544,878	553,620	558,660	560,720
本市の割合	3.1%	3.1%	3.1%	3.0%	3.0%
島原半島	49,013	50,129	50,345	50,062	49,108
本市の割合	33.8%	33.9%	34.1%	34.0%	34.8%

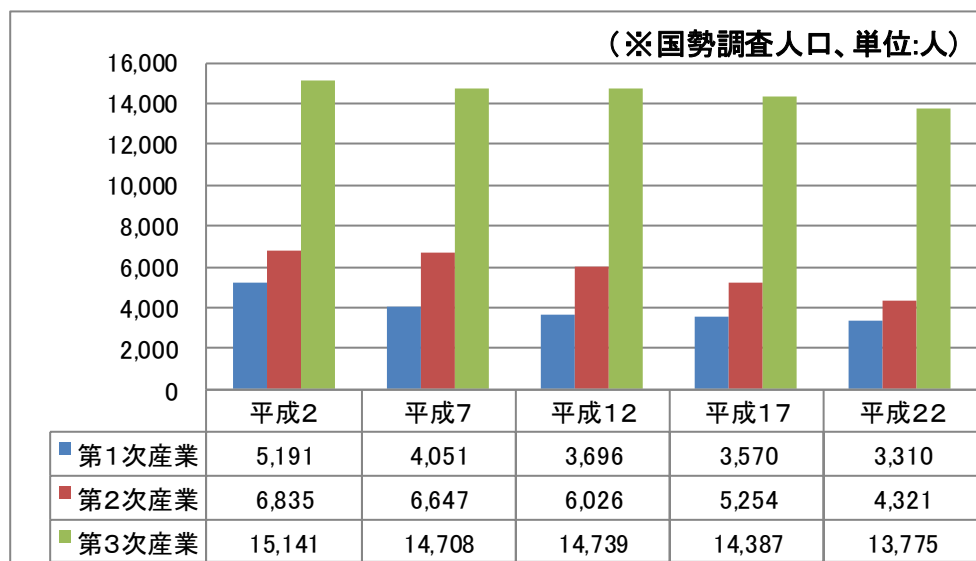
本市の世帯数の長崎県における割合は横ばいの状態にあるが、島原半島における割合はわずかに増加している。



(3) 産業別就業人口の現状 (※ H27年国勢調査はH29年4月公表予定)

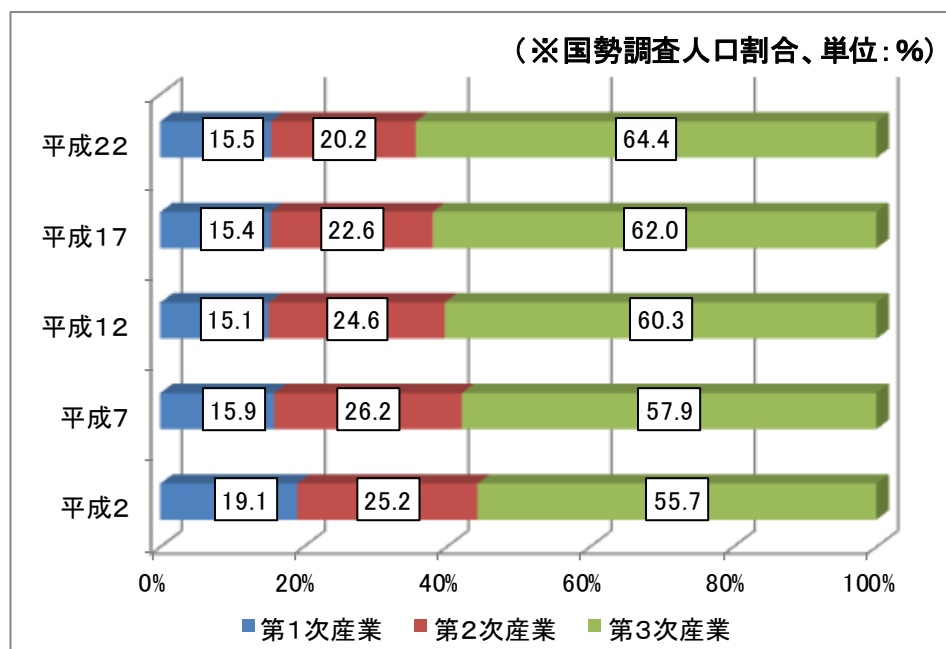
① 島原市の現状

【産業別就業人口の推移】



本市の産業別就業人口は、それぞれ減少傾向にあるが、特に、第1次産業の就業人口が大きく減少している。分類不能産業未算入のため、11ページの合計とは合わない。

【産業別就業人口の割合の推移】



本市の産業別就業人口の構成比は、第1次産業は平成12年以降増加、第2次産業は平成7年以降減少、第3次産業は増加の傾向にある。

【産業分類別就業人口の推移（国勢調査）】

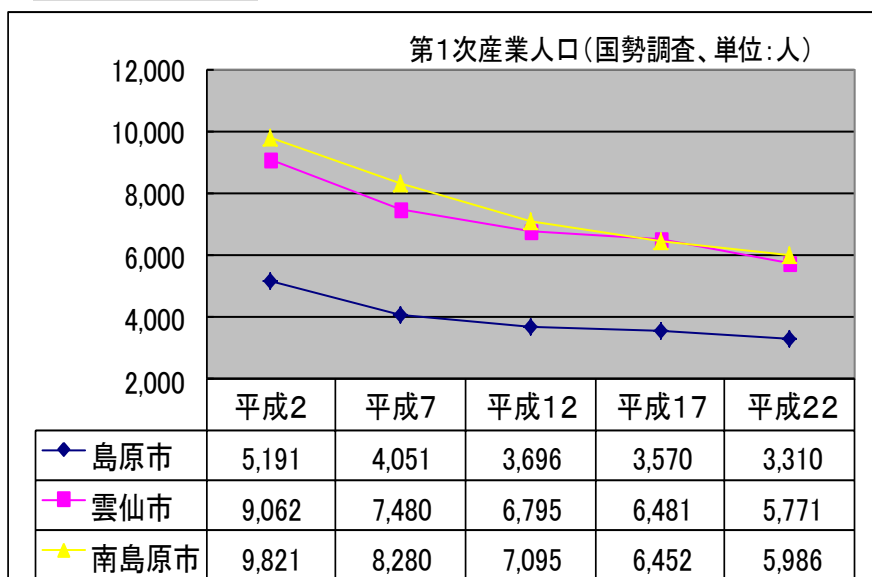
産業分類	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
農業	4,347	3,371	3,173	3,116	2,956
林業	23	15	11	13	14
漁業	821	665	512	441	340
第1次産業計	5,191	4,051	3,696	3,570	3,310
鉱業	5	4	5	7	1
建設業	2,439	2,825	3,037	2,513	1,920
製造業	4,391	3,818	2,984	2,734	2,400
第2次産業計	6,835	6,647	6,026	5,254	4,321
電気・ガス・水道	112	97	107	78	71
運輸・通信業	1,287	1,146	992	800	909
卸売・小売・飲食業	5,851	5,543	5,550	5,328	4,808
金融保険業	598	517	466	407	358
不動産業	62	73	66	68	127
医療・福祉	(下欄に含まれる)	(下欄に含まれる)	(下欄に含まれる)	3,101	3,407
サービス業	6,296	6,345	6,663	3,788	3,287
公務・その他	935	987	895	817	808
第3次産業計	15,141	14,708	14,739	14,387	13,775

本市の産業分類別の人口は、第1次産業では農業、第2次産業では建設業及び製造業が、第3次産業では卸売・小売・飲食業およびサービス業が多い。

前回と比較して増加しているのは、林業、運輸・通信業、不動産業である。

② 産業別就業人口の推移（島原半島3市）

【第1次産業人口】



第1次産業人口は、3市とも減少の傾向にある。

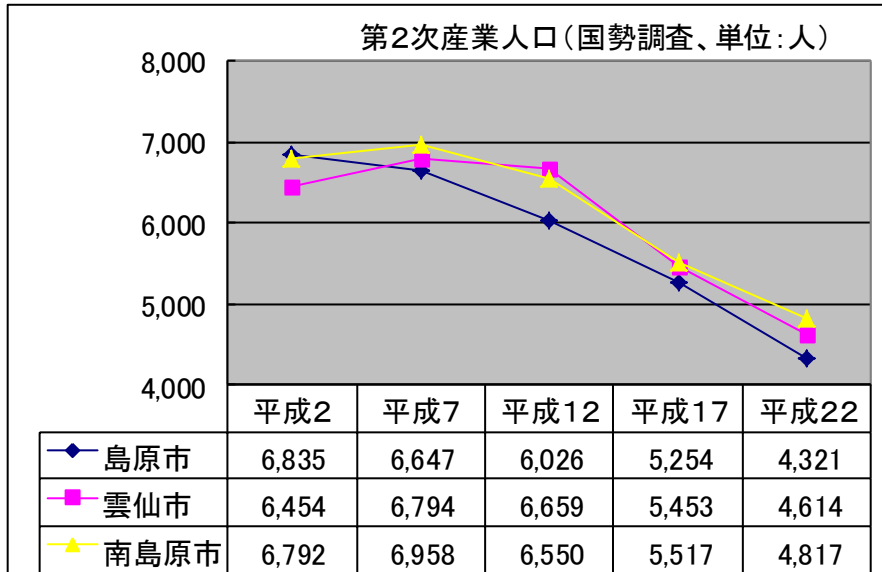
参考 島原市の平成22年の人口は平成2年の63.8%となっている。

【長崎県及び島原半島における本市第1次産業人口の割合】（単位：人）

	平成2	平成7	平成12	平成17	平成22
長崎県	96,896	80,544	67,198	62,011	51,695
本市の割合	5.4%	5.0%	5.5%	5.8%	6.4%
島原半島	24,074	19,811	17,586	16,503	15,067
本市の割合	21.6%	20.4%	21.0%	21.6%	22.0%

本市の第1次産業人口の長崎県及び島原半島における割合は、平成7年を境に増加の傾向にある。

【第2次産業人口】



第2次産業人口は、3市とも平成7年以降は減少の傾向にある。

※参考

島原市の平成22年の人口は平成2年の63.2%となっている。

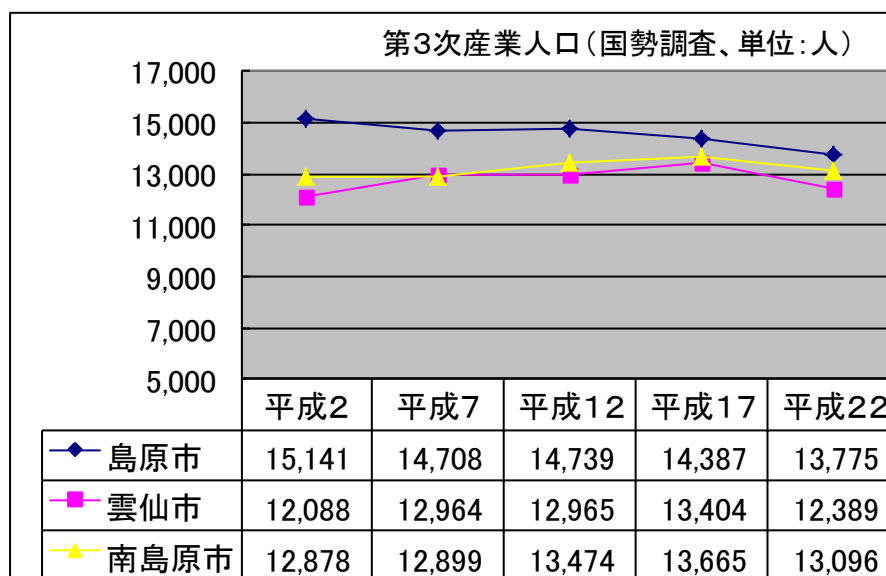
【長崎県及び島原半島における本市第2次産業人口の割合】

(単位:人)

	平成2	平成7	平成12	平成17	平成22
長崎県	174,147	179,102	165,956	140,390	127,183
本市の割合	3.9%	3.7%	3.6%	3.7%	3.4%
島原半島	20,081	20,399	19,235	16,224	13,752
本市の割合	34.0%	32.6%	31.3%	32.4%	31.4%

本市の第2次産業人口の長崎県における割合及び島原半島における割合は、減少の傾向にある。

【第3次産業人口】



第3次産業人口は、島原市は減少の傾向にあるが、雲仙市、南島原市は平成17年を境に減少した。

※参考

島原市の平成22年の人口は平成2年の91.0%となっている。

【長崎県及び島原半島における本市第3次産業人口の割合】

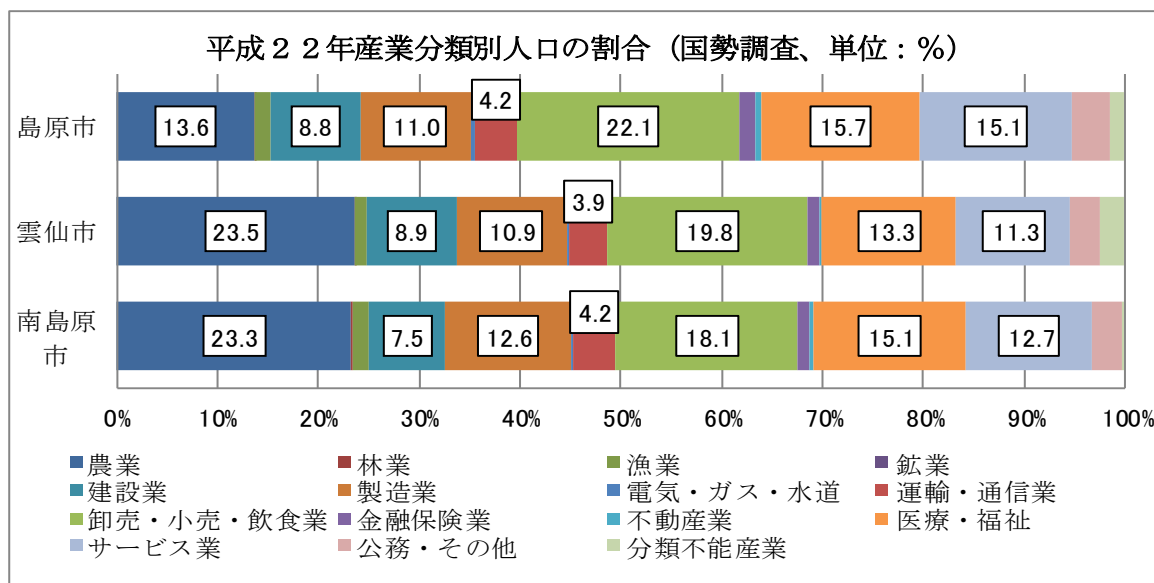
(単位：人)

	平成2	平成7	平成12	平成17	平成22
長崎県	434,701	465,119	466,197	473,801	450,757
本市の割合	3.5%	3.2%	3.2%	3.0%	3.1%
島原半島	40,124	40,596	41,195	41,525	39,260
本市の割合	37.7%	36.2%	35.8%	34.6%	35.1%

本市の第3次産業人口の長崎県における割合及び島原半島内における割合とも、平成2年以降は減少傾向にあったが、平成17年から平成22年にかけては若干増加している。

③ 産業分類別人口の状況（島原半島3市）

【構成比】



産業分類別人口の割合について、主なもののみ数値を掲載。

本市は他の2市と比較して、卸売・小売・飲食業やサービス業の就業人口の割合が高く、農業の就業人口の割合が低いことがうかがえる。

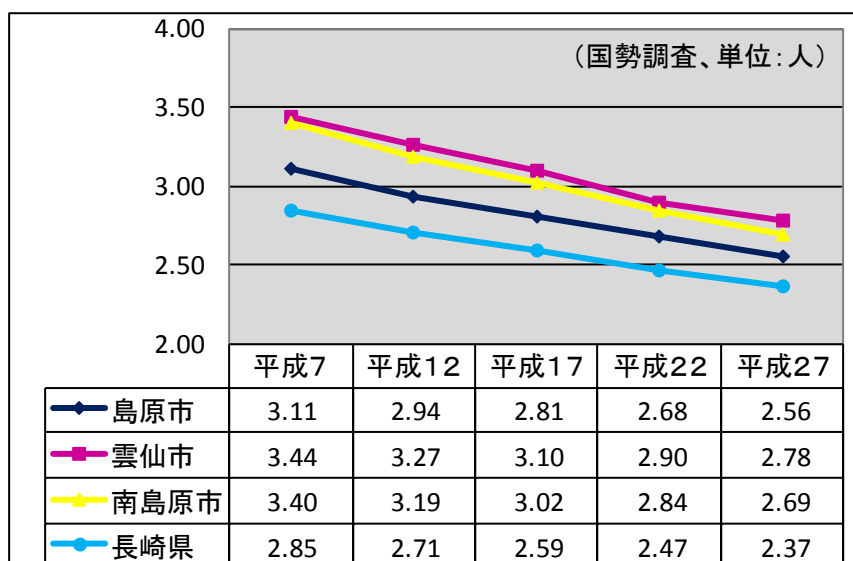
【15歳以上産業分類別人口（平成22年、単位：人）】

項 目	島原市	雲仙市	南島原市
農業	2,956	5,493	5,565
林業	14	22	18
漁業	340	256	403
鉱業	1	3	3
建設業	1,920	2,075	1,801
製造業	2,400	2,536	3,013
電気ガス水道	71	51	55
運輸通信業	909	920	1,004
卸小売・飲食業	4,808	4,614	4,323
金融保険業	358	265	284
不動産業	127	81	67
医療・福祉	3,407	3,102	3,606
サービス業	3,287	2,646	3,029
公務・その他	808	710	728
分類不能産業	330	563	22
合 計	21,736	23,337	23,921

産業分類別人口で比較すると、本市の場合、島原半島3市の中では、電気ガス水道、卸小売・飲食業、金融保険業、不動産業、サービス業、公務・その他の就業人口が一番多くなっている。

(4) その他の人口に関する資料

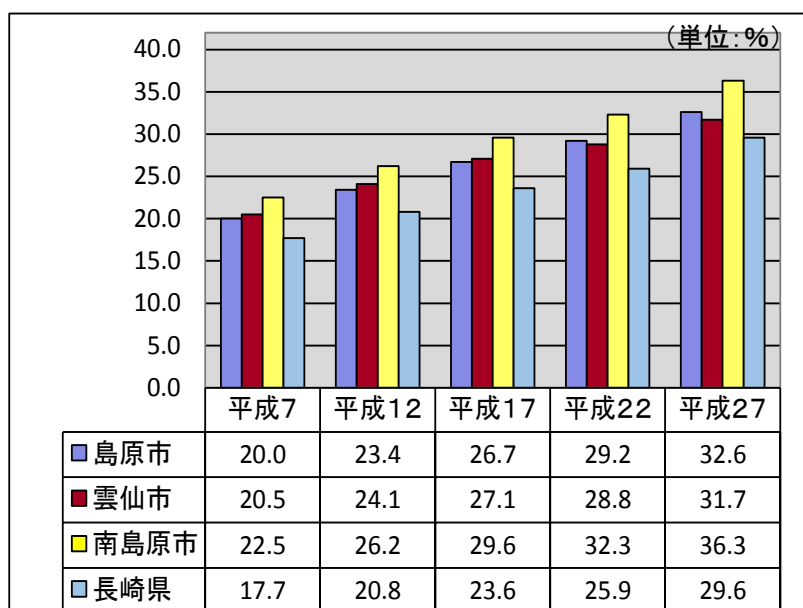
① 一般世帯における1世帯当たり世帯人員の推移（島原半島3市）



1世帯当たりの世帯人員は、世帯数総数から老人ホームなどの社会施設等を除いた一般世帯の世帯数と人口から算出しているため、(2)-①人口を(2)-③世帯数で除した数値とは異なる。

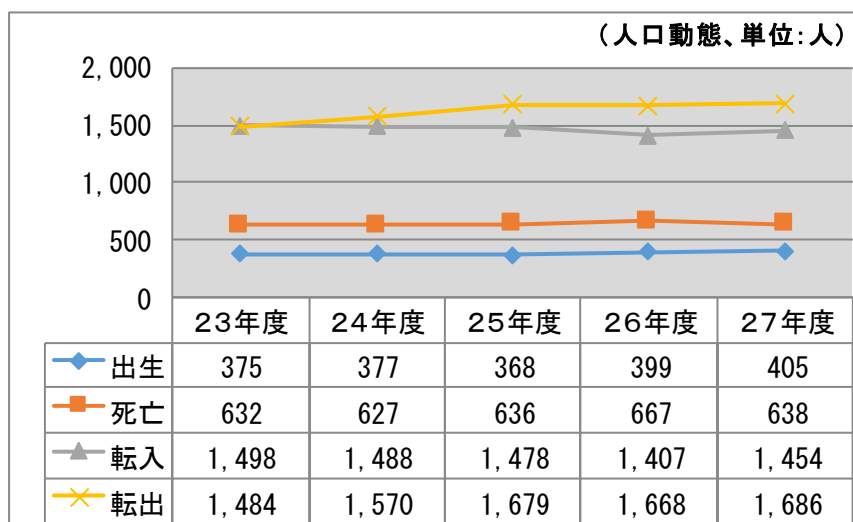
本市においては島原半島他市と比較すると少なく、県全体と比較すると多くなっている。

② 高齢化率の推移（島原半島3市）



高齢化率は、3市及び県全体とも年々高くなっており、平成27年には3市共に高齢化率が3割を超えた。

③ 島原市人口の動態



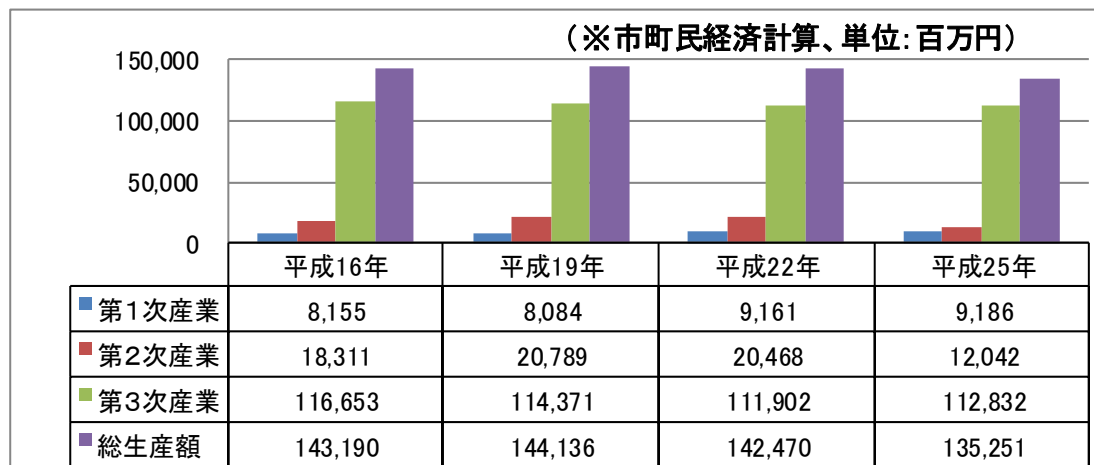
本市は、出生より死亡が、転入より転出が多く、年々人口が減少していることがうかがえる。

3. 産業・経済

(1) 経済活動別総生産

(※平成25年度市町民経済計算・・・市町の1年間の経済活動の実態を総合的・体系的に把握し、地域経済の規模、構造、変化、水準を明らかにしようとする経済指標)

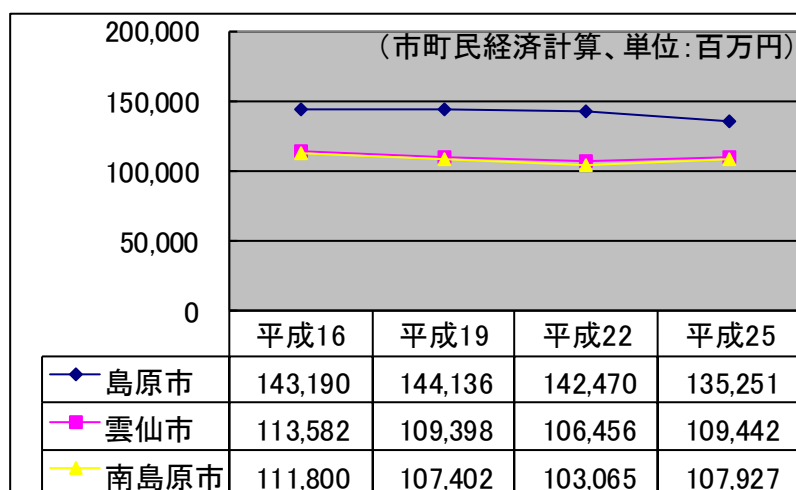
① 経済活動別総生産の推移（島原市）



本市の総生産は平成15年以降減少の傾向にあったが、平成24年に比べ平成25年は減少している。

なお、総生産額は、「輸入品に課される税・関税等」を差し引いた額であるため、第1次産業から第3次産業までの合計とは一致しない。

② 総生産の推移（島原半島3市）



島原半島3市の総生産は、平成25年と平成22年を比べると本市のみ減少している。

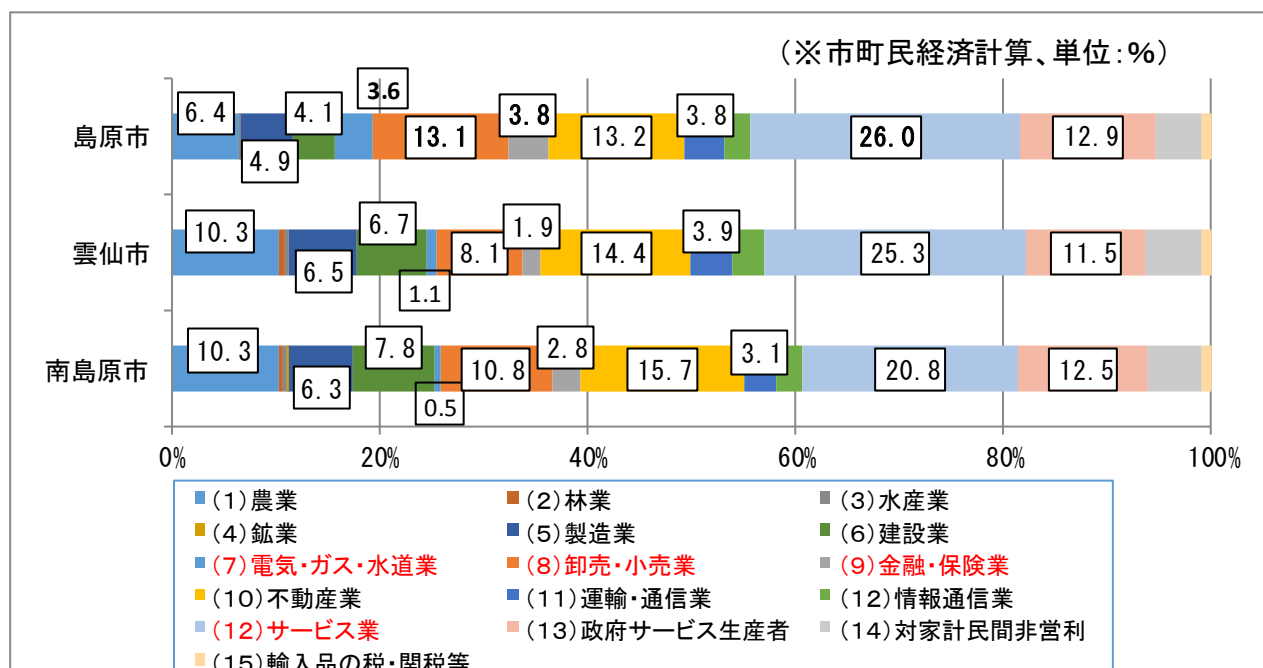
【長崎県及び島原半島における本市総生産の割合】

	平成16	平成19	平成22	平成25
長崎県	4,416,938	4,421,428	4,346,341	4,393,001
本市の割合	3.2%	3.3%	3.3%	3.1%
島原半島	368,572	360,936	351,991	352,620
本市の割合	38.8%	39.9%	40.5%	38.4%

本市総生産の長崎県における割合は横ばい、島原半島における割合は減少となっている。

③ 産業分類別総生産（島原半島3市、平成25年度市町民経済計算）

【総生産割合の比較】



※産業分類別総生産の割合について主なもののみ数値を掲載。

【総生産の比較】

(単位：百万円)

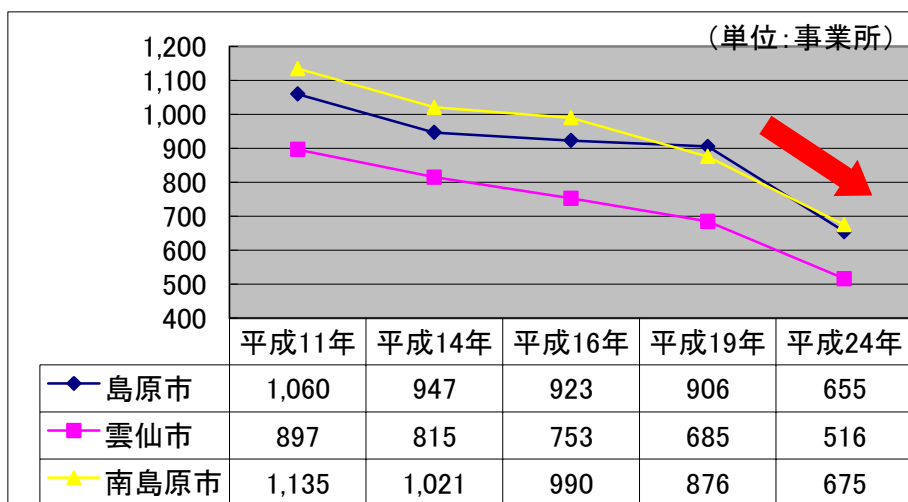
項 目	島原市	雲仙市	南島原市
(1) 農業	8,662	11,315	11,100
(2) 林業	192	660	445
(3) 水産業	332	441	407
(4) 鉱業	—	8	80
(5) 製造業	6,563	7,114	6,793
(6) 建設業	5,479	7,298	8,426
(7) 電気・ガス・水道業	4,915	1,236	566
(8) 卸売・小売業	17,666	8,821	11,675
(9) 金融・保険業	5,185	2,088	2,982
(10) 不動産業	17,798	15,801	16,916
(11) 運輸・通信業	5,140	4,219	3,384
(12) 情報通信業	3,421	3,366	2,676
(12) サービス業	35,228	27,691	22,455
(13) 政府サービス生産者	17,395	12,553	13,477
(14) 対家計民間非営利	6,085	5,865	5,595
(15) 輸入品の税・関税等	1,192	964	951
合 計	135,253	109,442	107,927

産業分類別の額で比較すると、本市は2市より電気・ガス・水道業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、運輸・通信業、情報通信業、サービス業が高いことがうかがえる。

(2) 商業統計調査「小売業、卸売業」（平成24年は「経済センサス活動調査」より）

（※商業統計調査・・・我が国の商業の実態を明らかにするもので、日本標準産業分類「大分類」－卸売・小売業」に属する事業所であって、公営、民営の事業所を対象。平成21年「簡易調査」は廃止されたが、「簡易調査」で把握すべき事項は「経済センサス活動調査」で把握することとし、「本調査」は「経済センサス活動調査」の2年後に実施することとなった。）

① 事業所数の推移（島原半島3市、平成24年経済センサス）



島原半島3市の事業所数については、平成11年以降、3市共に減少している。

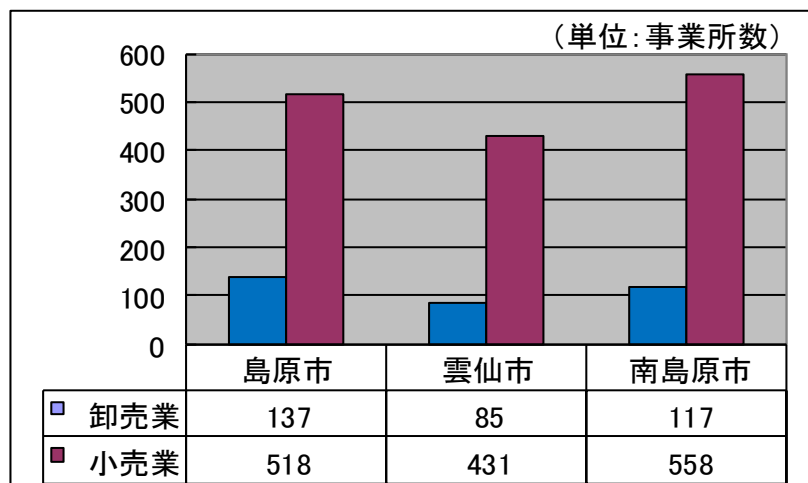
【長崎県及び島原半島における事業所数の割合】

	平成11	平成14	平成16	平成19	平成24
長崎県	25,621	23,569	22,624	20,417	14,384
本市の割合	4.1%	4.0%	4.1%	4.4%	4.6%
島原半島	3,092	2,783	2,666	2,467	1,846
本市の割合	34.3%	34.0%	34.6%	36.7%	35.5%

長崎県及び島原半島における事業所数も減少の傾向にあるため、本市の占める割合もほぼ横ばいの状態となっている。

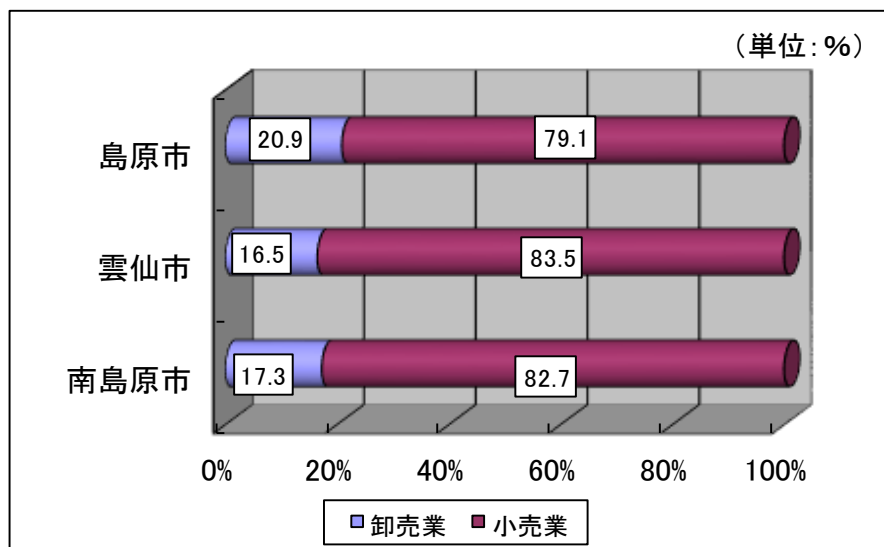
② 事業所数の現状（島原半島3市、平成24年経済センサス）

【事業所数の比較】



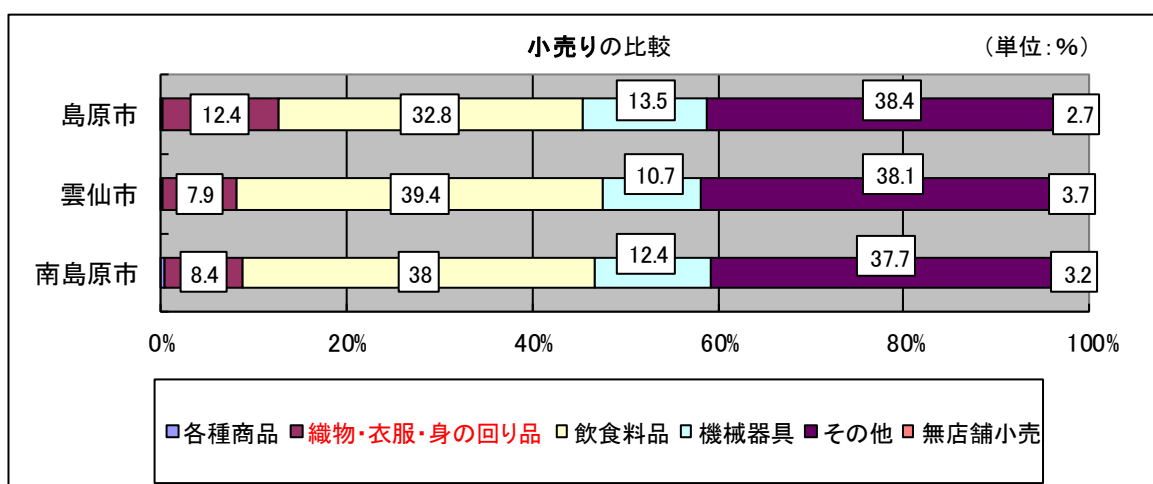
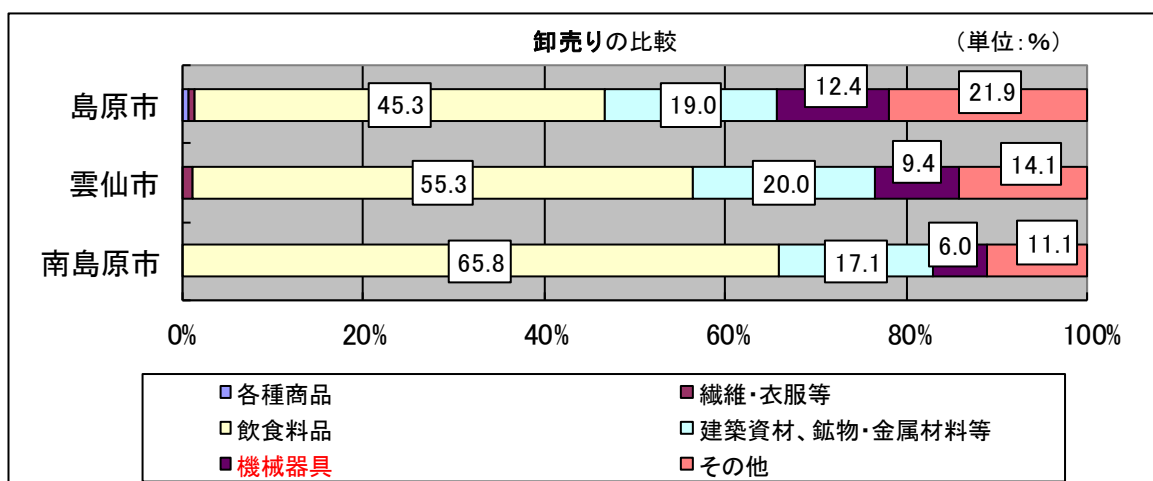
本市は他市と比較して、卸売業の事業所数が多い。

【事業所数の割合】



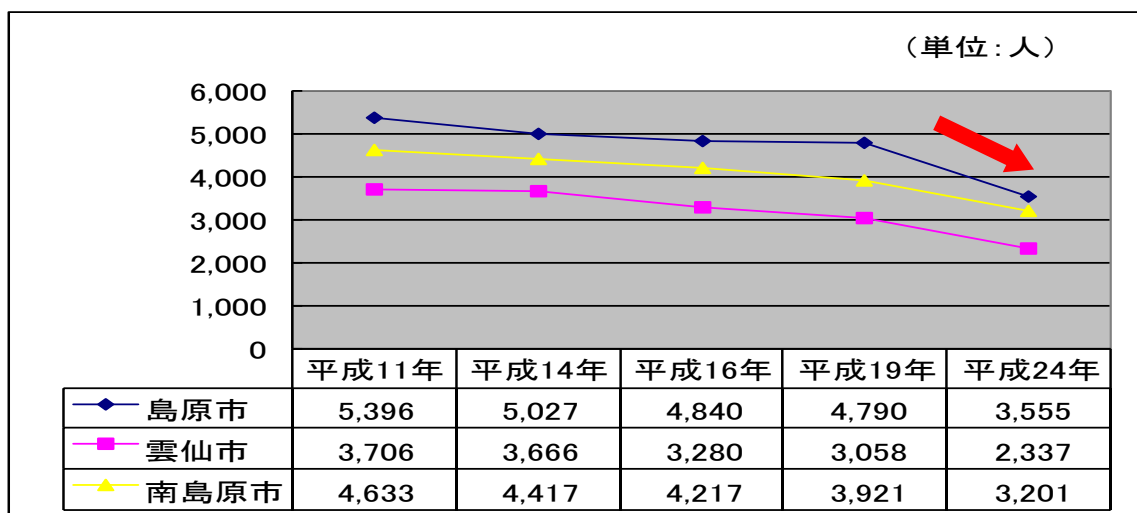
本市は他市と比較して、卸売業の事業所の占める割合が高くなっている。

【業種別事業所数の割合（卸売り・小売り）】



事業所数について、卸売りと小売りに分けて業種別に3市の構成割合を比較した。
本市は、卸売りについては、機械器具の占める割合が、小売りについては繊維・衣服・身の回り品の占める割合が、他市と比較して高くなっている。

③ 従業者数の推移（島原半島３市、平成２４年経済センサス）



従業者数も事業所数と同じで、平成１１年以降は減少の傾向にある。

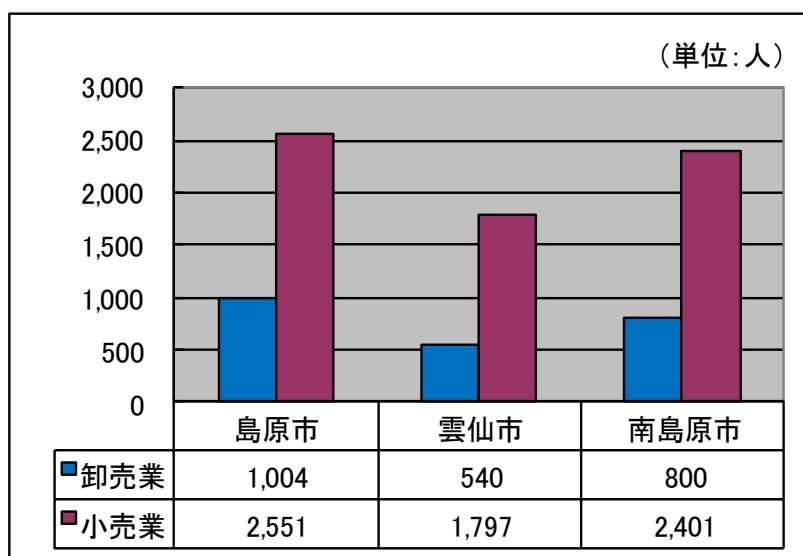
【長崎県及び島原半島における従業者数の割合】

	平成11	平成14	平成16	平成19	平成24
長崎県	138,639	134,487	128,395	118,888	87,291
本市の割合	3.9%	3.7%	3.8%	4.0%	4.1%
島原半島	13,735	13,110	12,337	11,769	9,093
本市の割合	39.3%	38.3%	39.2%	40.7%	39.1%

本市従業者数の長崎県及び島原半島における割合は、ほぼ横ばいの状態となっている。

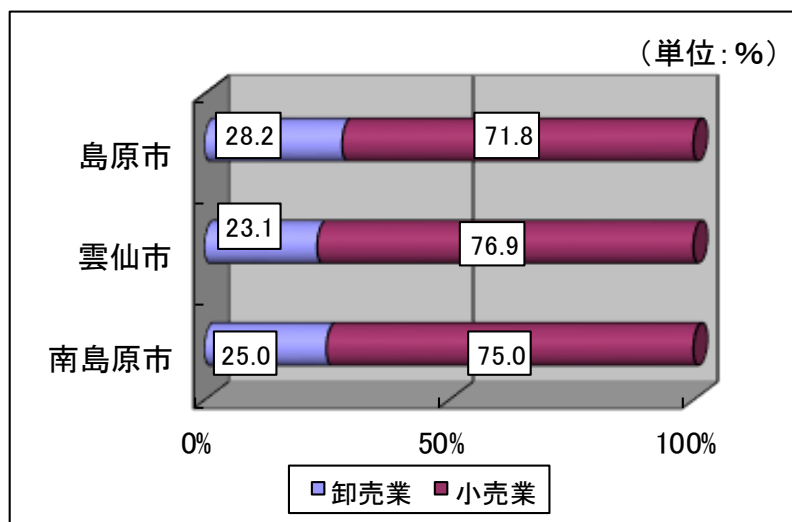
④ 従業者数の現状（島原半島３市、平成２４年経済センサス）

【従業者数の比較】



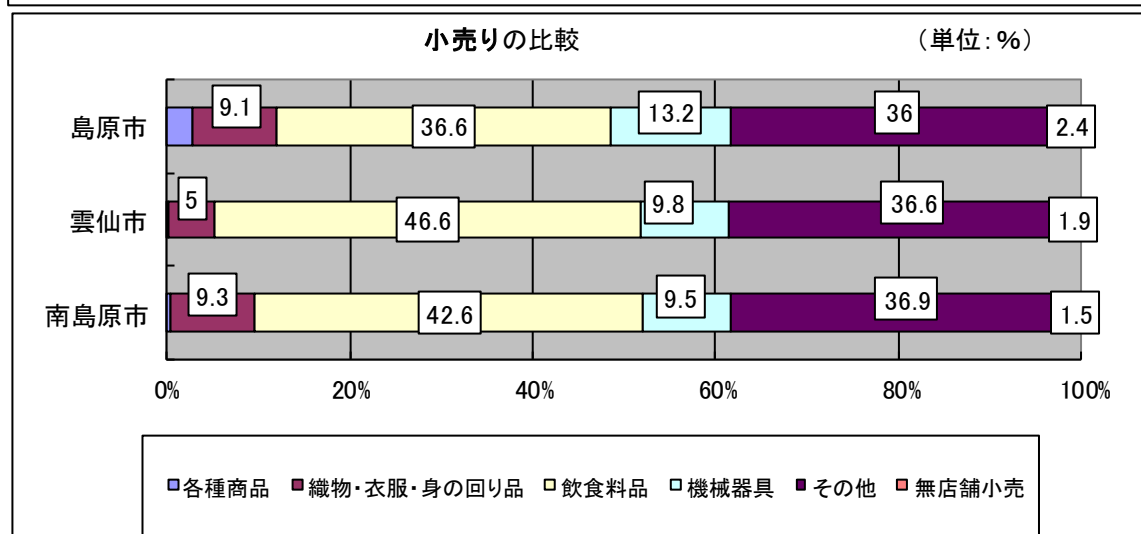
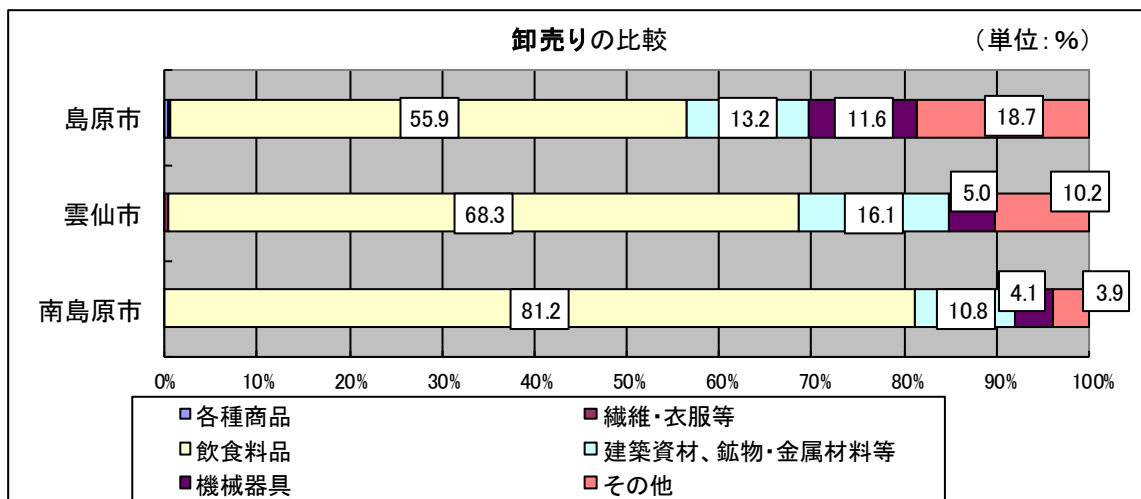
本市は他市と比較して、卸売り及び小売とも、従業者の数が一番多い。

【従業者数の割合】



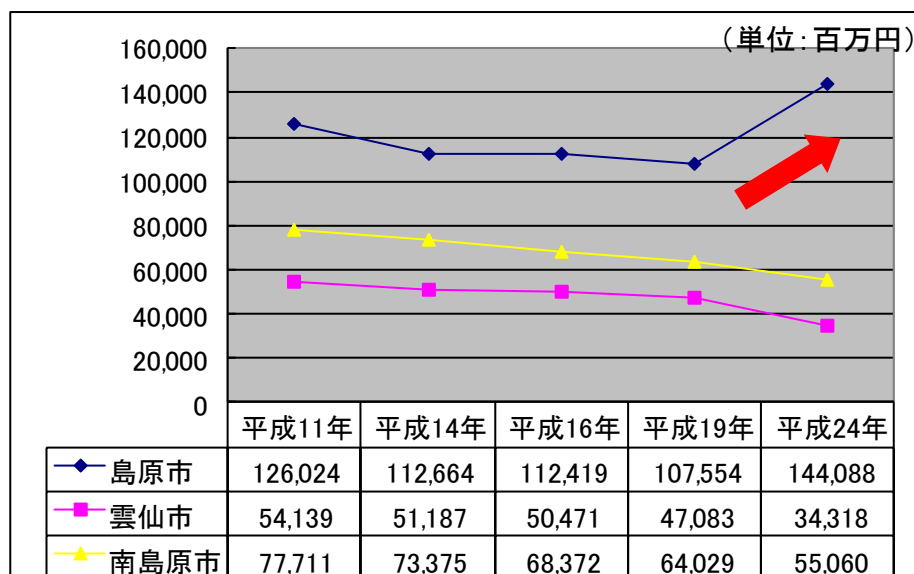
従業者数の割合は、卸売りでは島原市が、小売りでは雲仙市が一番高い数値となっている。

【業種別従業者数の割合（卸売り・小売り）】



従業者数について、本市と他の市と比較して、卸売り・小売り共に機械器具の占める割合が高い。

⑤ 年間商品販売額の推移（島原半島3市、平成24年経済センサス）



年間商品販売額は、平成11年以降は3市とも減少の傾向にあったが、本市は平成19年に比べ、平成24年は大幅に増加している。

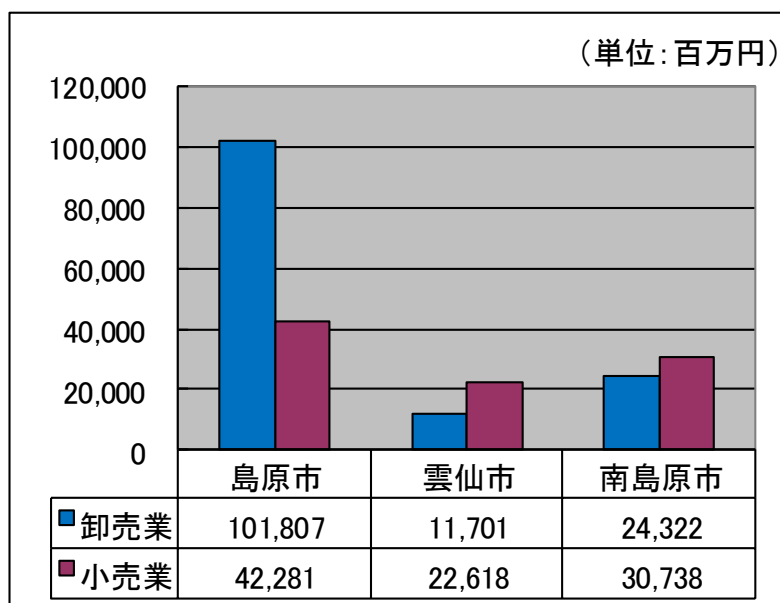
【長崎県及び島原半島における年間商品販売額の割合】

	平成11	平成14	平成16	平成19	平成24
長崎県	3,788,907	3,298,063	3,359,017	3,024,438	2,668,721
本市の割合	3.3%	3.4%	3.3%	3.6%	5.4%
島原半島	257,874	237,226	231,262	218,666	233,466
本市の割合	48.9%	47.5%	48.6%	49.2%	61.7%

本市の年間商品販売額の県内及び島原半島に占める割合は、増加の傾向にある。特に島原半島内の販売額の約60%を占めている。

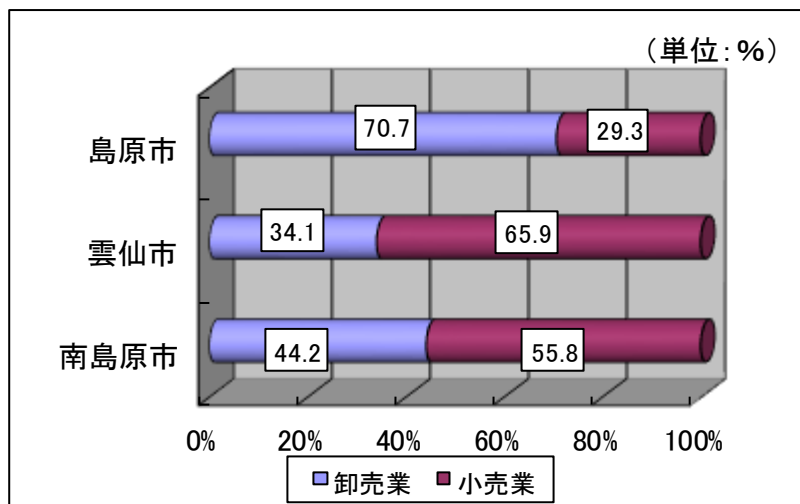
⑥ 年間商品販売額の現状（島原半島3市、平成24年経済センサス）

【年間商品販売額の比較】



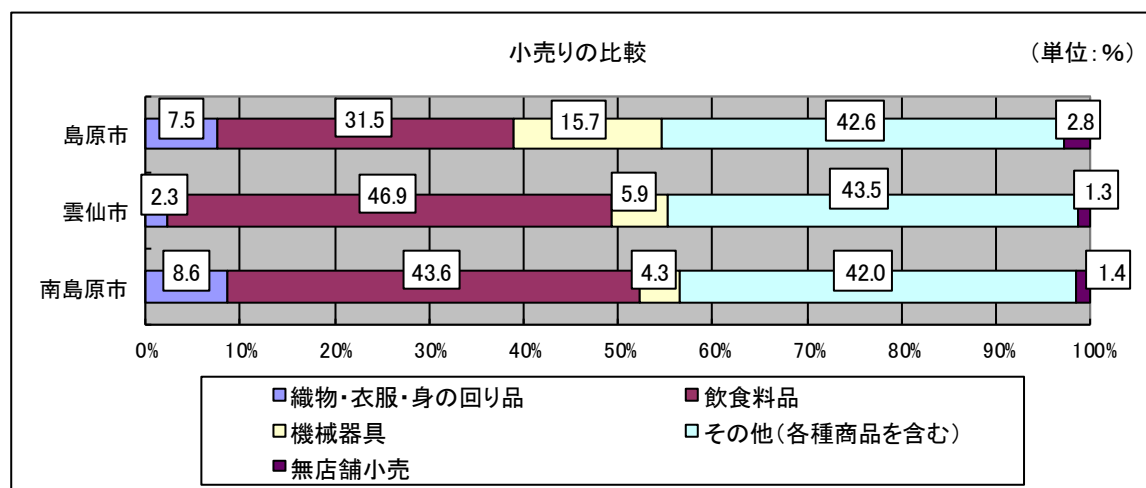
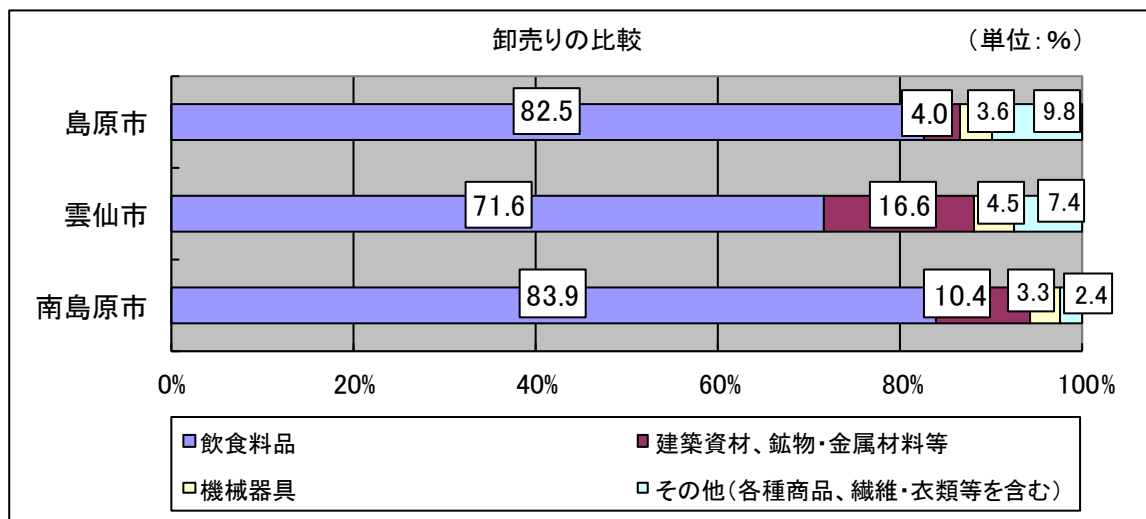
年間商品販売額は、本市は他市と比較して、卸売り、小売りとも高い数値を示している。また、本市のみが、卸売りの販売額が小売りの販売額よりも高くなっている。

【年間商品販売額の割合】



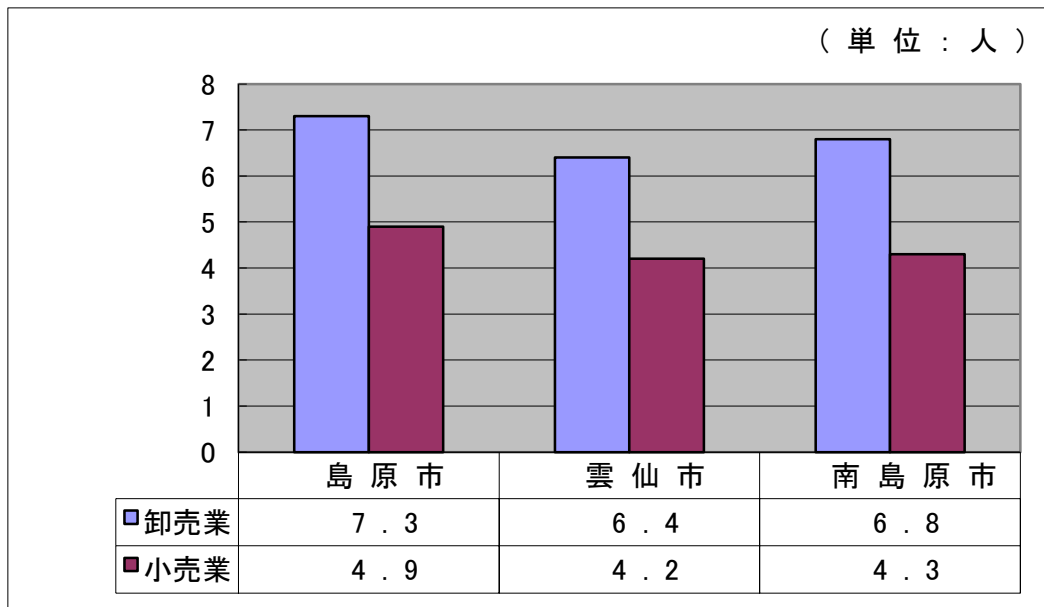
年間商品販売額の割合は、本市のみが小売りより卸売りの割合が高くなっている。

【業種別商品販売額の割合（卸売り・小売り）】



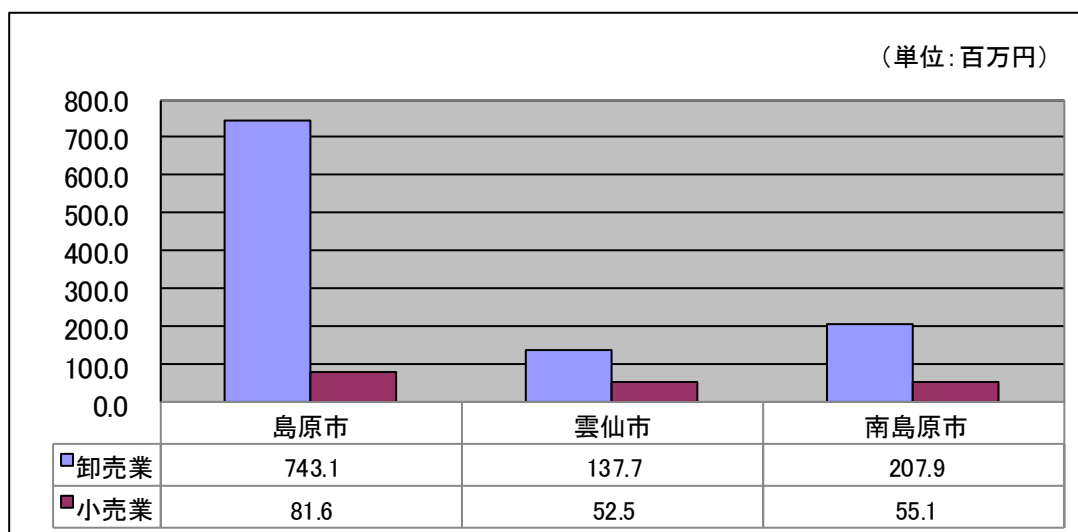
年間商品販売額について、本市と他市と比較して、卸売りでは建築資材、鉱物、金属材料等の占める割合が低く、小売りでは、機械器具の占める割合が高い。

⑦ 1事業所あたりの従業者数（島原半島3市、平成24年経済センサス）



1事業所当たりの従業者数は、島原半島3市の中では、卸売り・小売りとも本市が一番高い数値となっている。

⑧ 1事業所あたりの年間商品販売額（島原半島3市、平成24年経済センサス）



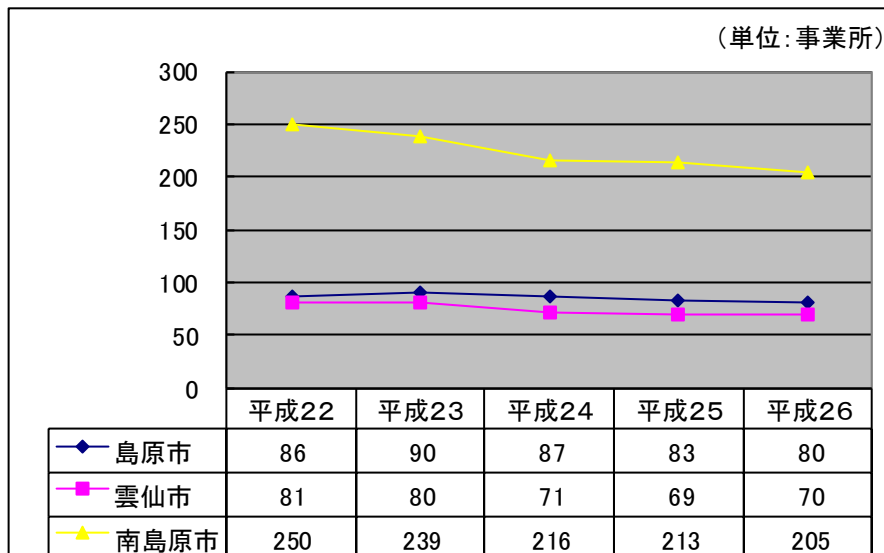
1事業所当たりの年間商品販売額は、島原半島3市の中では、卸売り・小売りとも本市が一番高い数値となっている。



(3) 工業「製造業」

(※工業統計調査・・・我が国の工業の実態を明らかにするもので、日本標準産業分類「大分類E－製造業に属する事業所“国に属する事業所を除く。”を対象。)

① 事業所数の推移（島原半島3市・従業員4人以上の事業所）



事業所数については、島原市、南島原市が減少傾向にある。

【長崎県及び島原半島における事業所数の割合】

	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
長崎県	2,006	2,044	1,935	1,849	1,794
本市の割合	4.3%	4.4%	4.5%	4.5%	4.5%
島原半島	417	409	374	365	355
本市の割合	20.6%	22.0%	23.3%	22.7%	22.5%

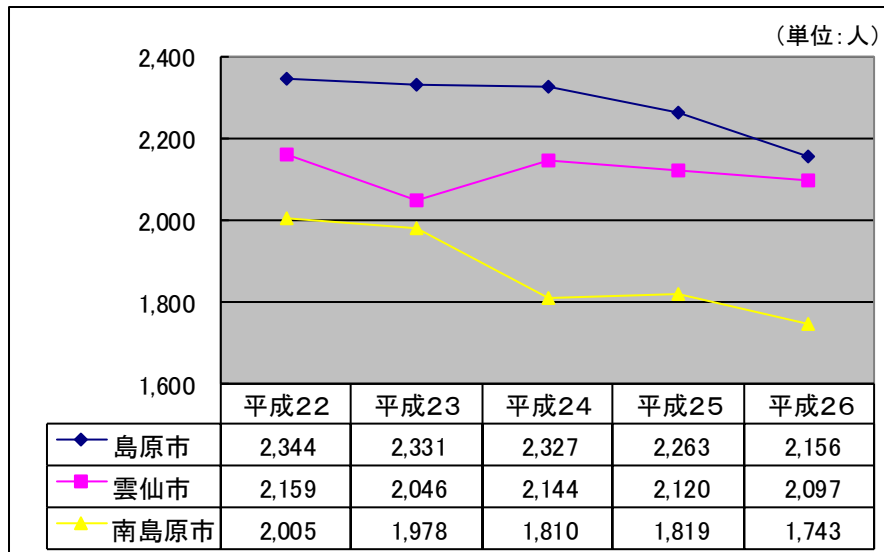
本市の事業所数の県内及び島原半島における割合は、横ばいの傾向にある。

【業種別事業所数の比較（平成26年工業統計調査、事業所数）】

項 目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	44	40	175
飲料・たばこ・飼料製造業	4	1	1
繊維工業	13	13	11
木材・木製品製造業	1	－	1
家具・装備品製造業	2	1	－
印刷・同関連業	2	1	1
プラスチック製品製造業	－	2	－
窯業・土石製品製造業	2	6	7
鉄鋼業	2	－	1
金属製品製造業	2	2	6
はん用機械器具製造業	1	1	1
生産用機械器具製造業	－	1	－
電子部品・デバイス・電子回路製造業	2	－	1
電気機械器具製造業	1	1	－
情報通信機械器具製造業	－	－	－
輸送用機械器具製造業	2	1	－
その他の製造業	2	－	－
合 計	80	70	205

事業所総数は、南島原市が一番多い。特に、南島原市の食料品製造業が多く、他の業種では3市とも大きな差はない。「－」は該当のないもの。

② 従業者数の推移（島原半島3市）



従業者数については、3市とも減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における従業者数の割合】

	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
長崎県	58,349	60,337	58,017	56,459	55,126
本市の割合	4.0%	3.9%	4.0%	4.0%	3.9%
島原半島	6,508	6,355	6,281	6,202	5,996
本市の割合	36.0%	36.7%	37.0%	36.5%	36.0%

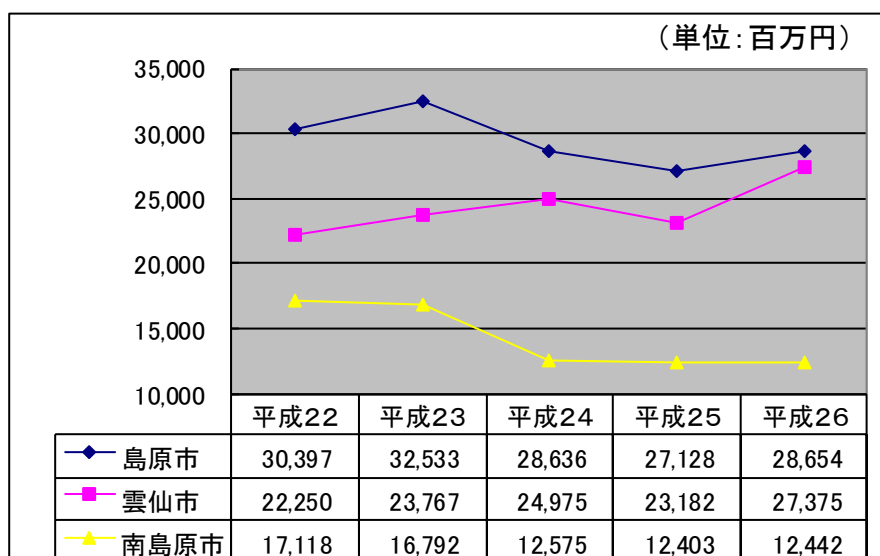
本市の従業者数の長崎県および島原半島における割合は横ばいの状態である。

【業種別従業者数の比較（平成26年工業統計調査、従業者数）】

項 目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	978	953	1,134
飲料・たばこ・飼料製造業	45	4	6
繊維工業	617	799	299
木材・木製品製造業	14	—	7
家具・装備品製造業	14	10	—
印刷・同関連業	17	4	8
プラスチック製品製造業	—	59	—
窯業・土石製品製造業	26	92	93
鉄鋼業	62	—	11
金属製品製造業	41	35	32
はん用機械器具製造業	161	4	68
生産用機械器具製造業	—	83	—
電子部品・デバイス・電子回路製造業	100	—	85
電気機械器具製造業	5	38	—
情報通信機械器具製造業	—	—	—
輸送用機械器具製造業	67	16	—
その他の製造業	9	—	—
合 計	2,156	2,097	1,743

従業者総数については、島原市が一番多いが、事業所数とは反対に、南島原市が一番少なくなっている。「—」は該当のないもの。

③ 製造品出荷額の推移（島原半島3市）



製造品出荷額については、本市は平成24、25年と減少傾向がみられたが、平成26年は24年レベルへ増加している。

【長崎県及び島原半島における製造品出荷額の割合（単位：百万円）】

	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
長崎県	1,740,081	1,653,981	1,775,007	1,627,820	1,562,494
本市の割合	1.7%	2.0%	1.6%	1.7%	1.8%
島原半島	69,765	73,092	66,187	62,713	68,471
本市の割合	43.6%	44.5%	43.3%	43.3%	41.8%

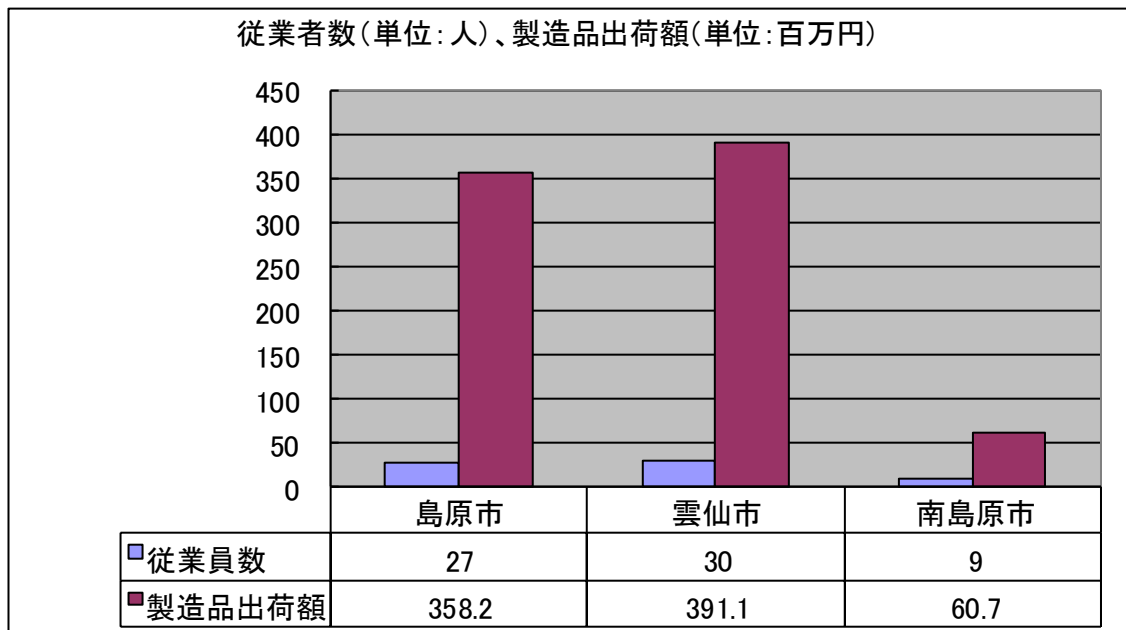
本市の製造品出荷額の長崎県における割合はわずかに増加したが、島原半島における割合は減少の状態にある。

【業種別製造品出荷額の比較（平成26年工業統計調査、単位：百万円）】

項 目	島原市	雲仙市	南島原市
食料品製造業	14,060	15,372	7,251
飲料・たばこ・飼料製造業	4,885	×	×
繊維工業	3,640	6,207	1,950
木材・木製品製造業	×	－	×
家具・装備品製造業	×	×	－
印刷・同関連業	×	×	×
プラスチック製品製造業	－	×	－
窯業・土石製品製造業	×	1,021	1,464
鉄鋼業	×	－	×
金属製品製造業	×	×	511
はん用機械器具製造業	×	×	×
生産用機械器具製造業	－	×	－
電子部品・デバイス・電子回路製造業	×	－	×
電気機械器具製造業	×	×	－
情報通信機械器具製造業	－	－	－
輸送用機械器具製造業	×	×	－
その他の製造業	×	－	－
合 計	28,654	27,375	12,442

製造品出荷額については、島原市が一番多くなっている。「－」は該当のないもの、「×」は申告者の秘密が洩れないよう秘匿処理したもの。このため、合計は一致しない。

④ 1 事業所あたりの従業者数及び製造品出荷額
(島原半島3市・平成26年工業統計調査)

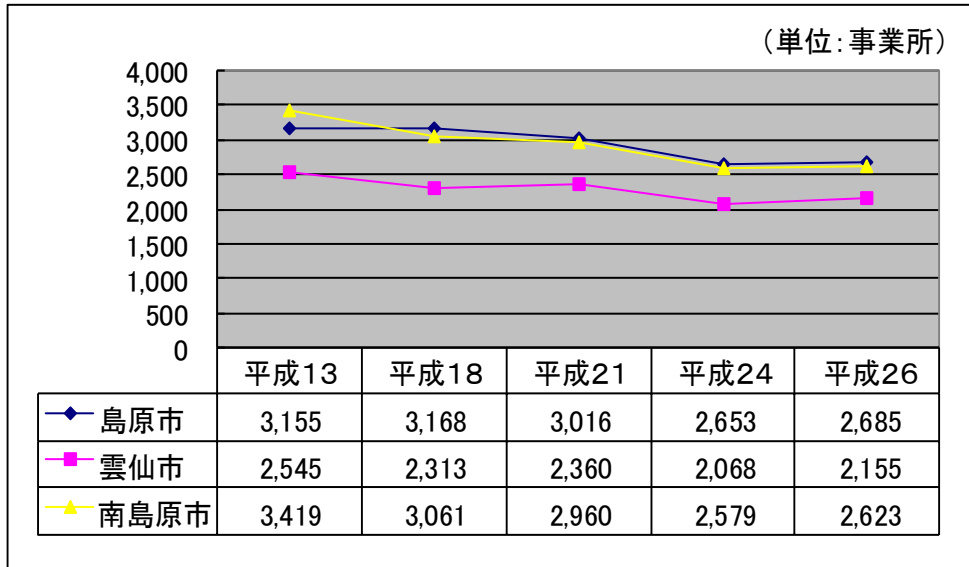


1 事業所あたりの従業者数及び製造品出荷額については、雲仙市が一番高い数値となっている。

(4) 事業所・企業統計、経済センサス

(※我が国すべての事業所及び企業を対象として、事業の種類や従業者数等の基本的事項を調査するもの。平成18年まで事業所・企業統計、平成21年と平成26年は経済センサス基礎調査、平成24年は経済センサス活動調査。)

① 事業所数の推移（島原半島3市）



事業所数は3市とも減少の傾向にある。

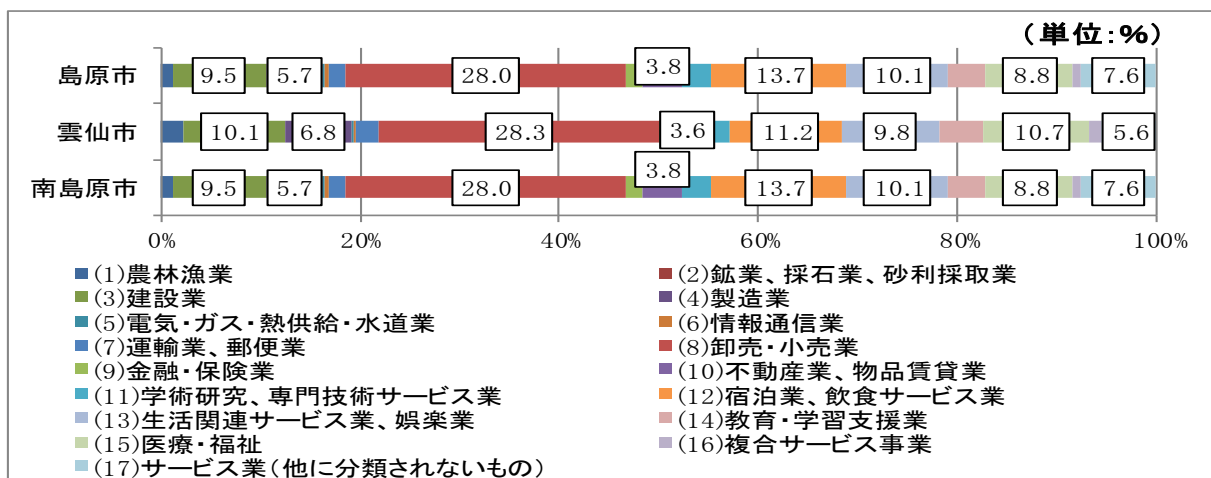
平成21年と比較して平成24年の数値が急激に減少しているが、平成24年は、公営の事業所を調査対象としていないため、数値上は急減となる。

【長崎県及び島原半島における事業所数の割合】

	平成13	平成18	平成21	平成24	平成26
長崎県	76,403	70,794	72,202	63,275	65,158
本市の割合	4.1%	4.5%	4.2%	4.2%	4.1%
島原半島	9,119	8,532	8,336	7,300	7,463
本市の割合	34.6%	37.1%	36.2%	36.3%	36.0%

本市の事業所数の長崎県及び島原半島における割合は、ほぼ横ばいの状態にある。

【産業大分類別事業所数割合の比較（平成26年経済センサス - 基礎調査）】



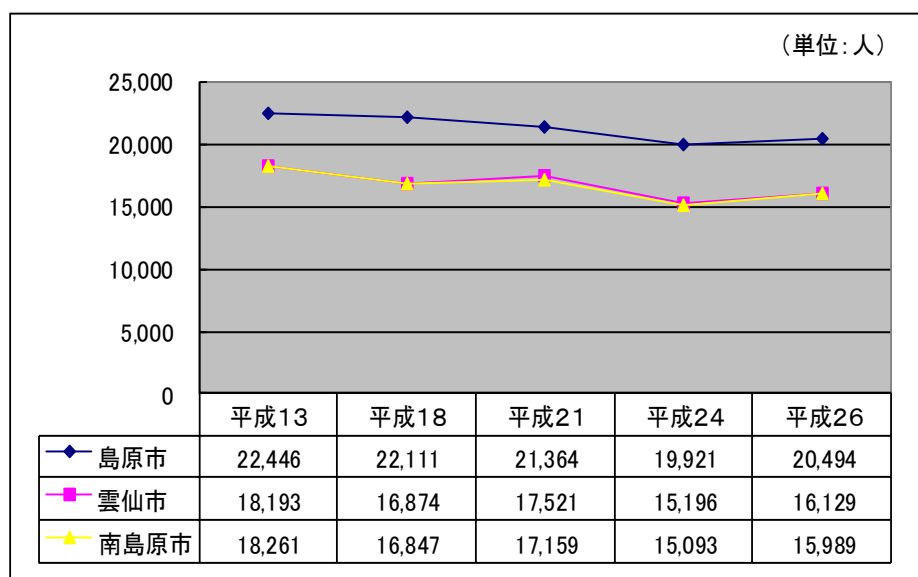
産業大分類別事業所数の構成比をみると、3市とも卸売・小売業が最も多く約30%、2番目に多いのは3市とも宿泊業・飲食サービス業になっている。

【産業大分類別事業所数の比較（平成２６年経済センサス－基礎調査）】

項 目	島原市	雲仙市	南島原市
(1)農林漁業	30	50	40
(2)鉱業、採石業、砂利採取業	－	－	2
(3)建設業	254	218	277
(4)製造業	154	146	459
(5)電気・ガス・熱供給・水道業	3	5	2
(6)情報通信業	11	4	4
(7)運輸業、郵便業	46	47	34
(8)卸売・小売業	753	609	714
(9)金融・保険業	50	20	24
(10)不動産業、物品賃貸業	103	78	71
(11)学術研究、専門技術サービス業	78	54	51
(12)宿泊業、飲食サービス業	367	242	183
(13)生活関連サービス業、娯楽業	272	211	224
(14)教育・学習支援業	104	95	98
(15)医療・福祉	236	231	258
(16)複合サービス事業	20	25	26
(17)サービス業(他に分類されないもの)	204	120	156
合 計	2,685	2,155	2,623

事業所数で比較すると、本市の特徴としては、第３次産業の卸売・小売業、金融・保険業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業などが他市より多くなっている。

② 従業者数の推移（島原半島３市）



従業者数は３市とも減少の傾向にある。

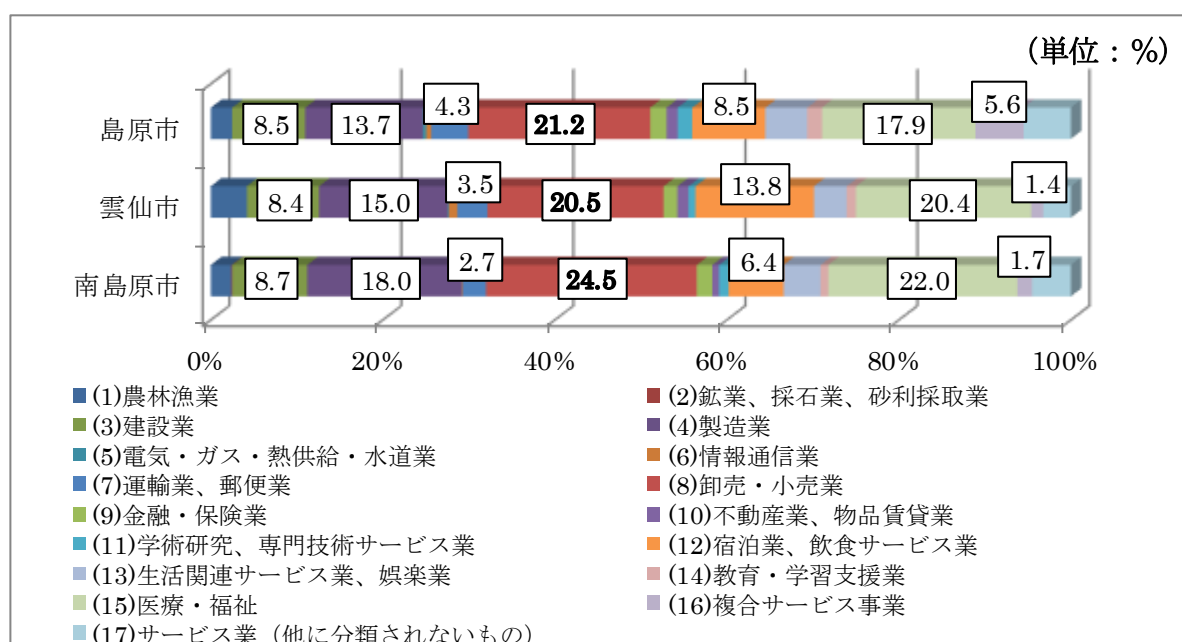
平成２１年と比較して平成２４年の数値が急激に減少しているが、平成２４年は、公営の事業所を調査対象としていないため、数値上は急減となる。

【長崎県及び島原半島における従業者数の割合】

	平成13	平成18	平成21	平成24	平成26
長崎県	630,498	595,026	622,715	551,755	588,917
本市の割合	3.6%	3.7%	3.4%	3.6%	3.5%
島原半島	58,900	55,832	56,044	50,210	52,612
本市の割合	38.1%	39.6%	38.1%	39.7%	39.0%

本市の従業者数の長崎県及び島原半島における割合は、横ばいの状態にある。

【産業大分類別従業者数の割合（平成２６年経済センサス - 基礎調査）】



産業大分類別従業者数の構成比をみると、3市とも卸売・小売業が最も多く約20%以上を占め、2番目には医療・福祉、3番目には製造業の順となっている。

【産業大分類別従業者数の比較割合（平成２６年経済センサス - 基礎調査）】

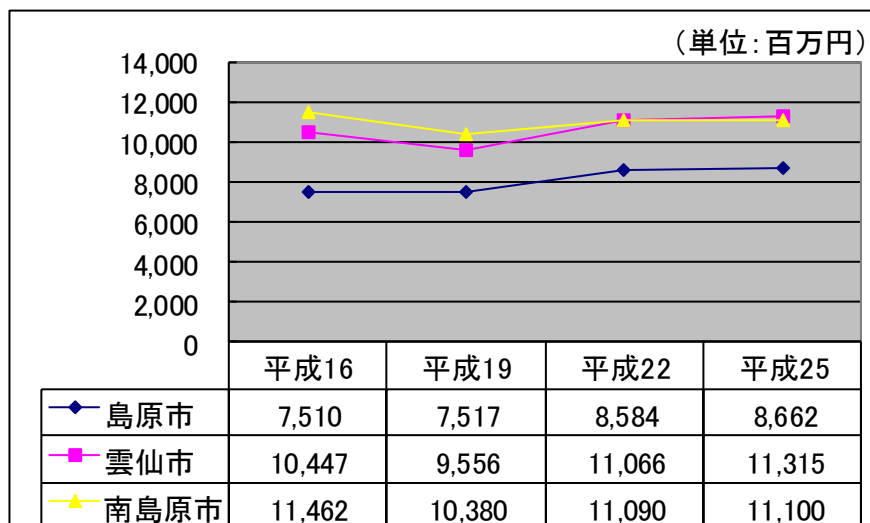
項 目	島原市	雲仙市	南島原市
(1)農林漁業	1.6	3.8	2.3
(2)鉱業・採石業・砂利採取業	0.0	0.0	0.2
(3)建設業	7.8	7.8	7.7
(4)製造業	12.5	14.5	16.8
(5)電気・ガス・熱供給・水道業	0.4	0.3	0.0
(6)情報通信業	0.5	0.9	0.1
(7)運輸業・郵便業	3.8	3.7	2.2
(8)卸売・小売業	21.0	19.7	22.8
(9)金融・保険業	2.0	1.1	1.4
(10)不動産業・物品賃貸業	1.0	1.2	0.9
(11)学術研究・専門技術サービス業	2.1	0.8	0.9
(12)宿泊業・飲食サービス業	8.9	12.6	6.9
(13)生活関連サービス業・娯楽業	4.3	3.5	3.8
(14)教育・学習支援業	5.3	4.5	4.7
(15)医療・福祉	21.7	21.7	23.4
(16)複合サービス事業	1.8	1.0	0.9
(17)サービス業(他に分類されないもの)	5.2	3.0	4.7
合 計	100	100	100

従業者数で比較すると、本市は、第2次産業では建設業が、第3次産業では、卸売・小売業、生活関連サービス業・娯楽業、医療・福祉などが3市の中では一番多い。

雲仙市は、農林漁業、宿泊業・飲食サービス業などが、南島原市は、鉱業・採石業・砂利採取業が3市の中では一番多い。

(5) 農業関係

① 農業総生産の推移（島原半島3市、平成25年度市町村民経済計算）



農業の総生産について、雲仙市と南島原市においては、平成19年に減少しているが、全体的に3市ともに増加の傾向にある。

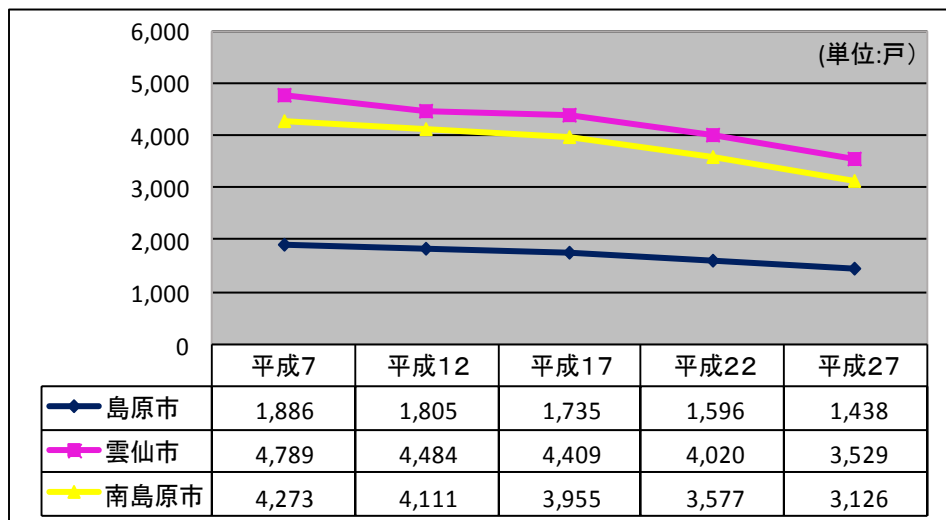
【長崎県及び島原半島における農業総生産の割合】 (単位: 百万円)

	平成16	平成19	平成22	平成25
長崎県	72,232	66,634	70,820	70,764
本市の割合	10.4%	11.3%	12.1%	12.2%
島原半島	29,419	27,453	30,740	31,077
本市の割合	25.5%	27.4%	27.9%	27.9%

本市の農業総生産の長崎県及び島原半島における割合は、横ばいの傾向にある。

② 農家戸数の推移（島原半島3市、農林業センサス）

(※農林業センサス・・・我が国農林業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、農山村の実態を総合的に把握し、農林行政推進の基礎資料を得ることを目的に実施。)



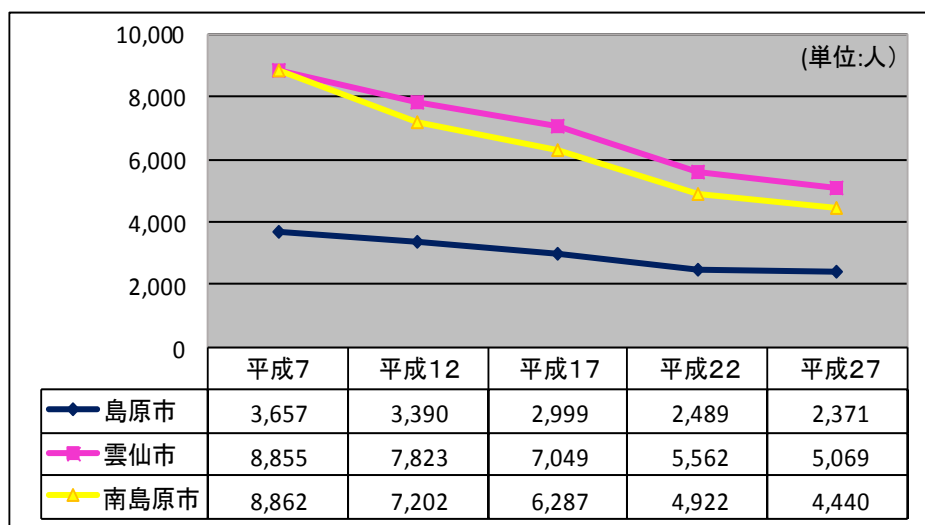
農家戸数は、3市とも平成7年まで急激に減少し、その後もわずかではあるが、減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における農家戸数の割合】

	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
長崎県	48,497	44,415	42,127	38,745	33,802
本市の割合	3.9%	4.1%	4.1%	4.1%	4.3%
島原半島	10,948	10,400	10,099	9,193	8,093
本市の割合	17.2%	17.4%	17.2%	17.4%	17.8%

本市の農家戸数の長崎県及び島原半島における割合は、平成7年までは減少しその後は横ばいの状態である。

③ 農業就業人口の推移（島原半島3市、農林業センサス）



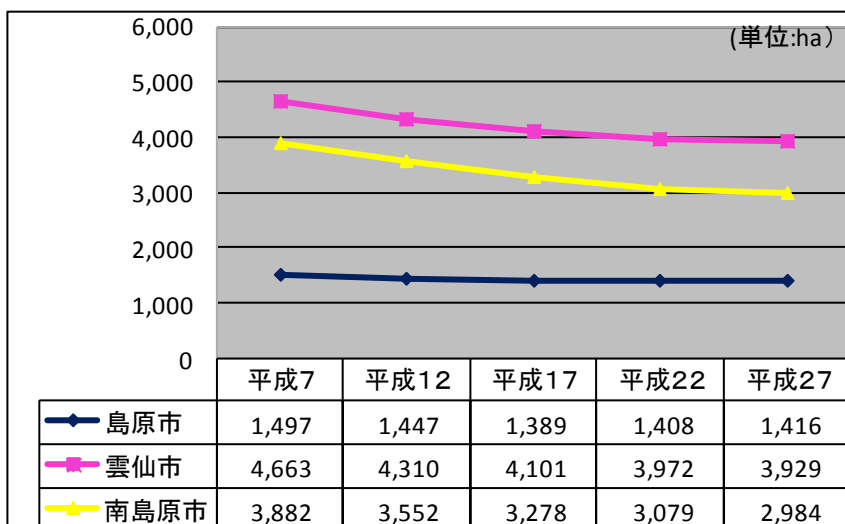
農業就業人口は、3市とも減少の傾向にある。

【長崎県及び島原半島における農業就業人口の割合】

	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
長崎県	76,260	60,558	52,661	40,936	34,440
本市の割合	4.7%	5.6%	5.7%	6.1%	6.9%
島原半島	21,284	18,415	16,335	12,973	11,880
本市の割合	16.8%	18.4%	18.4%	19.2%	20.0%

本市の農業就業人口の長崎県及び島原半島における割合は、増加の傾向にある。

④ 経営耕地面積（島原半島3市、農林業センサス）



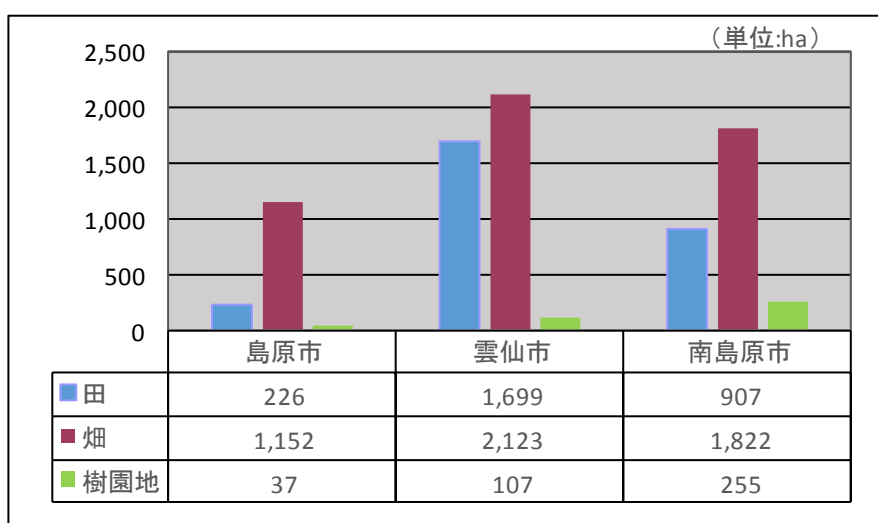
経営耕地面積は、本市は横ばいで、雲仙市、南島原市はわずかに減少傾向にある。

【長崎県及び島原半島における経営耕地面積の割合】

	平成7	平成12	平成17	平成22	平成27
長崎県	41,405	35,898	32,595	31,010	30,756
本市の割合	3.6%	4.0%	4.3%	4.5%	4.6%
島原半島	10,042	9,309	8,768	8,459	8,329
本市の割合	14.9%	15.5%	15.8%	16.6%	17.0%

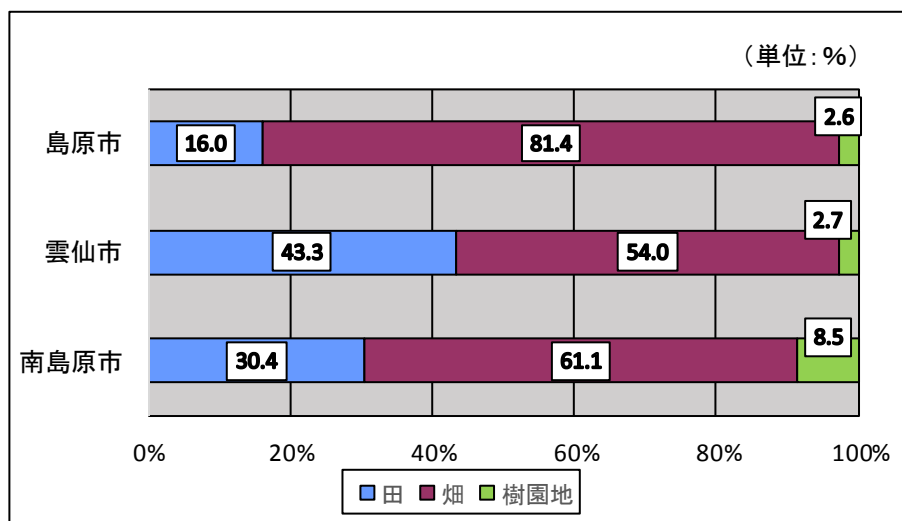
本市の経営耕地面積の長崎県及び島原半島における割合は、平成7年以降は増加の傾向にある。

【経営耕地面積の比較（平成27年）】



経営耕地面積は、3市とも畑が最も多く、次いで田、樹園地の順となっている。

【経営耕地面積割合の比較（平成27年）】

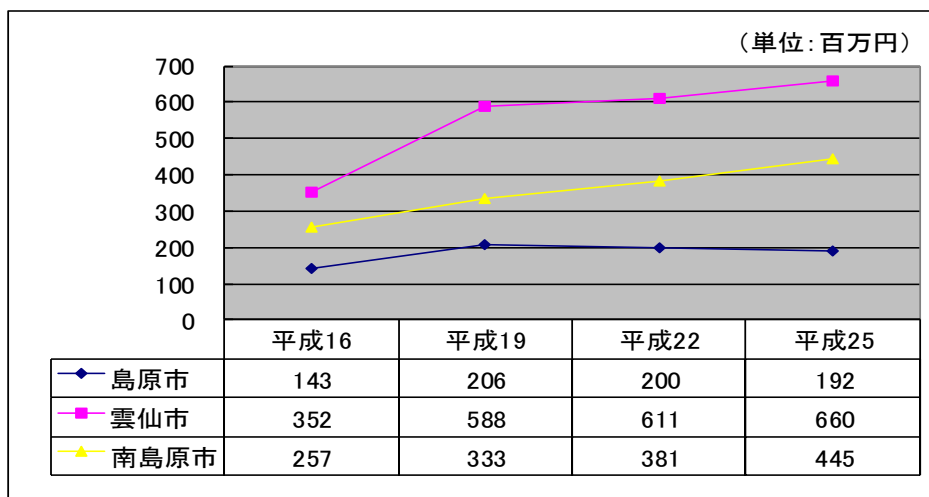


経営耕地面積の割合は、3市とも畑の占める割合が高い。

特に島原市は、8割と一番高く特徴的である。田の割合は雲仙市が、樹園地は南島原市が一番高くなっている。

(6) 林業関係

① 林業総生産の推移（島原半島3市、平成25年度市町村民経済計算）



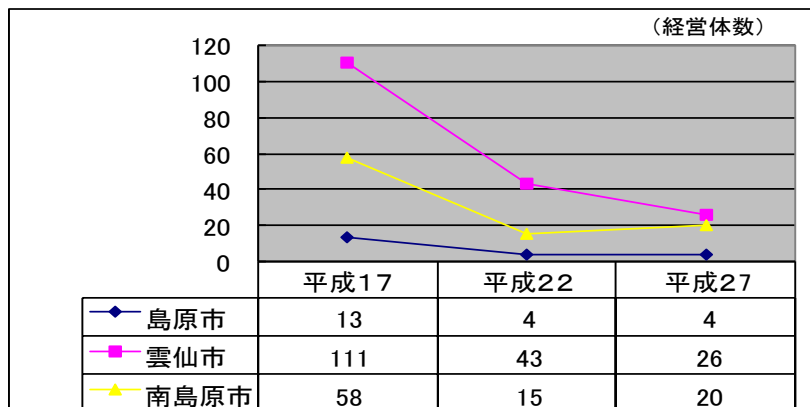
林業の総生産について、本市は平成19年以降減少傾向にあるが、雲仙市と南島原市は、増加している。

【長崎県及び島原半島における林業総生産の割合（単位: 百万円）】

	平成16	平成19	平成22	平成25
長崎県	2,403	2,767	2,710	2,992
本市の割合	6.6%	7.4%	6.3%	6.4%
島原半島	1,014	1,262	1,226	1,297
本市の割合	17.7%	16.8%	15.3%	14.8%

本市の林業総生産の長崎県における割合は、横ばいの傾向にあるが、島原半島における割合は減少の傾向にある。

② 林業経営体数の推移（島原半島3市、農林業センサス）



林業経営体数については、平成17年と比較して大幅に減少している。

【長崎県及び島原半島における林業経営体数の割合】

	平成17年	平成22年	平成27年
長崎県	2,108	675	559
本市の割合	0.6%	0.6%	0.7%
島原半島	182	62	50
本市の割合	7.1%	6.5%	8.0%

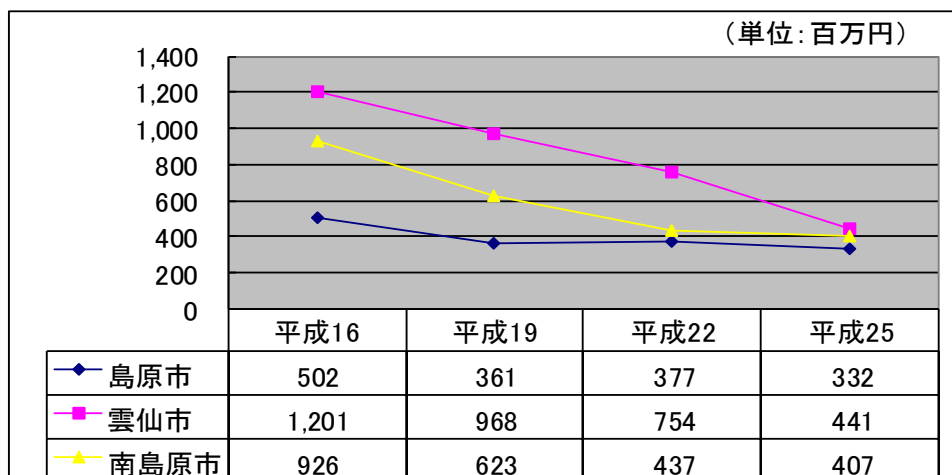
本市の長崎県における割合は横ばいだが島原半島における割合は増加している。

(※林業経営体とは、育林又は伐採を行うことができる山林の面積が3ha以上の林業、委託を受けて行う育林又は立木を購入して行う素材生産の事業を行うもの。)

(※平成17年調査から経営に着目した経営体による把握となったため、平成12年以前の林家数については掲載していない。)

(7) 水産業関係

① 水産業総生産の推移（島原半島3市・平成25年度市町村民経済計算）



水産業の総生産は3市ともに減少している。

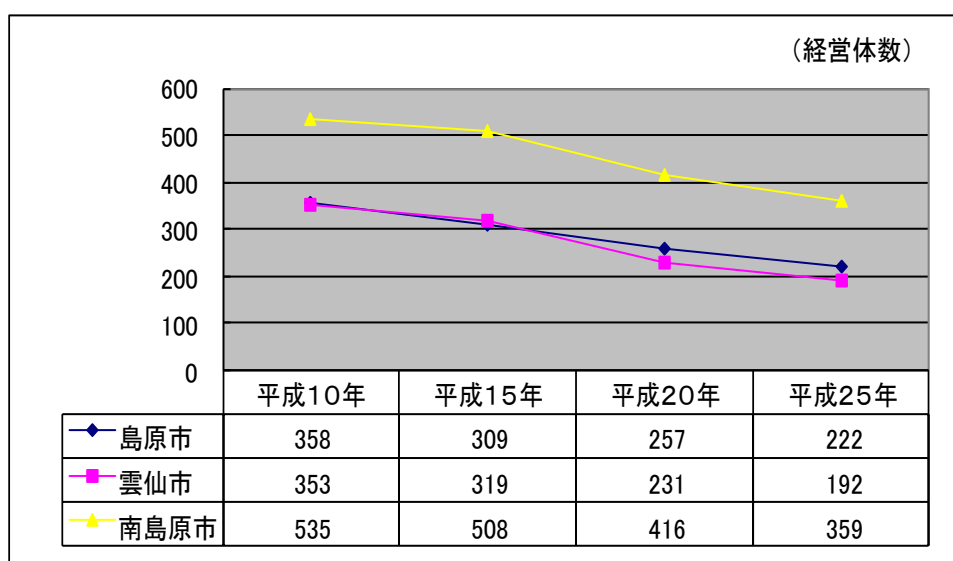
【長崎県及び島原半島における水産業総生産の割合（単位:百万円）】

	平成16	平成19	平成22	平成25
長崎県	48,909	48,319	38,548	40,612
本市の割合	1.0%	0.8%	1.0%	0.8%
島原半島	2,629	1,952	1,568	1,180
本市の割合	19.1%	18.5%	24.0%	28.1%

水産業総生産の県内における本市の占める割合は、ほぼ横ばいの状況にあるが島原半島内における本市の割合は他の2市の減少が大きいいため増加している。

② 漁業経営体数の推移（島原半島3市・漁業センサス）

(漁業センサス・・・漁業の生産構造・就業構造を明らかにし、漁村、流通・加工業等漁業の背景の実態を把握し、水産行政諸施策に必要な資料を整備することを目的。)



漁業経営体数は、3市とも減少の傾向にある。平成10年と平成25年と比較すると、本市は約62%まで減少している。

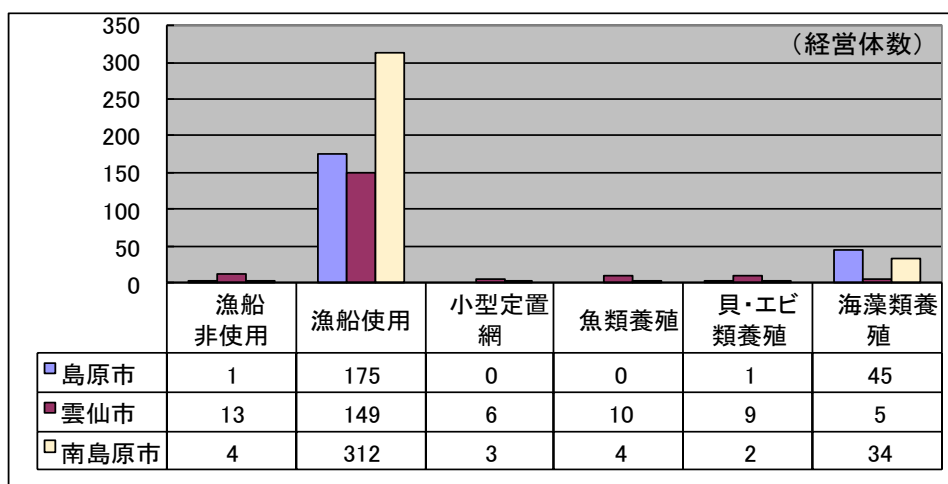
(※漁業経営体・・・生産物販売を目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所をいう。)

【長崎県及び島原半島における漁業経営体数の割合】

	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
長崎県	12,282	10,756	8,849	7,690
本市の割合	2.9%	2.9%	2.9%	2.9%
島原半島	1,246	1,136	904	773
本市の割合	28.7%	27.2%	28.4%	28.7%

本市の漁業経営体数の長崎県及び島原半島における割合は、平成10年以降は横ばいの状態である。

③ 漁業経営体数（島原半島3市・平成25年漁業センサス）



漁業経営体の実態として、3市とも動力漁船による漁業が大半を占めており、本市としては、海藻類の養殖が、3市の中では一番多い。



(8) 本市の主な農水産物の状況

① 指定野菜の生産出荷「平成26年産」(※第62次長崎農林水産統計年報)

	だいこん (t)	にんじん (t)	はくさい (t)
島原市	31,700	21,210	12,300
長崎県	52,500	33,000	14,400
本市の割合	60.4%	64.3%	85.4%

② 海産物

ア わかめ (第62次農林水産統計)

(単位：t)

わかめ	島原市	(参考) 南島原市
年間産出量	506	563

イ ガザミ (第62次農林水産統計)

(単位：t)

ガザミ	島原市
年間産出量	33

ウ クルマエビ (第62次農林水産統計)

(単位：t)

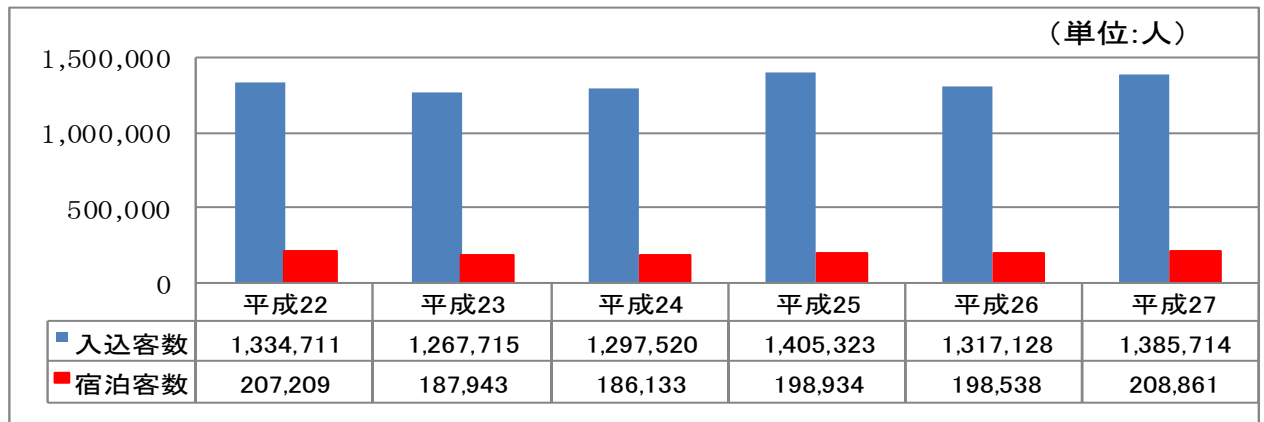
クルマエビ	島原市
年間産出量	8



4. 観光

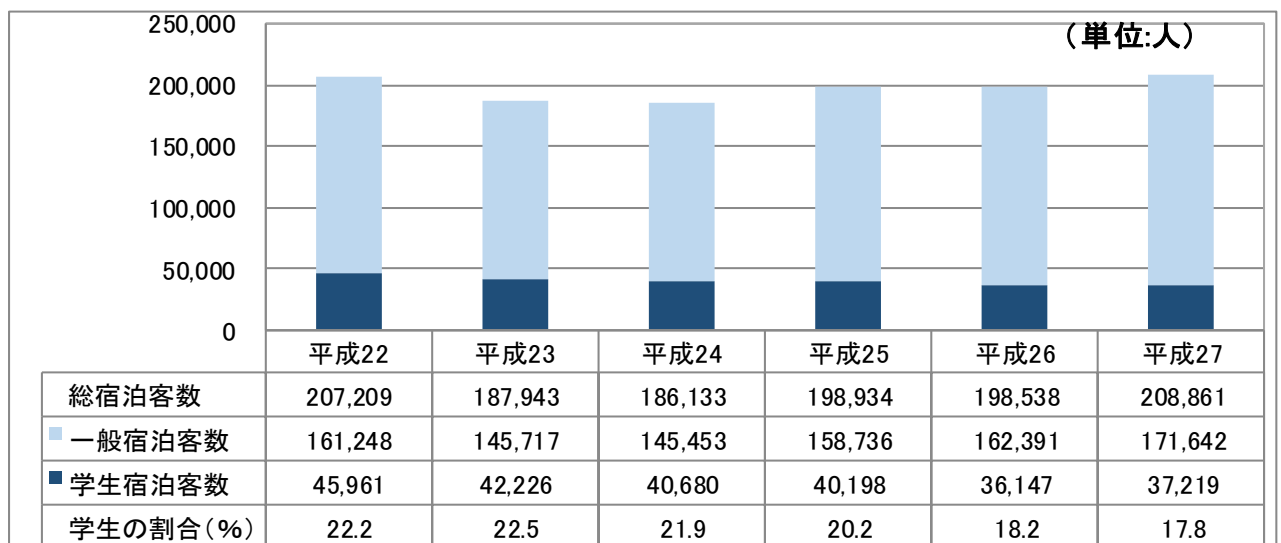
(1) 観光客数

①入込客数及び宿泊客数



ここ数年、入込客数は130万人、宿泊客数は20万人を前後し、ほぼ横ばいの状態にある。

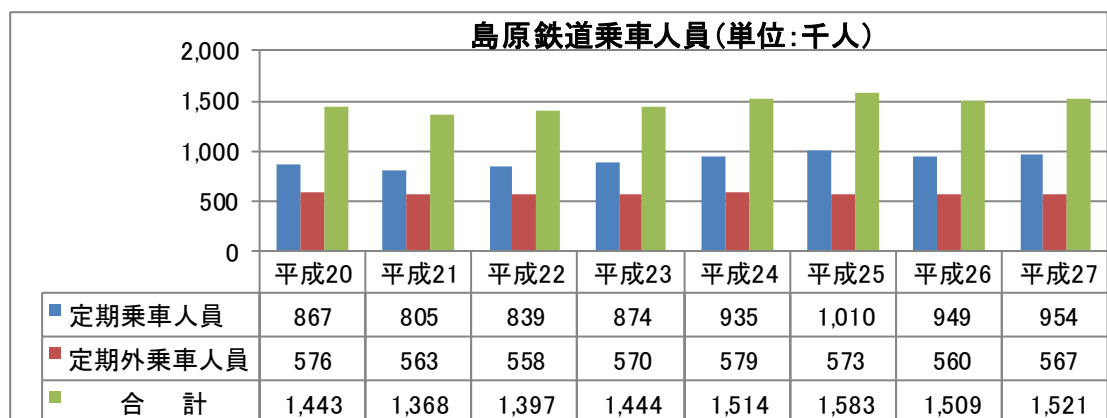
②宿泊客のうち学生宿泊客数



宿泊客数は、ほぼ横ばいの状況であるが、学生が占める割合は減少傾向にある。

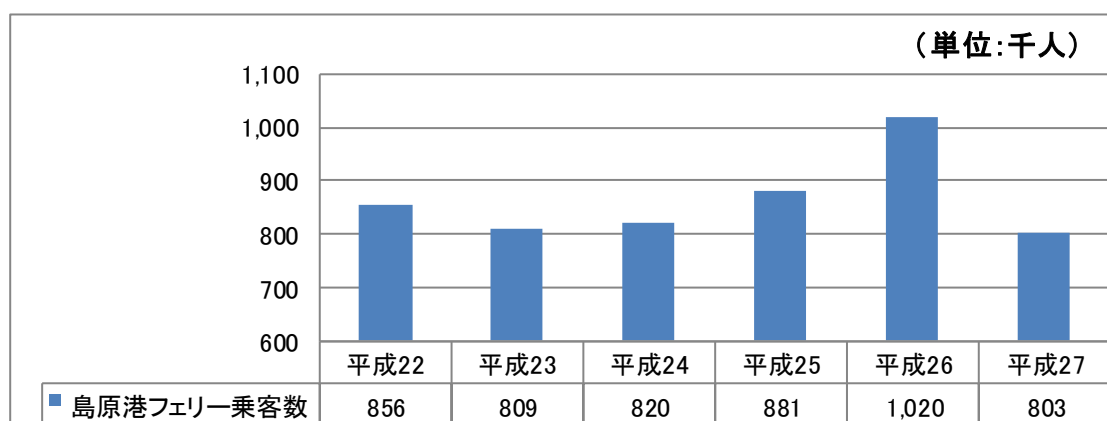
(2) 公共交通機関利用状況

①島原鉄道乗車人員数（年度別）



島原鉄道の乗車人員は、平成20年3月末の島原鉄道南目線の廃止により急激に減少したが、平成21年度以降は徐々に増加し、近年は150万人前後が利用している。

②島原港フェリー乗客数



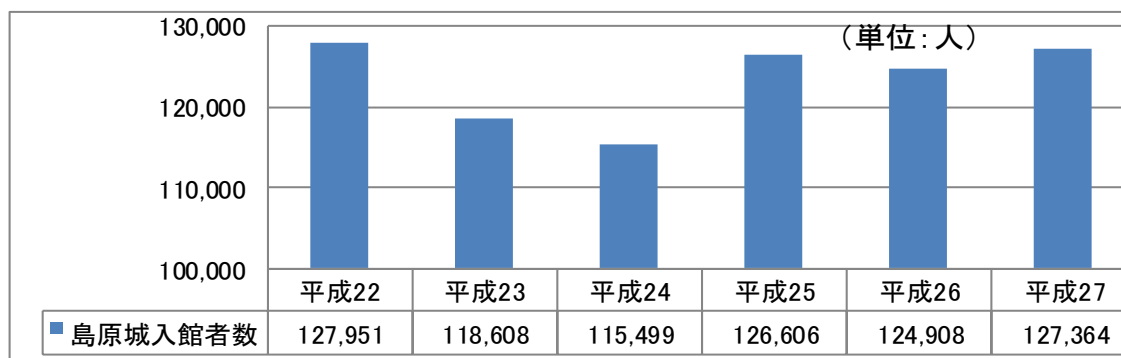
島原港フェリーは、例年80万人前後が利用している。

(※数値は、高速船三池島原ライン、熊本フェリー、九商フェリーの乗客数の総計)



(3) 各観光施設の入場者等の状況

① 島原城



1

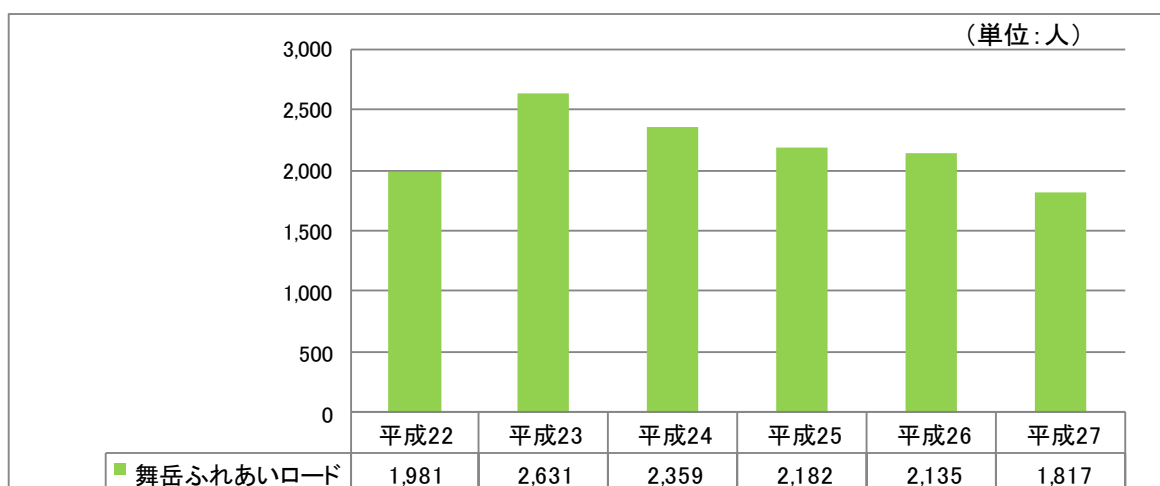
8年（元和4年）に着工し、4～7年の歳月を経て完成した。明治維新で廃城になり、払下げ・解体されたが、1964年（昭和39年）に天守閣が復元され、平成26年（2014年）に復元50周年を迎えた。ここ数年は12万5千人程度の入館者となっている。

② 武家屋敷

武家屋敷は、本市観光名所の1つで、平成21年には約10万7千人の観光客が訪れている。平成21年度に景観計画を策定し、街並みを保存するために、武家屋敷街なみ保存整備事業等の補助事業を実施している。

山本邸、鳥田邸、篠塚邸の3棟を一般公開し、より身近に藩政時代の面影に触れることができるようにしている。

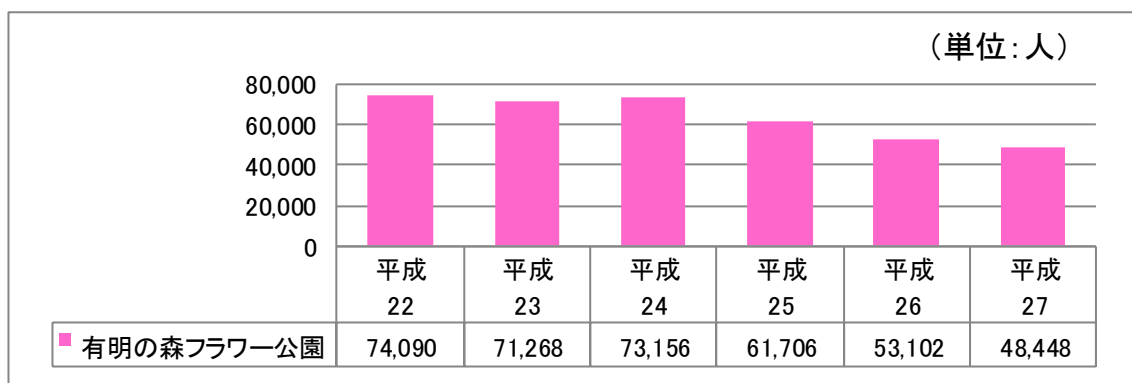
③ 舞岳ふれあいロード



舞岳を頂点に扇状に広がる有明の台地にちなみ、8888段と全て末広りの平成8年8月8日午前8時に開通。

緑あふれる自然の中で多くの人々のふれあいと健康づくりを願って造られた。全長3km、標高差314m、山頂より平成新山を望むことができる。

② 有明の森フラワー公園（年度別）

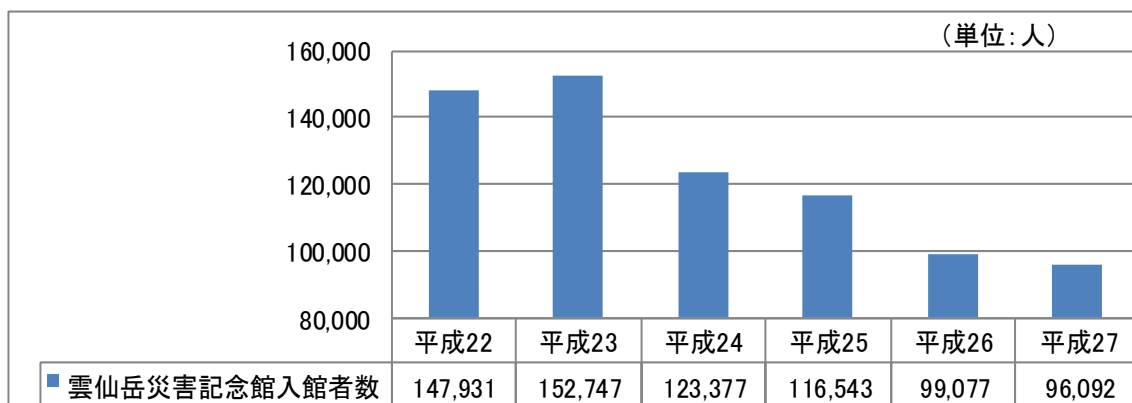


舞岳のふもと、県道愛野・島原線沿いにあり、眼下に有明海、背後には平成新山を望む風光明媚な場所で、四季折々の花が楽しめる公園。秋には、サルビアやコスモスが、まるで花のじゅうたんのよう咲き乱れ、公園内を埋め尽くす観光スポットとして親しまれている。

また、この公園を会場として、6月には地域の農畜産物等の特産品販売が行われる「島原ふるさと特産市」、10月にはフリーマーケット

トやステージイベントなどで賑わう「アリアケフェスタ」が開催されている。

⑤ 雲仙岳災害記念館



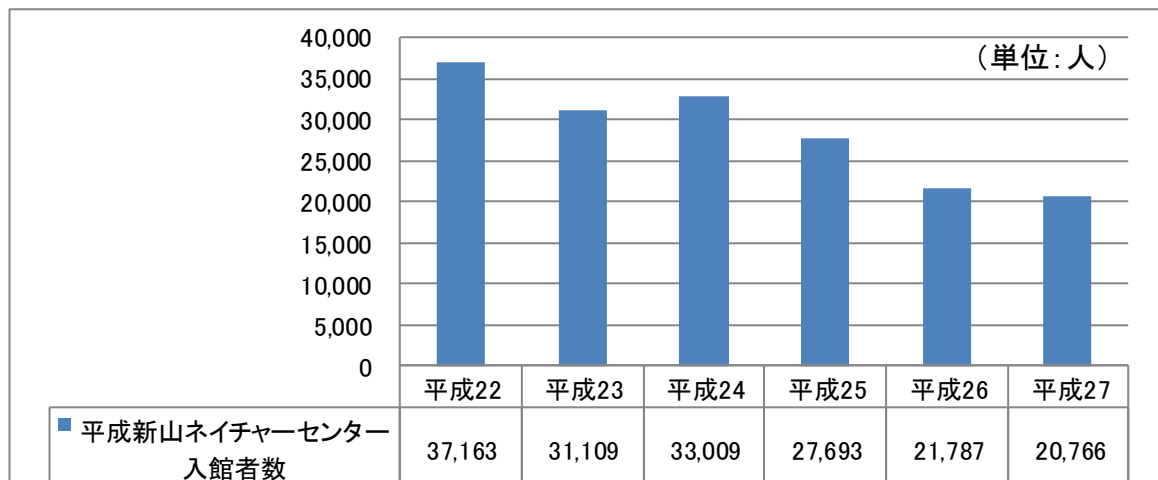
島原地域再生行動計画のプロジェクトの一つとして、平成14年に開館した火山体験学習施設で、平成2年11月に始まった雲仙・普賢岳の噴火活動から平成8年5月の噴火活動終息宣言までの出来事を、映像や様々な資料により学ぶことができる。

島原半島ジオパークの中核施設である。

雲仙・普賢岳噴火災害から20年目に当たる平成23年度は、入館料の半額キャンペーンを行ったこともあり、入館者が増加したがその後は年々減少している。



⑥ 平成新山ネイチャーセンター



島原半島ジオパークのジオサイトの一つで、垂木台地という高台にあり「平成新山」を最も近くで見ることができる。

⑦ 鯉の泳ぐまち

昭和56年から地域住民のまちづくりとして整備。平成21年度には湧水庭園四明荘を購入し、さらに観光客の誘客を図っている。

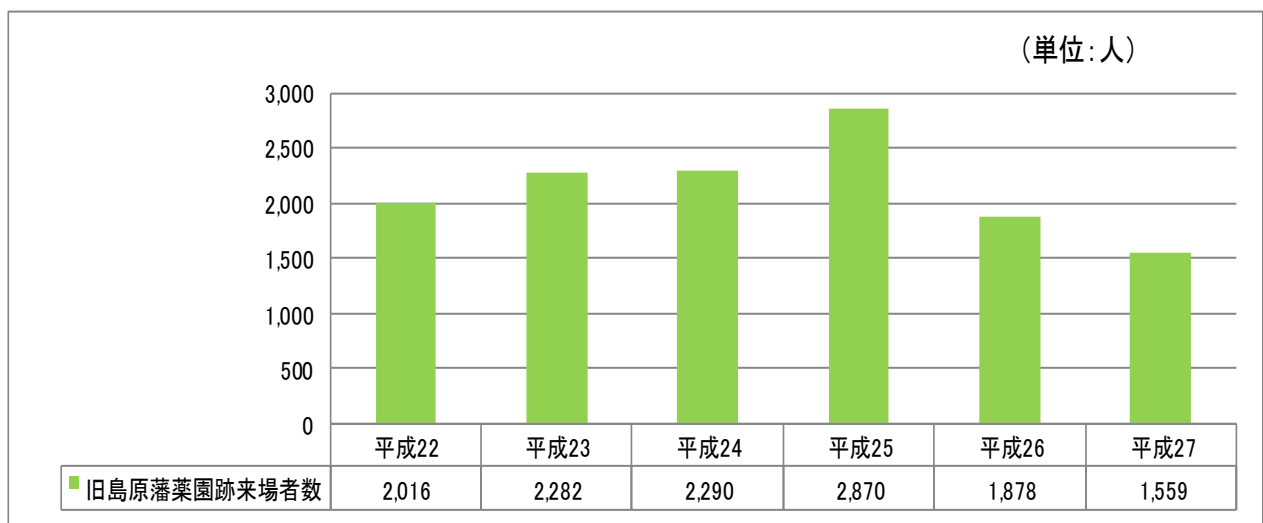


⑧ 島原湧水群

市内60カ所の湧水ポイントがあり、全体の湧水量は1日に20万トンといわれている。四明荘、浜の川湧水、鯉の泳ぐまち、水屋敷、武家屋敷水路などが見どころ。

(4) 文化財の観光客の状況 (年度別)

① 旧島原藩薬園跡



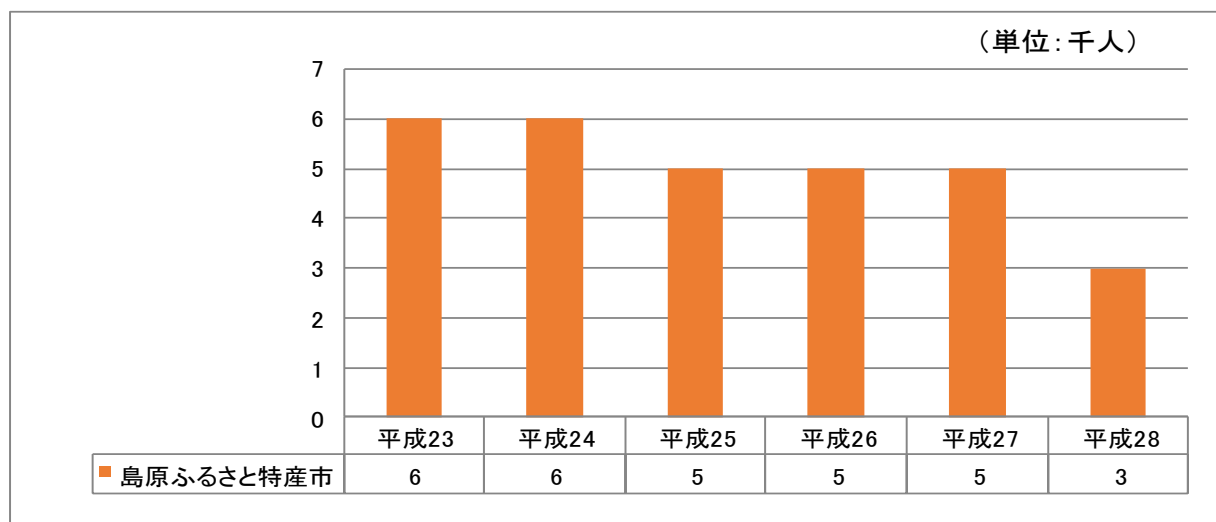
国指定史跡である旧島原藩薬園跡は、毎年千人を超える観光客が訪れている。

(5) イベント参加者の状況

① しまばら温泉不知火まつり

毎年、10月中旬に実施される秋の伝統行事、島原城薪能やしまばらガマダス阿波踊り大会、不知火奉納舞台が行われ、凛々しい天草四郎も登場する。不知火奉納舞台では「歴史、文化や大地の恵みに感謝」を表現する伝統芸能や舞踊が披露される。

② 島原ふるさと特産市



地域の農畜産物、海産物、加工食品等の特産品の販路拡大とPR、また地産地消を目的として、毎年6月第1日曜日の午前8時から午前12時まで有明の森フラワー公園で開催される。

生産者と消費者とが直接情報交換ができる場所として、観光客に好評。あわせて、この季節はサルビアやマリーゴールドが公園内を彩るので、景観を楽しむことができる。

なお、平成28年度は、荒天のため来場者が減少した。

③ 島原ウィンターナイト・ファンタジア

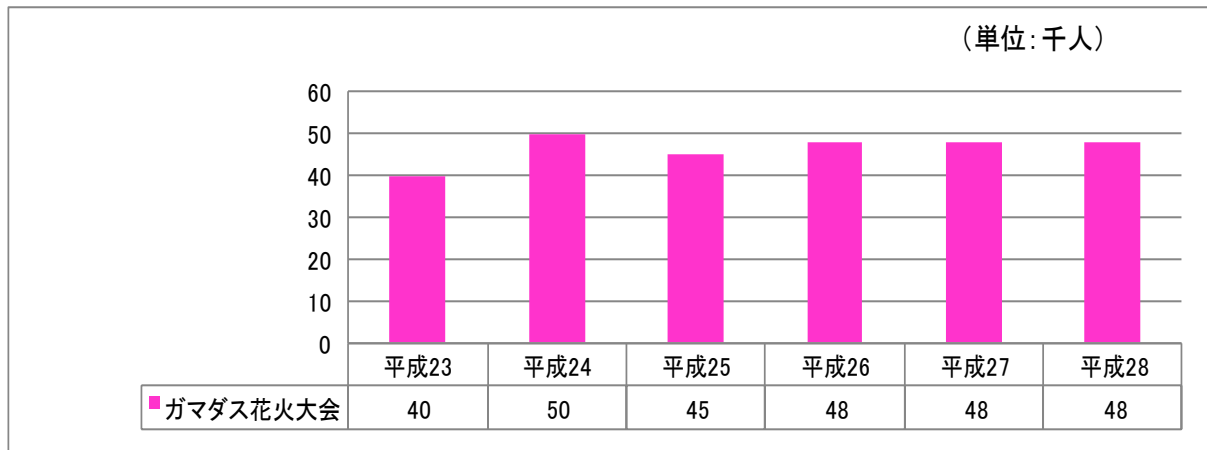
例年、12月上旬から1月上旬まで、島原外港緑地公園で開催。アニマルゾーンやカップルゾーンなど、ゾーンごとのイルミネーションが飾られ、子どもから大人まで楽しめる冬の風物詩となっている。

④ 精霊流し

8月15日に市内各所で開催。300年の長きに渡り続いている伝統行事で、平成28年度には77隻の船が繰り出し、有明海へ流された。観客数約2万5千人。



⑤ 島原温泉ガマダス花火大会



8月下旬に島原港で開催され、約5,000発の花火が打ち上げられる。

例年、約4万5千人前後の観衆で賑わいを見せている。平成28年は4万8千人。

⑥ アリアケフェスタ

10月下旬開催。有明の森フラワー公園で実施。花の中の遊歩道においてフリーマーケット、旬の味がお得な有明特産品販売などが催される。

⑦ 有明がね祭り

広く有明の「がね」(ガザミ)のPRを行うとともに、漁業者の活性化、所得向上を目的に、平成8年から実施されている。

⑧ 島原ふるさと産業まつり

地場産業のPRを目的として開催されている。島原の特産品や地元産品・日用品などを取り扱う店舗が一堂に会し開催される。

⑨ 島原水まつり

昭和62年から実施。毎年、水の週間に合わせ8月上旬に、武家屋敷水路など市内の湧水スポットで竹灯籠の設置や各種イベントが開催される。

⑩ 島原城下ひなめぐり

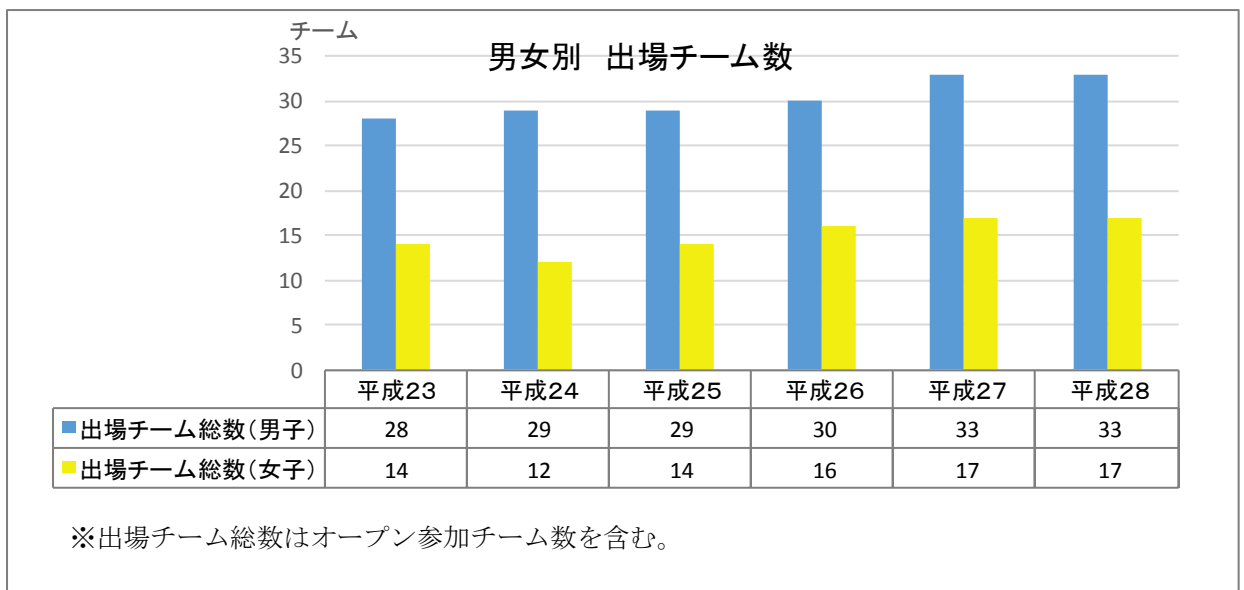
1月下旬から3月上旬まで実施。平成24年から人間ひな行列に甲冑や装束隊も加わった。商店街、観光施設、宿泊施設に種々のひな人形を展示。

⑪ 島原城薪能

1686年(貞享3年)3月6日、肥前島原藩初代藩主松平忠房が帰国するにあたって将軍綱吉より馬を拝領し、閏3月26日に島原に帰るや、それを祝っての御能の会が催されたのが起源。昭和58年秋、日本古来の芸能と現代庶民との文化の接点を求めて復活。

平成23年度からは、不知火まつりの第一部として行われるようになり、平成28年度には1,200人が来場した。

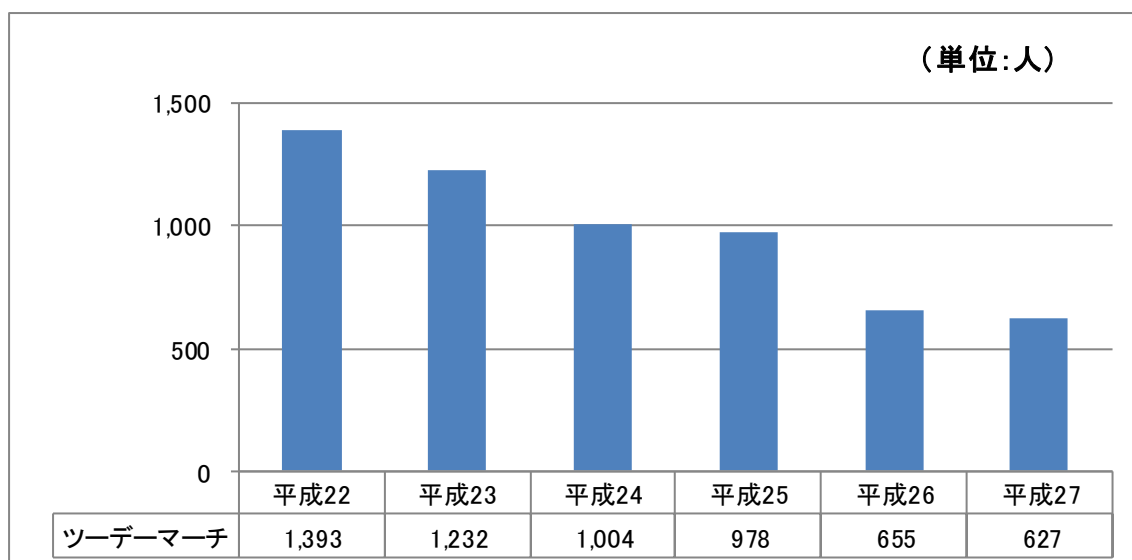
⑫ 平成新山 島原学生駅伝



当駅伝大会を島原市で開催することにより、この大会を冬の一大スポーツイベントとして定着させ、「平成新山」を冠する大会として、選手たちの力強い走りと、島原半島ジオパークはもとより、島原の魅力・情報を発信することで交流人口の拡大と地域の活性化に寄与することを目的に、平成10年度から島原半島内の三市（島原市・雲仙市・南島原市）で男子駅伝を開催。女子駅伝も平成17年度から開催し、平成20年度からは島原市のみで12月の第1週の土曜日に開催している。

本大会は、市内コースにて男子が7区間（57.80キロ）、女子が5区間（22.85キロ）にて行われ、男子の優勝校には翌年度の出雲全日本大学選抜駅伝競走の出場権が与えられる。平成28年度の優勝校は、男子「第一工業大学（二連覇）」、女子「福岡大学（三連覇）」だった。

⑬ 島原半島ソーデーマーチ （平成28年は未実施）

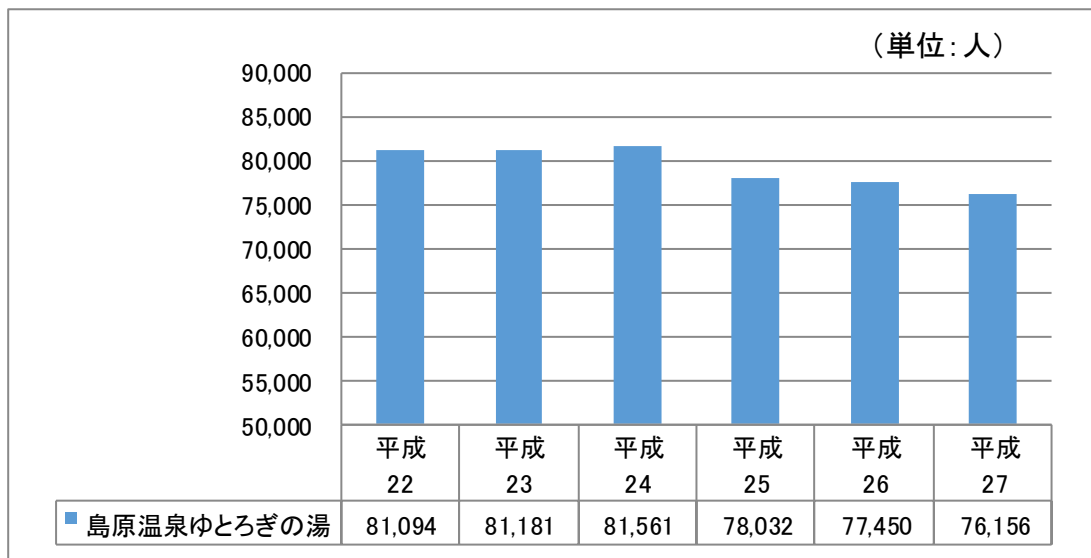


毎年、秋に島原ステージで実施。

島原半島世界ジオパークの豊かで雄大な自然を満喫できるコースを設定している。

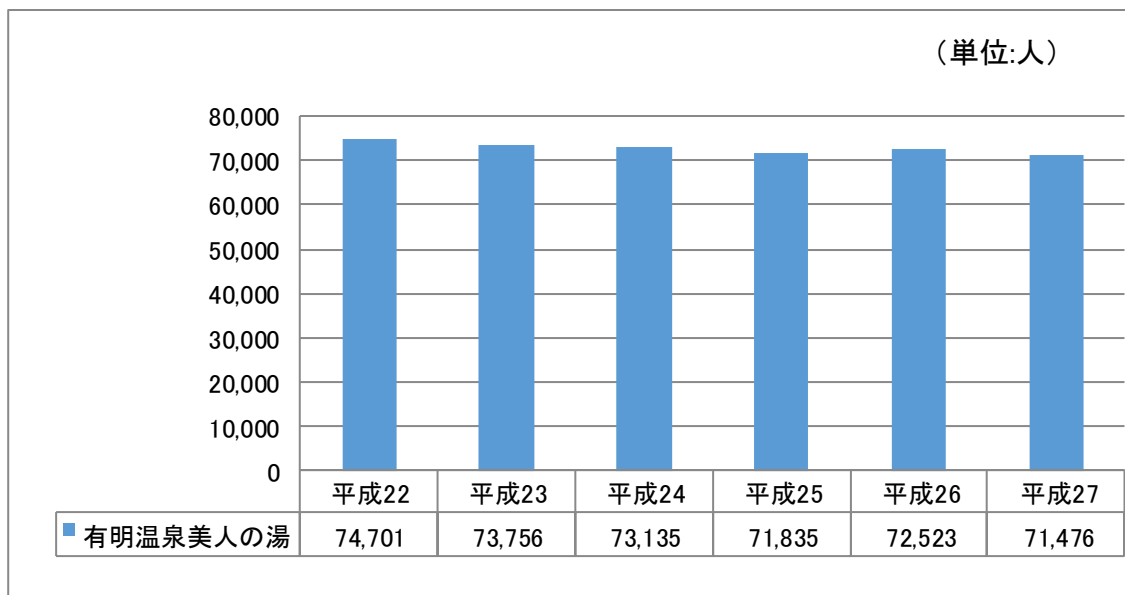
(6) 温泉施設の利用状況

① 島原温泉ゆとろぎの湯（年度別）



島原市中心部の一番街アーケードの近くに、平成20年4月1日オープンした。毎年7万人を超える人が利用している。

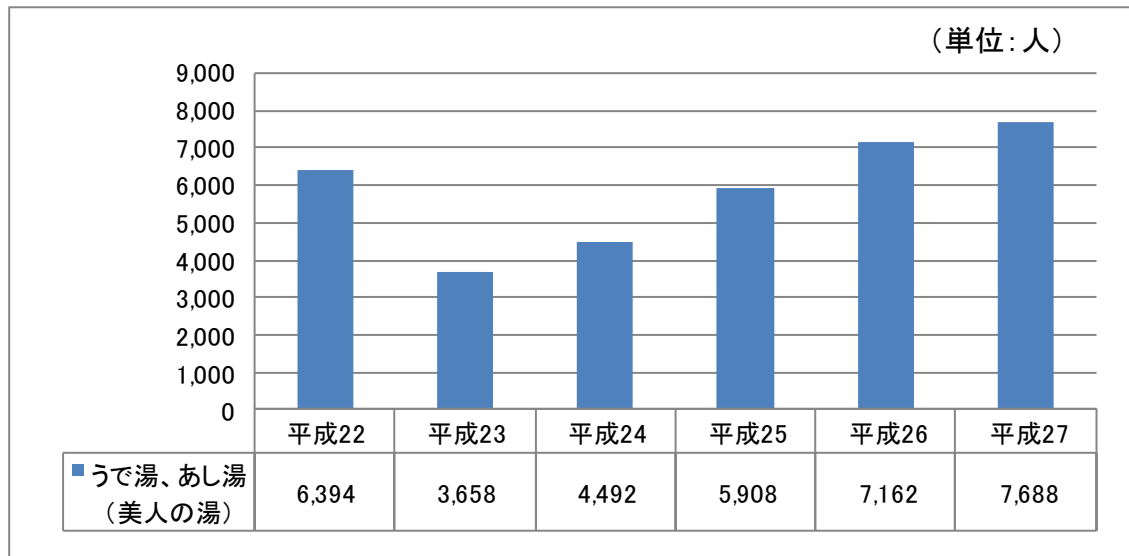
③ 有明温泉美人の湯（年度別）



平成15年12月、有明福祉センター付近で温泉採掘に成功し、その温泉は入浴すると肌がツルツルになることから「美人の湯」と名付けられた。毎年、7万人を超える人が利用している。



④ 年度別うで湯、あし湯（年度別）



有明福祉センターに隣接している無料のうで湯及びあし湯。

平成23年までの利用者は、減少の傾向にあったが、平成24年からは徐々に増加している。

④ 島原温泉の特徴

島原温泉（2源泉の混合泉） 元池源泉と観音島源泉を3：7の割合で混合

泉質：マグネシウム・ナトリウム－炭酸水素塩温泉、泉温：61.8℃ 加温
前泉温30.1℃

【参考】

雲仙温泉

泉質：酸性硫黄泉

小浜温泉

泉質：塩化物泉、泉温：105℃



(7) 島原の郷土料理、特産品、名品ブランド

① 郷土料理

ア ガンバ（ふぐ）料理

ガンバ料理の代表格と言えば「湯引き」と「ガネ炊き」です。「湯引き」は厚切りにした身をさっと湯通しして、氷水で身を引きしめます。タレはダイダイ酢（なければポン酢）。薬味には地元で「フクシュ」と呼ばれるニンニクの茎のほか、梅干し、ネギ、モミジおろしなどを使います。「ガネ炊き」は余った骨の部分を使用します。通常の煮付けと違って、煮汁にそのまま浸けずに「乾煎り」するのがコツです。そのときに出るアブクが「まるで蟹のようだ」ということから名前が付いたと言われています。炊き合わせの材料はタケノコやフクシュ、梅干しなどです。



イ ガネ（カニ）料理

「ワタリガニ」のことを地元では「ガネ」と呼びます。調理方法はいたってシンプル。お湯を沸かしながら 20 分ほど茹でれば、極上の味ができ上がります。その際に注意しなければならないのは、しっかりと脚の部分をくくりつけておくこと。最初から熱湯に浸けないこともポイントです。甲羅に日本酒の熱燗を注ぎ込んでいただく「ツザケ」の味はまた格別。一杯目はそのまま。二杯目からは柿色がかった「セキ」を溶かしながらいただきます。

ウ 寒ざらし

いわゆる「しらたま団子」のことですが、浜の川の「銀水」がテレビ番組等で幾度となく紹介されたことで「かんざらし」の名前は一躍全国版となりました。タレは蜂蜜、シロップなどで作りますが、最終的な味付けはその店の秘伝。島原城や武家屋敷の売店のほか、市内飲食店でも食べられます。



エ 具雑煮

島原郷土料理の代表格。正月の雑煮は各地で色々と違いますが、島原地方の雑煮は具がたくさんで、山の幸、海の幸がいっぱい盛り込まれていて、豊かな島原の産物を集大成したようなものです。また、一説には、何と、その考案者は一揆軍の総大将、天草四郎時貞、とも言われています。材料は、鶏肉、アナゴ、シロナ、レンコン、ゴボウ、凍り豆腐、椎茸、卵焼き、丸もち、春菊など十数種類。平成 19 年には、農林水産省の「農山漁村の郷土料理百選」に卓袱料理と並び選定されています。

オ 島原手延べそうめん

島原の乱の後、瀬戸内海の小豆島などから移住してきた人々によって製造がはじまった、とされています。手延べ素麺は小麦、塩、綿実油、水を原料として製造されます。熟成の時間も必要となるため、1 回の製造に 1～2 日かかります。厳選された小麦粉を用いるのはいうまでもありませんが、粉を見極め、その性質を最大限に生かしながら最高の状態のめんに仕上げていくのが伝統の技術です。島原手延べそうめんの特徴は何といっても腰の強さです。夏の暑い日に食べる冷やしそうめんも最高ですが、地獄そうめんを作る時のように、煮込んでもなかなか煮崩れないのが自慢です。



カ ろくべえ

かつて島原一帯が大飢饉に見舞われた際に、名主の六兵衛という人が考え出した、とされる耐乏食です。暖かい気候の島原では早くから甘薯作りが盛んでした。それで凶作も乗り越えることができたそうです。原料のサツマイモの粉に、つなぎに粘性のある山芋を使用しています。見た目は太麺のソバのようですが、甘味があるのが特徴です。ダシはすまし汁で、ねぎや七味唐辛子をかけると美味しさが増します。

② 特産品（農水産物）

ア ガザミ（有明ガネ）

ここでいう「有明ガネ」とは「ワタリガニ」のことを指します。有明海沿岸で獲れ、夏は7月から9月にオスの「ガネ」が、冬は11月から4月に卵を持ったメスの「ガネ」が美味です。一般的な食べ方は塩ゆでで、ぎゅっと詰まった身は甘くて風味豊かです。また、ミソや卵も食通をうならせる味わいです。

イ ガンバ

島原地方の方言では、河豚（ふぐ）のことを総称して「ガンバ」と呼びます。語源は外国語に由来するものを含めて諸説ありますが、あまりに美味しいので、命と引き換えに「鰐（がん）（棺のこと）桶を用意してでも食べたい」（鰐ば→ガンバ）との切なる思いを代弁したもの、との説が一般的です。魚類図鑑等によれば、河豚の種類は100以上あるといわれていますが、日本近海に生息しているのは約50種類。

島原地方で食べられているのは主に、「トラフグ」と「ナシフグ（通称・ムキガンバ）」の二種類です。「ガンバ」料理は秋（彼岸）から春（彼岸）にかけてが、シーズンです。島原の人々は花見の時に、郷土料理の「湯引き」や「ガネ炊き」を持ち込んで酒の肴としています。

ウ 海苔

遠浅で波静かな有明海では昔から、対岸の熊本や福岡、佐賀と競うかのように「海苔」の養殖が盛んに行われています。種付け（菌の植え付け）は十月ごろから始まり、十二月から三月頃にかけて収穫されます。収穫された海苔は、ほとんどが薄い板状に乾燥させた「乾海苔」として出荷されます。軽くあぶった「乾海苔」の香りと食感は食欲をそそります。また、生産施設は「ノリヒビ」と呼ばれ、冬の風物詩ともなっており、写真愛好家にとっては絶好の被写体として高い人気を誇っています。

エ 大根

大地にまっすぐ根をおろし、太くしっかりと育った大根。雲仙・普賢岳の火山灰土を利用した土地は水はけが良く、光沢のあるなめらかな肌の大根となります。実が詰まり甘みがあるので、おでんなどの煮物のほか、サラダなど生食にも適しています。

オ 白菜

白菜は「養生三宝」（白菜、大根、豆腐）と言われる食材の一つ。冬の寒さに負けず雲仙・普賢岳を背景にもつ広大で肥沃な大地の栄養をたっぷり蓄えます。ハウス・トンネル栽培での「春はくさい」の生産が盛んで、全国でも指折りの産地となっています。



カ 人参

そよそよとなびく緑の葉の下は鮮やかな橙赤色の人参。その色の濃さは、βカロチンが豊富な表れです。果肉は、柔らかく甘みを含んでおり、色の美しさゆえ、和風にも洋風にも料理を鮮やかに彩ります。

③ 特産品（工芸品等）

ア 島原焼

島原焼窯元は、昭和60年、南崩山町に創業した窯元です。生地に島原半島南部の土を使い、釉薬には眉山のセレクト土、みかん灰、わら灰などを使用して食器、茶器、花器などが制作されています。最近では、新たに雲仙・普賢岳の火山灰をそのまま天然の釉薬として用い、落ち着いた色合いの作品を生み出しています。島原焼「流し掛け釉四方大皿」は、平成八年の新春に、皇居応接の間を飾る栄誉を賜っています。

イ 島原木綿

有明町史によると、江戸時代既に「島原木綿」について記されており、大正・昭和初期になると大三東村・湯江村・三会村・杉谷村を中心に盛んに織られ、品質の良い織布は更に足踏み改良機の出現によって、九州一円、関西、朝鮮と販路を広げたと記されています。当時の記録では、県下の機数は1,196台、大三東村だけでも600余台とあります。織りの中心だったことがわかります。その島原木綿も化学繊維の進出、衣料の大量生産時代を迎えたことで人々の記憶からも薄れていきました。

昭和62年の有明町記念行事を契機に島原木綿再現の機運が高まり、数人の婦人によって実現しました。その後保存会が発足し、以後約20年、平成の島原木綿として現在約10数名の会員によって織り継がれています。島原木綿はもともと仕事着として織られ、縞立ては男縞（細）・女縞・若者縞（太）に大別されていました。有明町民族資料館には大正・昭和初期の白縞・紺縞もありますが、多くは縞木綿で占められています。

ウ 和ろうそく

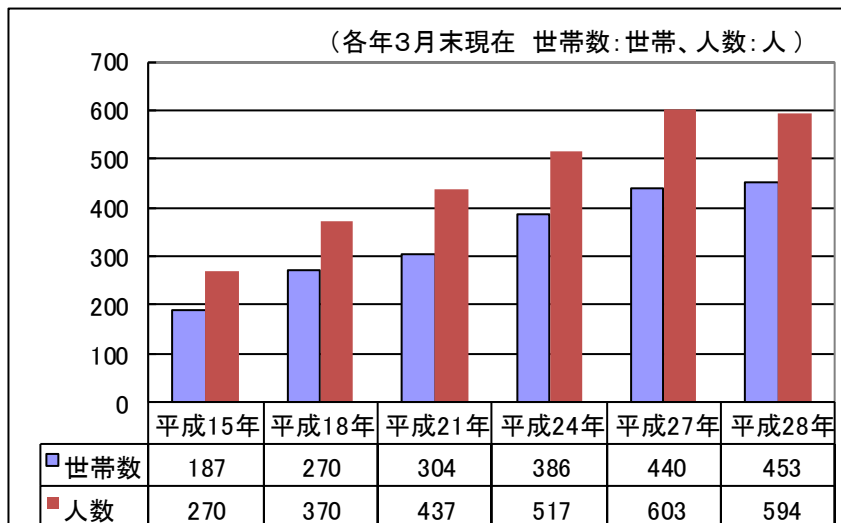
寛政4年（1792）4月、大地震による眉山崩壊で津波が城下町を襲い、その復興に藩財政は大変困っていました。藩ではハゼ・木蠟の増産でその危機を切り抜けています。ハゼの実百万斤の生産体制をとり、大阪商人へ売出して、年7千～9千両の収入を上げていたようです。他の木よりも良質の実が多量に結実する変種が杉谷村で発見され、昭和35年（1960）、その「昭和福ハゼ」は、長崎県の天然記念物に指定されました。その和ろうを郷土の伝統産業として根付かせようとしているところがあります。

県下で唯一、有明町の本多木蠟工業所がそれです。西洋ロウソクは吹けばすぐ消えますが、和ロウソクはゆらぎながらも少々の風では消えません。また、和ろうの用途は、ロウソクはもちろん、化粧品・薬・ボールペン・ビン付け油など多種多様にわたっています。

5. 社会福祉、保健、環境

(1) 生活保護の状況

① 生活保護世帯、人数の推移



本市の生活保護世帯は年々増加傾向にある。無年金や低年金の高齢者の増加、長引く景気の低迷等が増加の要因にある。

② 長崎県及び島原半島の状況（長崎県生活保護速報 H28.9月末）

	実人数(人)	半島における割合(%)	県における割合(%)	人口百人当たり人数(人)
島原市	560	35.7	1.9	1.25
雲仙市	621	39.6	2.1	1.44
南島原市	388	24.7	1.3	0.85
島原半島	1,569		5.3	1.17
長崎県	29,752			2.18

本市の生活保護の実人数及び人口百人当たりの人数については、雲仙市より少なくなっている。長崎県全体と比較すると、実人数に占める割合は約1.9%程度となっている。

(2) 保育園・幼稚園の状況（島原半島3市、H28.5.1現在）

	施設数(園)				半島での施設設置割合(%)	入園児数(人)				半島での入園児数割合(%)
	計	保育所数	幼稚園数	認定こども園数		計	保育園	幼稚園	認定こども園	
島原市	27	21	1	5	31.0	1,898	1,495	1	402	36.1
雲仙市	28	23	0	5	32.2	1,656	1,213	0	443	31.5
南島原市	32	24	1	7	36.8	1,702	1,157	17	528	32.4
合 計	87	68	2	17	100.0	5,256	3,865	18	1,373	100

※施設数は、休園中の園を除く。（島原市：幼稚園1園、雲仙市：保育所2園）

本市では他市と比較して、施設数は最も少ない数値となっているが、入園児数は島原半島3市で最も高い数値となっている。

(3) 医療の状況（長崎県及び島原半島3市）

① 医療施設（H27.10.1現在「医療施設調査」、精神科病院及び一般診療所を含む）

	病院数	病院数の半島 内割合(%)	病院病床数 (床)	病床数の半島 内割合(%)	人口対千人 病床数(床)
島原市	51	40.8	1,329	48.2	29.3
雲仙市	38	30.4	803	29.1	18.3
南島原市	36	28.8	627	22.7	13.5
島原半島	125		2,759		20.3
長崎県	1,554		30,665		22.3

本市の医療施設数（病院、病床）及び人口千人当たりの病床数は、島原半島3市の中では高い数値になっている。また、人口千人当たりの病床数を長崎県全体と比較しても、本市は、施設が充実していることがうかがえる。

② 医師数（H26.12月末現在「医師、歯科医師、薬剤師調査」※2年に1回調査）

	医師数(人)	医師数の半島 内割合(%)	人口対千人 医師数(人)
島原市	114	46.9	2.5
雲仙市	76	31.3	1.7
南島原市	53	21.8	1.1
島原半島	243		1.8
長崎県	4,170		3.0

本市の医師数及び人口千人当たりの医師数は、島原半島では高い数値にあるが、長崎県全体と比較すると、少ない数値となっている。

③ 歯科医院（H27.10.1現在「医療施設調査」）

・医師数（H26.12月末現在「医師、歯科医師、薬剤師調査」※2年に1回調査）

	歯科医院数	医院数の半島 内割合(%)	歯科医師数 (人)	医師数の半島 内割合(%)	人口対千人 歯科医師数(人)
島原市	27	36.5	37	37.4	0.8
雲仙市	22	29.7	32	32.3	0.7
南島原市	25	33.8	30	30.3	0.6
島原半島	74		99		0.7
長崎県	744		1,224		0.9

本市の歯科医師数及び人口千人当たりの歯科医師数は、島原半島では一番高い数値になっているが、長崎県全体と比較すると、同程度の数値となっている。

④ 薬剤師の状況（H26.12月末現在「医師、歯科医師、薬剤師調査」※2年に1回調査）

	薬剤師数(人)	薬剤師数の半 島内割合(%)	人口対千人 薬剤師数(人)
島原市	97	50.2	2.1
雲仙市	48	24.9	1.1
南島原市	48	24.9	1.0
島原半島	193		1.4
長崎県	2,834		2.0

本市の薬剤師数及び人口千人当たりの薬剤師数については、3市の中では一番高い数値になっている。長崎県全体と比較すると、同程度の数値となっている。

(4) ゴミの状況（長崎県及び島原半島3市）

① 年間排出の状況（※平成26年度 一般廃棄物処理実態調査結果）

	年間排出量(t)	一人1日当たり排出量(g)	リサイクル率(%)
島原市	20,342	1,175	21.2
雲仙市	15,319	901	14.7
南島原市	16,627	915	17.6
島原半島	52,288	997	17.8
長崎県	493,117	955	15.8

本市のゴミの排出量は、長崎県及び島原半島の他市と比較して高い数値となっているが、リサイクル率も高い数値となっている。

※リサイクル率とは、廃棄物からの資源回収率をいう。



6. 教育、文化

(1) 小学校の状況（平成27年度教育統計調査報告）

① 学校数、児童数（島原半島3市及び長崎県）

	学校数	学校数半島 内割合(%)	児童数(人)	児童数半島 内割合(%)	人口対千人 児童数(人)
島原市	10	18.9	2,340	34.0	51.5
雲仙市	20	37.7	2,269	33.0	51.6
南島原市	23	43.4	2,273	33.0	48.7
島原半島	53		6,882		50.6
長崎県	358		73,082		53.1

本市の小学校数は、島原半島3市の中で一番少ない。児童数は3市とも大きな差はない。人口千人当たりの児童数も、長崎県及び島原半島と比較しても大きな差はない状態である。

② 教員数（島原半島3市及び長崎県）

	教員数(人)	教員1人当たり 児童数(人)
島原市	169	13.8
雲仙市	229	9.9
南島原市	234	9.7
島原半島	632	10.9
長崎県	5,429	13.5

本市の教員1人当たりの児童数は、長崎県及び島原半島3市と比較して高い数値となっている。

(2) 中学校の状況（平成27年度教育統計調査報告）

① 学校数、生徒数（島原半島3市及び長崎県）

	学校数	学校数半島 内割合(%)	生徒数(人)	生徒数半島 内割合(%)	人口対千人 生徒数(人)
島原市	5	25.0	1,288	33.3	28.4
雲仙市	7	35.0	1,238	32.0	28.1
南島原市	8	40.0	1,338	34.6	28.7
島原半島	20		3,864		28.4
長崎県	193		39,629		28.8

本市の中学校数は、島原半島3市の中で一番少ない。生徒数は3市とも大きな差はない。人口千人当たりの児童数も、長崎県及び島原半3市と比較しても大きな差はない状態である。

② 教員数（島原半島3市及び長崎県）

	教員数(人)	教員1人当たり 生徒数(人)
島原市	104	12.4
雲仙市	112	11.1
南島原市	127	10.5
島原半島	343	11.3
長崎県	3,442	11.5

本市の教員1人当たりの生徒数は、長崎県及び島原半島3市と比較して高い数値となっている。

(3) 高等学校の状況（平成27年度教育統計調査報告）

① 学校数、生徒数（島原半島3市及び長崎県）

	学校数	学校数半島 内割合(%)	生徒数(人)	生徒数半島 内割合(%)
島原市	5	55.6	2,101	67.1
雲仙市	2	22.2	514	16.4
南島原市	2	22.2	515	16.5
島原半島	9		3,130	
長崎県	79		40,330	

本市の高等学校数は、島原半島3市の中で一番多い。なお、人口千人当たりの生徒数については、他市からの生徒もいるため、計算していない。

② 教員数（島原半島3市及び長崎県）

	教員数(人)	教員1人当 たり生徒数(人)
島原市	176	11.9
雲仙市	59	8.7
南島原市	64	8.0
島原半島	299	10.5
長崎県	3,286	12.3

高等学校教員1人当たりの生徒数は、長崎県とは大きな差はないが、島原半島3市と比較すると高い数値となっている。

(4) 特別支援学校の状況（※平成27年度教育統計調査報告）

	島原市	長崎県	県内割合(%)
学校数	1	18	5.6
生徒数	125	1,502	8.3
教員数	84	1,025	8.2
教員1人当たり生徒数	1.5	1.5	

本市には、特別支援学校数は1校が設立されている。

(5) 図書館の状況（※長崎県立長崎図書館HP「県内市町立図書館等の現状」）

① 図書館、図書室等及び登録者（島原半島3市及び長崎県 H28.3末現在）

	公立図書館数	公民館図書室 等数	登録者数(人)	人口千人当 たり登録者(人)
島原市	2	5	49,714	1,108.4
雲仙市	1	6	13,717	316.6
南島原市	6	2	20,652	450.1
島原半島	9	13	84,083	627.2
長崎県	37	145	714,804	523.2

（注：長崎県は県立図書館を除く市町の分の合計）

本市は図書館を2館設置しており、人口千人あたり登録者（該当市以外の住民を含む）については、3市の中で一番高い数値となっている。

② 蔵書数、貸し出し冊数（島原半島3市及び長崎県 H28.3月末現在）

	蔵書数	蔵書数半島 内割合(%)	人口1人当 り蔵書冊数	年間貸し出し 冊数	人口1人当 たり 貸し出し冊数
島原市	212,742	24.5	4.7	247,141	5.5
雲仙市	157,997	18.2	3.6	179,418	4.1
南島原市	498,967	57.4	10.8	468,661	10.2
島原半島	869,706		6.5	895,220	6.7
長崎県	5,143,194		3.7	7,114,987	5.2

（注：長崎県は県立図書館を除く市町分の合計）

本市の人口1人当たり蔵書数は、長崎県全体と比較すると高い数値となっているが、島原半島全体と比較すると低い数値となっている。また、人口1人当たりの貸し出し冊数についても、長崎県全体と比較すると同様の数値となっているが、島原半島全体と比較すると低い数値となっている。

(6) 文化財の状況

① 指定文化財の状況（H28.12月末現在）

国指定文化財数	5
県指定文化財数	11
市指定文化財数	78

	区別	種 別	名 称	所 在	指定時
1	国	特別名勝	温泉岳	温泉岳国有林	S27.3.29
2	国	天然記念物	普賢岳紅葉樹林	温泉岳国有林	S3.3.31
3	国	天然記念物	野岳いぬつけ群落	温泉岳国有林	S3.3.31
4	国	史跡	旧島原藩薬園跡	小山町4703	S4.4.2
5	国	天然記念物	平成新山	三会・安中温泉岳国有林	H16.4.5
6	県	史跡	まだれいな銘キリシタン墓碑	山寺町 共同墓地	S2.11.8
7	県	天然記念物	有明町の大樟	有明町大三東甲2114	S33.6.5
8	県	天然記念物	熊野神社の大クス	杉山町	S35.7.13
9	県	天然記念物	熊野神社の大ムク	杉山町	S35.7.13
10	県	天然記念物	島原イチゴ自生地	南千本木町	S35.3.22
11	県	有形文化財 (歴史資料)	混一疆理歴代国都地図	本光寺	H11.2.17
12	県	有形文化財 (歴史資料)	日本大地図3鋪(一組)	本光寺	H17.3.25
13	県	有形文化財 (考古資料)	景華園遺跡出土の一括遺物百二十二点	城内一丁目 島原図書館	H18.3.3
14	県	有形文化財 (工芸品)	刀 折返銘 神氣 附 本阿弥光温折紙一通	城内一丁目 島原城	H19.8.31
15	県	有形文化財 (典籍)	肥前島原松平文庫	城内一丁目 島原図書館	H25.3.29
16	県	史跡	島原城跡	城内一丁目1181-5ほか	H28.2.28

7. 市民生活

(1) 居住、安全

【消防関係（平成28年度版「消防年報」 島原地域広域市町村圏組合消防本部）】

項 目	数 値	単 位	備 考
消防団員数	631	人	H28.4.1現在
消防団員数 (人口千人当たり)	13.59	人	
年間出火件数	15	件	平成27年中実績

【交通関係（平成27年「交通統計」 長崎県警察本部）】

項 目	数 値	単 位	備 考
交通事故発生件数	192	件	平成27年中実績 (雲仙市 214件、南島原市 109件)
交通事故発生件数 (人口千人当たり)	4.24	件	平成28年1月1日現在 45,293人
交通事故発生件数 (1日当たり)	0.53	件	

【刑法犯関係（島原警察署生活安全課聞き取り）】

項 目	数 値	単 位	備 考
年間刑法犯認知件数	196	件	平成27年中実績 (雲仙市 146件、南島原市 91件)
刑法犯認知件数 (人口千人当たり)	4.33	件	平成28年1月1日現在 45,293人 (平成27年「交通統計」)
刑法犯認知件数 (1日当たり)	0.54	件	

【自主防災会関係】

項 目	数 値	単 位	備 考
自主防災会数	228	団体	
自主防災会組織率	100	%	平成28年4月1日現在

(2) 水道

水道事業

(※平成28年3月31日現在)

項 目	数 値	単 位	備 考
給水人口	45,731	人	雲仙市 42,845人 南島原市 43,816人
給水率	99.3	%	94.6% 98.7%
年間給水量	6,418,455	m ³	5,937,229 m ³ 5,240,590 m ³
年間給水量 (1世帯1日当たり)	873	ℓ	981 ℓ 782 ℓ

(3) 町内会・自治会

【町内会・自治会】

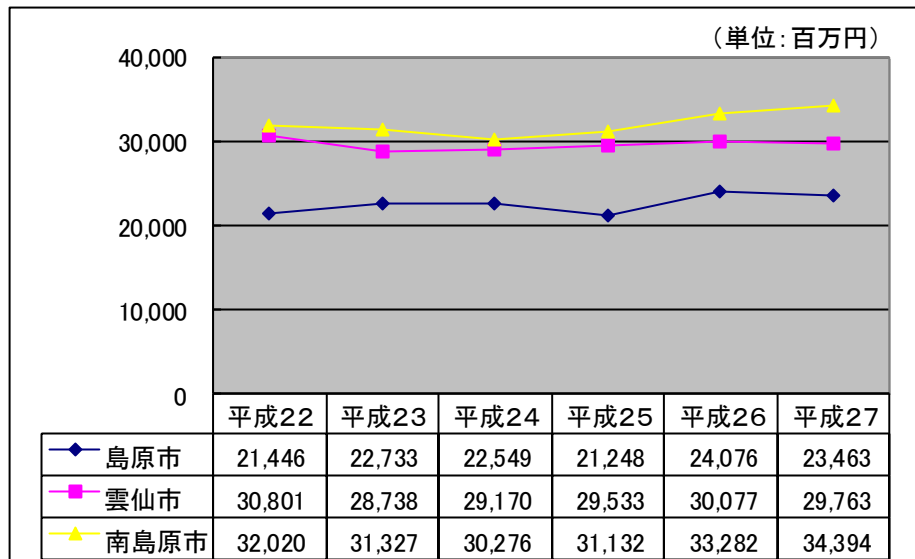
項 目	数 値	単位	備 考
町内会・自治会数	228	団体	平成28年4月現在
自治公民館等数	112	館	
自治公民館設置率	49.1	%	
町内会・自治会 加入世帯	13,731	世帯	平成28年5月現在
町内会・自治会 加入率	70.3	%	平成28年5月現在



8. 財政

(1) 歳入、歳出

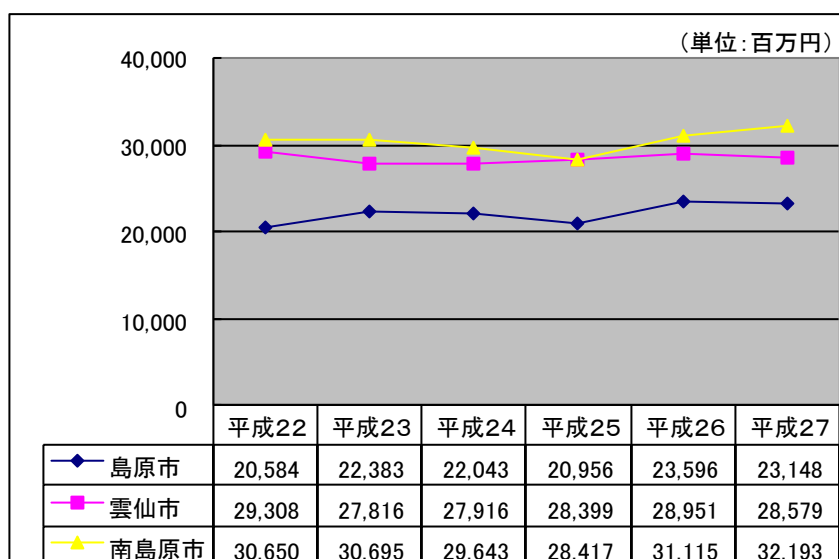
① 歳入決算の状況（島原半島3市）



【長崎県及び島原半島における歳入決算の割合（単位：百万円）】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
県内市町	748,416	734,879	741,143	743,320	758,988	755,952
本市の割合	2.9%	3.1%	3.0%	2.9%	3.2%	3.1%
島原半島	84,267	82,798	81,995	81,913	87,435	87,620
本市の割合	25.5%	27.5%	27.5%	25.9%	27.5%	26.8%

② 歳出決算の状況（島原半島3市）



【長崎県及び島原半島における歳出決算の割合（単位：百万円）】

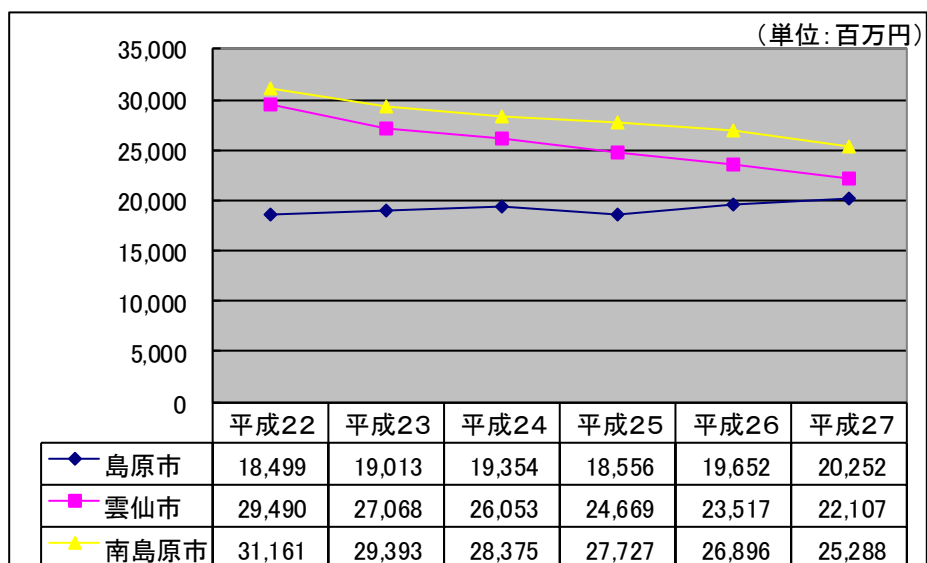
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
県内市町	728,347	717,228	722,952	721,340	739,781	731,738
本市の割合	2.8%	3.1%	3.0%	2.9%	3.2%	3.2%
島原半島	80,542	80,894	79,602	77,772	83,662	83,920
本市の割合	25.6%	27.7%	27.7%	26.9%	28.2%	27.6%

【人口1人当たり歳出決算額（平成27年度）】

	歳出決算額(単位:千円)
島原市	498.5
雲仙市	631.0
南島原市	666.5

(2) 地方債、積立金

① 地方債現在高（島原半島3市）



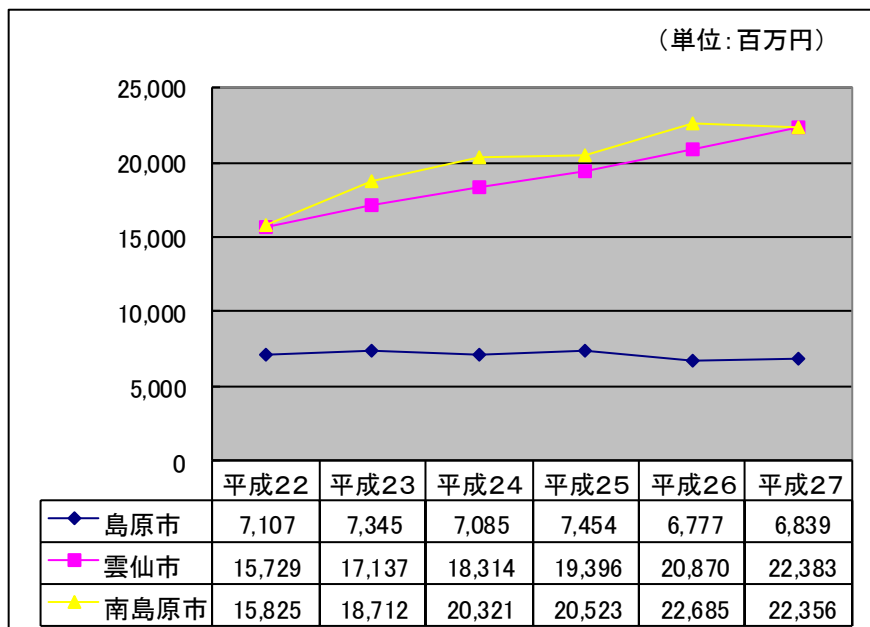
【長崎県及び島原半島における地方債現在高の割合（単位：百万円）】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
県内市町	803,625	787,865	781,162	779,900	782,346	774,673
本市の割合	2.3%	2.4%	2.5%	2.4%	2.5%	2.6%
島原半島	79,150	75,474	73,782	70,952	70,065	67,647
本市の割合	23.4%	25.2%	26.2%	26.2%	28.0%	29.9%

【人口1人当たり地方債現在高（平成27年度）】

	地方債現在高(単位:千円)
島原市	436
雲仙市	488
南島原市	524

② 積立金現在高（島原半島3市）



【長崎県及び島原半島における積立金現在高の割合（単位：百万円）】

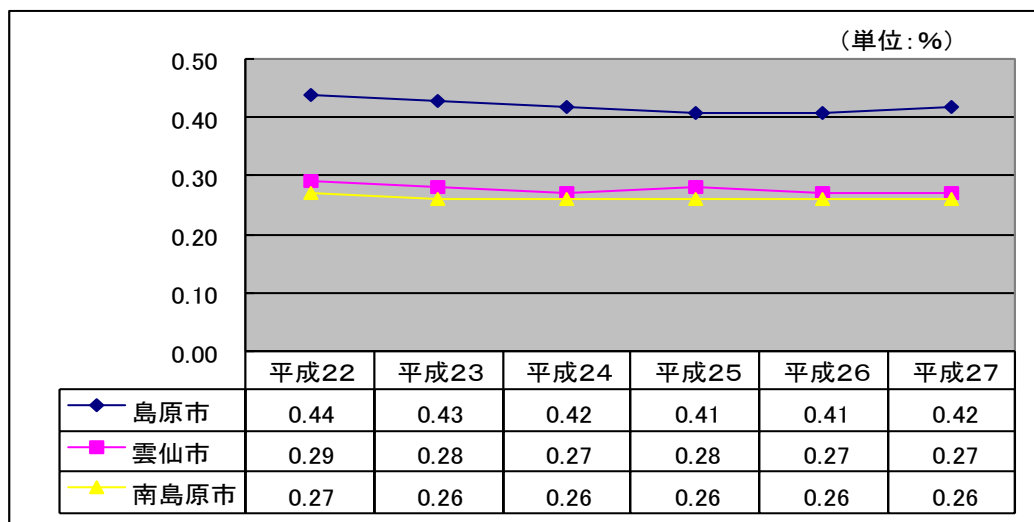
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
県内市町	185,181	200,275	208,482	223,173	237,186	256,365
本市の割合	3.8%	3.7%	3.4%	3.3%	2.9%	2.7%
島原半島	38,661	43,194	45,720	47,373	50,332	51,578
本市の割合	18.4%	17.0%	15.5%	15.7%	13.5%	13.3%

【人口1人当たり積立金現在高（平成27年度）】

	積立金現在高(単位:千円)
島原市	147
雲仙市	494
南島原市	463

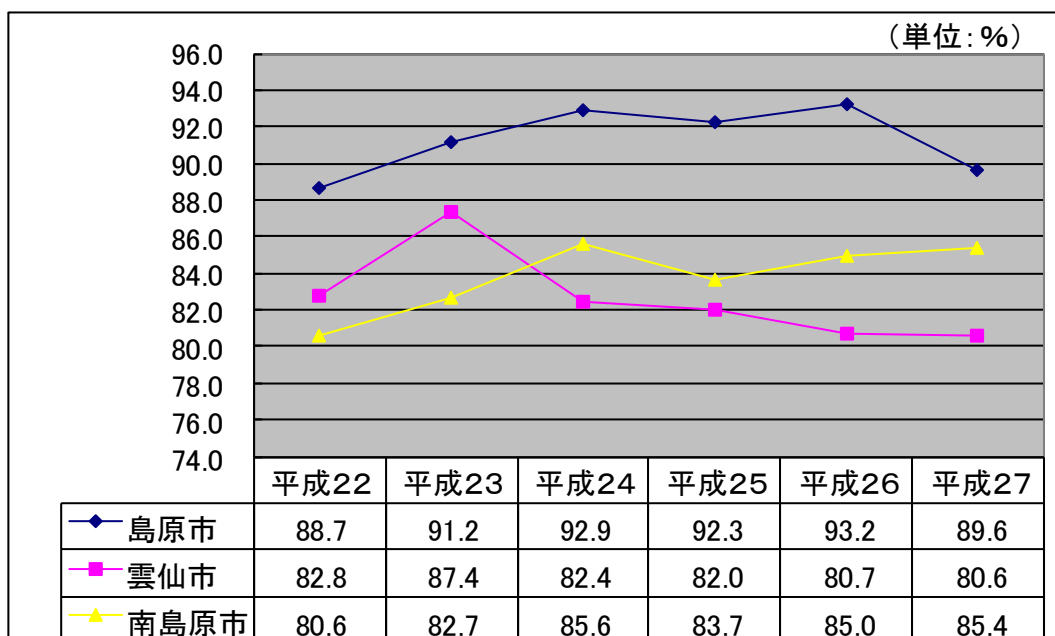
(3) 各種指数

① 財政力指数（島原半島3市）



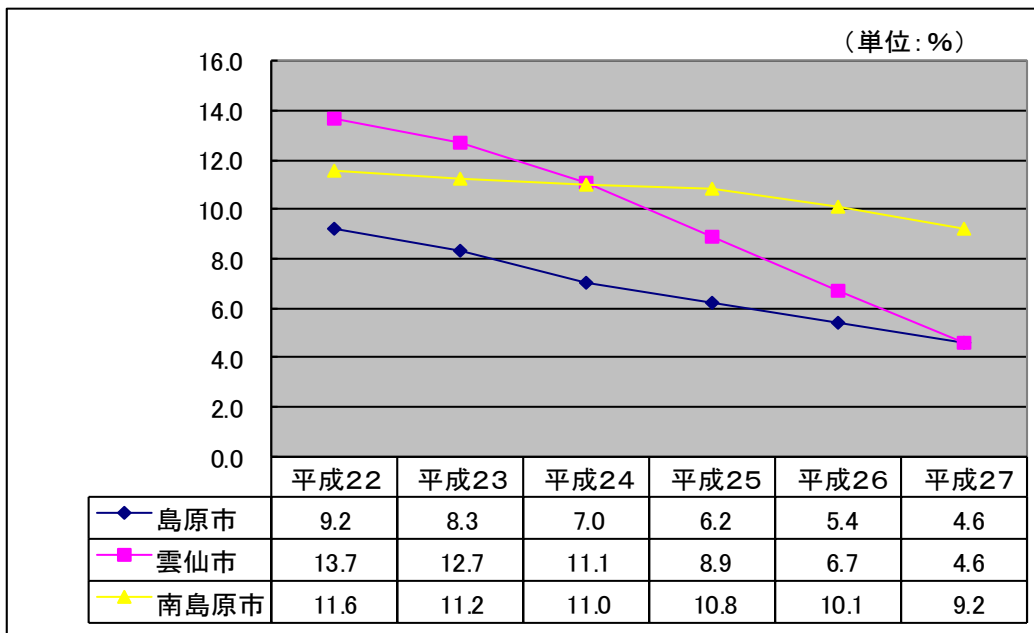
財政力指数とは、自主財源の割合が高いほど高くなるもので、財政力の強い団体となる。

② 経常収支比率（島原半島3市）



経常収支比率とは、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標であり、比率が高くなると弾力性を失いつつある状態となる。

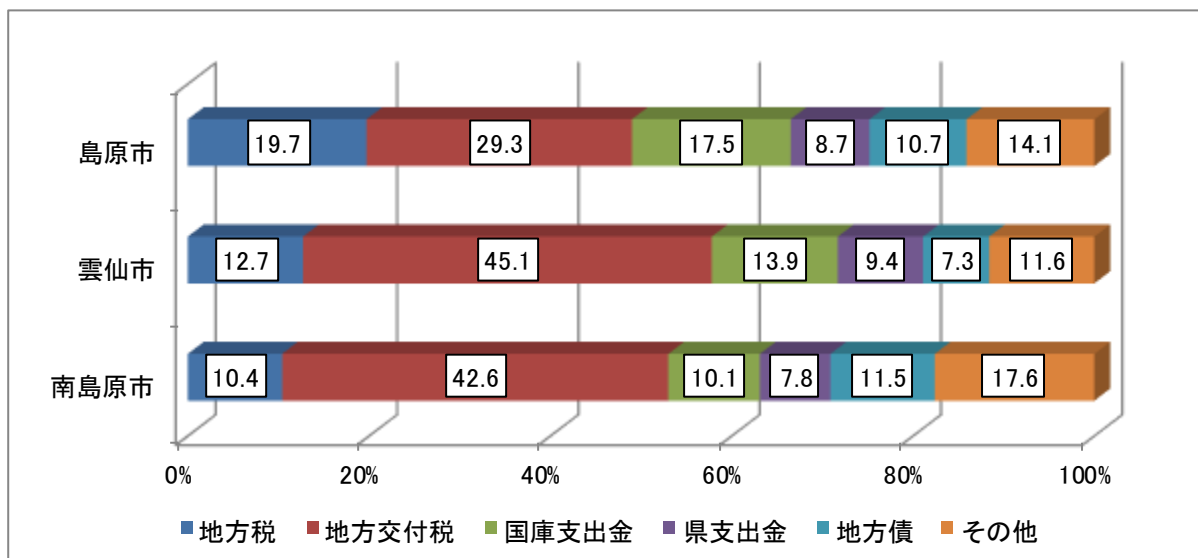
③ 実質公債費比率（島原半島 3 市）



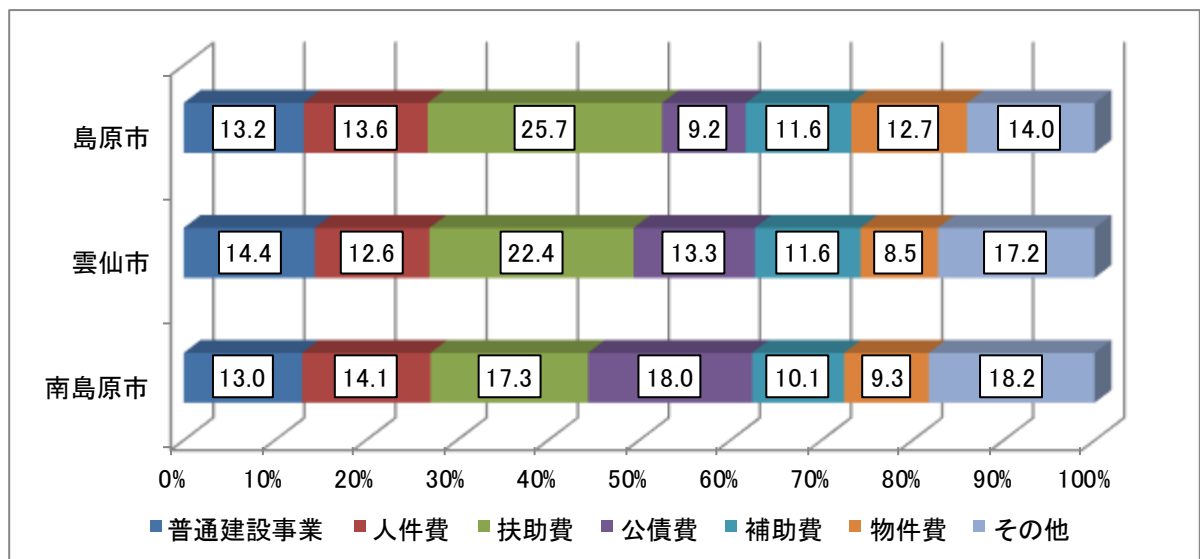
実質公債費比率とは、一般会計などの実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示し、低いほど健全といえる。

(4) 平成 2 7 年度決算内訳の比較

① 歳入決算（島原半島 3 市）



② 歳出決算（島原半島 3 市）



9. 市政の状況

(1) 国、県の指定状況

① 雲仙天草国立公園（自然公園）「※県ホームページ 長崎県の自然公園より」

昭和9年3月16日に国立公園に指定された。雲仙地域については雲仙火山のほぼ全域を含む我が国屈指の火山景観を中心とした我が国最初の国立公園である。

面積 12,858ヘクタール（海域を除く）

② 島原半島県立公園（自然公園）「※県ホームページ 長崎県の自然公園より」

昭和45年1月20日に県立自然公園に指定された。島原半島周辺の変化に富んだ海岸線と、雲仙天草国立公園の周縁部及び史跡を中心とし、千々石断層や愛野地峡の雄大な景観、雲仙火山の関係する溶岩円頂の猿葉山、眉山崩壊によってできた九十九島、火山性山麓扇状地の礫石原、百花台等の特徴的な景観が見られる。

面積 1,835ヘクタール（海域を除く）

(2) 今後予定されている大型事業

① 島原城築城400周年

1618年（元和4年）松倉豊後守重政が築城開始し、1624年（寛和元年）に7年の歳月をかけて築いたとされ、2024年（平成36年）に築城400周年を迎える。

② 市役所新庁舎建設

本市では平成31年度の完成を目指して、新庁舎建設事業を進めている。



10. 我がまち自慢



(1) 島原市の日本一、日本初など全国ランクで上位に該当するもの

① 白土湖

日本で一番小さい陥没湖

② 平成新山

日本で一番新しい山

③ 舞岳ふれあいロード

八八八八の遊歩道の段数は日本一

④ 水無川砂防事業

全国初の無人化機械施工

⑦ ジオパーク国際ユネスコ会議（平成24年5月）

日本で初めての開催

⑥ 火山都市国際会議

アジア（日本）で初めての開催

⑦ 島原半島ジオパーク

「日本ジオパーク」国内認定第1号（平成20年10月）

「世界ジオパーク」国内認定第1号（平成21年8月）



⑧ 雲仙天草国立公園（自然公園）

日本で最初に指定された国立公園（昭和9年）

⑨ 自衛隊災害派遣日数（雲仙・普賢岳噴火災害時）

1,658日（平成3年6月3日から平成7年12月16日まで）は災害派遣として過去最長。（※参考 第2位は、阪神淡路大震災の101日）

⑩ 第10回全国和牛能力共進会（平成24年10月開催）

「肉牛の部」第8区（若雄後代検定牛群）において、本市から出品された長崎県の代表牛が「優等賞一席」に輝く。さらに、「肉牛の部」における最高賞にあたる名誉賞（内閣総理大臣賞）も重ねて受賞。

⑪ だいこんの年間産出額（平成18年）

年間産出額 142千万円は全国で第4位

⑫ はくさいの年間産出額（平成18年）

年間産出額 76千万円は全国で第8位

⑬ にんじんの年間産出額（平成18年）

年間産出額 117千万円は全国で第9位

⑭ 眉山

日本三大難山の一つ（他は妙義山（群馬県）と茶臼山（長野県））

(2) 島原市の長崎県一、長崎県初など県ランクで上位に該当するもの

① 市制

長崎県内では市制施行3番目

昭和15年4月、長崎県下で3番目に市制を施行。平成27年4月1日で75周年を迎えた。昭和30年には三会村と、平成18年1月1日には有明町と合併し平成28年1月1日で10周年を迎えた。

② 鶏卵年間産出額（平成18年）

年間産出額 279 千万円は県下で第1位

③ 島原市島原湊

坂本龍馬長崎初上陸地

④ 豚の年間産出額（平成18年）

年間産出額 239 千万円は県下で第2位

⑤ のりの収穫量（平成23年）

年間産出量 17,465千枚は、県下で第1位

(3) その他

① 島原新聞

全国でも2、3紙しかない100年以上続いている地方紙で、前身は明治32年、「開国新聞」という名で月3回発行され、戦時中は言論統制により「長崎日報」に統合されたが、昭和21年12月、再び「島原新聞」として復刊された。

島原新聞は100年余り、地元に着した紙面作りに徹し、島原地方の政治・経済・文化などが多く記載されており、近現代史料の宝庫となっている。

② 島原鉄道

明治41年（1908年）5月創立

明治44年（1911年）開業「諫早－愛野間」

大正2年（1913年）開通「諫早－島原湊間」

島鉄の開業時の蒸気機関車は、鉄道院から譲り受けた鉄道院150型（1号機関車）。

これは、日本で最初の鉄道開業のため輸入された第1号機で、歴史の教科書にも出てくる新橋－横浜間の鉄道開業に使用された機関車である。その後、昭和5年に鉄道省に返還、現在は、さいたま市にある鉄道博物館に展示され、重要文化財となっている。現在の1号機関車の左サイドタンクには、当時の植木元太郎島鉄社長直筆の「惜別感無量」の銘板が今も装着されている。

ちなみに植木元太郎氏は、島原市の初代市長を務められ、島原市霊丘公園内に植木氏の銅像が設置されている。

